1年

内容解説資料

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
４月	はるが　きた ２時間（話・聞②） ◎互いの話に関心をもつことができる。(思・判・表A(1)オ) ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ■絵を見て話したり応答したりする。 ☆学校生活（生活科）	1 ～ 2		【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもっている。(A(1)オ) 【態】進んで友達の話に関心をもち、これまでの経験をいかして話したり応答したりしようとしている。
４月	さあ　はじめよう			
	おはなし　ききたいな ２時間（読②） ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知･技(3)エ) 〇文章の内容と自分の体験とを結び付けて､感想をもつことができる。(思･判・表C(1)オ) ■読み聞かせを聞いて楽しむ。	1 2		【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3)エ) 【思・判・表】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) 【態】積極的にいろいろな本を手に取り、これまでの経験をいかして読み聞かせを楽しもうとしている。
	なんて　いおうかな ２時間（話・聞②） ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) 〇丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。(知・技(1)キ) 〇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ■場面に応じた言葉や動作を考えて、伝え合う。 ☆先生や友達などの多くの人と親しみをもって関わって学校生活を楽しむことや、場に応じた挨拶に関わる題材（道徳）	1 ～ 2	・教師に対する言葉遣いと友達どうしの言葉遣いの違いを考える。	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。（(1)キ） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ) 【態】経験を基に積極的に言うことを考え、学習課題に沿って自分の考えを伝えようとしている。
	かく　こと　たのしいな １時間（知・技①） ◎平仮名を読み、書くことができる。（知・技(1)ウ） ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くことができる。(知・技(3)ウ) ■正しい姿勢や鉛筆の持ち方を意識して書く。 ☆正しい姿勢と鉛筆の持ち方（書写）	1		【知・技】 ・平仮名を読み、書いている。((1)ウ) ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書いている。((3)ウ) 【態】正しい姿勢や鉛筆の持ち方で書くことに粘り強く取り組み、自分なりに、字を書く際に気をつけたいことを見つけようとしている。
	どうぞ　よろしく ３時間（話・聞②、書①） ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・	1	・姿勢や鉛筆の持ち方を唱え歌で確認しながらP17に自分の名前を書く。	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。（(1)キ） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」におい

	表A(1)ア） ○経験したことから書くことを見つけ、伝えたい事柄を明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。（知・技(1)キ） ■名前カードを使って友達と交流する。 ☆互いを知り、新しい仲間をつくる題材（生活科） ☆好きなものの絵を描く活動（図画工作）	2 3	・分からない文字は、教師にきく。 ・カードに自分の名前を丁寧に書く。（好きなものの絵等を描いてもよい。） ・挨拶、名前、好きなもの等を伝え合い、たくさんの友達と交流する。	て、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア） ・「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、伝えたい事柄を明確にしている。(B(1)ア） 【態】積極的に自分の名前を書いたり好きなものを考えたりし、これまでの経験をいかして友達と交流しようとしている。
	こんな　もの　みつけたよ ２時間（話・聞②） ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。（知・技(1)キ） ■見つけたものや思ったことを友達に紹介する。 ☆学校探検（生活科）	1 ～ 2	・みんなの前で話すときの言葉遣いを考えて話す。	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。（(1)キ） 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア） 【態】紹介したい事柄を積極的に選び、学習課題に沿って見つけたものをより分かりやすく紹介しようとしている。
	うたに　あわせて　あいうえお ２時間（知・技②） ◎姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ） ■音読する。 ■正しい筆順で文字を書く。 ☆歌を通して正しい発声を身につける題材（音楽）	1 2	・姿勢、口形、発声、リズム等に気をつける。 ・全員、グループ等いろいろな形態で読む。 ・体を動かしたり、手足でリズムをとったりして読む。 ・青い部分が一画目であることに気をつける。 ・P22-23のマス目に、筆順に気をつけて「あ、い、う、え、お」を書く。	【知・技】 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（(1)イ） ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。（(3)イ） 【態】進んで姿勢や口形、発声や発音に注意し、学習課題に沿って音読しようとしている。
５月	ことばの　たいそう　　各配当時間を15分ずつなどに分割して扱ってもよい。			
	こえに　だして　よもう １時間（読①） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■詩を音読する。 ■想像を広げながら詩を読む。	1	・声の大きさやリズムを工夫してはっきりと読む。	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク） 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ） 【態】進んで詩に描かれた様子を想像し、これまでの学習をいかして音読しようとしている。
	よく　きいて、はなそう ２時間（話・聞②） ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。（思・判・表A(1)エ） ○言葉には、事物の内容を表す働きや、	1 ～ 2	・P27の挿絵を参考に、話し手を見て話を聞くことを知る。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。（(1)ア） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工

	経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知･技(1)ア) ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ■応答したり、感想を伝えたりする。			夫している。(A(1)ウ) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ) 【態】興味をもって進んで友達の話を聞き、より伝わる話し方を考えながら、みんなに知らせようとしている。
	ことばを　さがそう ２時間（知・技②） ◎音節と文字との関係に気づくことができる。(知・技(1)イ) ◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ■言葉集めをする。	1 ～ 2	・手を打ちながら１音節１文字であることに気づき、２文字３文字４文字の言葉等があることを知る。 ・「あ」で始まる教科書以外の言葉集めをする。 ・手を打ちながら、文字数を意識する。 ・これまでに習った文字を使って言葉を見つけて、ノートに書く。	【知・技】 ・音節と文字との関係に気づいている。((1)イ) ・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【態】語句の音節と文字との関係を積極的に理解し、これまでの学習をいかして言葉を集めようとしている。
５月	はなの　みち ６時間（読⑥） ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ) ■想像を広げながら物語を読む。 ■物語の音読をする。 ☆動植物や自然に親しむことに関わる題材（道徳） ☆植物の種をまき育てることに関わる題材（生活科）	1 2 ～ 5 6	・教師の後について全文を音読する。 ・挿絵と本文を対応させながら、登場人物の行動や様子を考える。 ・挿絵のワークシートにぬり絵をしながら、季節に気づいたり場面の様子について想像を広げたりする。 ・二人組で音読を聞き合い、感想を伝え合う。	【知・技】 ・敬体で書かれた文章に慣れている。((1)キ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) 【態】興味をもって進んでお話の内容を捉え、学習課題に沿って友達と協力して音読しようとしている。
５月	としょかんへ　いこう ２時間（知・技②） ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知･技(3)エ) ■学校図書館で好きな本を選んで読書に親しむ。 ☆好きな本を見つけたり、司書の方にきいたりする活動（図書館活用）	1 ～ 2	・図書館巡りをして、図書館の様子を知る。 ・たくさんの本があることに気づく。 ・みんなの本であることに気づき、大切に扱うことや静かに読むこと等の約束を知る。 ・読み終わったら元の場所に返すことを知る。	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3)エ) 【態】積極的に図書館について知ろうとし、学習課題に沿って読みたい本を見つけようとしている。
５月	かきと　かぎ ２時間（知・技②） ◎平仮名を読み、書くことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	1 ～ 2	・清音と濁音と半濁音の平仮名をノートに書く。	【知・技】平仮名を読み、書いている。((1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】進んで濁音を含む言葉を見つけ、これまでの学習をいかして文字で表そうとしている。

５月	ぶんを　つくろう **４時間（書④）** **◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ）** **○句点の打ち方を理解して文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ）** **○語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ）** **■主語と述語を意識して文を書く。**	1 〜 2 3 〜 4	・主語や述語に注意し、「――が――。」「――は――。」の文型であることに気づく。 ・主語・述語・句点を意識して、P42の文を視写する。	【知・技】 ・句点の打ち方を理解して文の中で使っている。((1)ウ) ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ) 【態】語と語との続き方を丁寧に確かめながら、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
５月	ねこと　ねっこ **２時間（書②）** **◎促音の表記、助詞の「を」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ）** **○語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ）** **■促音や濁音のある言葉を使って文を書く。**	1 2		【知・技】促音の表記、助詞の「を」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使っている。((1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ) 【態】進んで促音や濁音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
６月	わけを　はなそう **２時間（話・聞②）** **◎相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。（思・判・表A(1)イ）** **○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知･技(1)ア)** **○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア）** **■自分の考えとそのわけを話す。** **☆わけを説明する題材（生活科・算数）**	1 2	･P47の挿絵を見ながら、質問する人と答える人の二人組になって、P46のやり取りを声に出して読む。 ・二人組で交流した後、グループや全体で発表する。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。((1)ア) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(A(1)イ) 【態】話す事柄の順序を進んで考えながら、これまでの学習や経験をいかして考えとわけを話そうとしている。
６月	おばさんと　おばあさん **２時間（書②）** **◎長音の表記、助詞の「へ」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ）** **○語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ）** **■長音のある言葉を使って文を書く。**	1 2	・長音になることで言葉の意味が変わるものがあることに気づく。 ・「――へ――。」という助詞「へ」を使った文を書く。	【知・技】長音の表記、助詞の「へ」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使っている。((1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ) 【態】進んで長音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
６月	あいうえおで　あそぼう **３時間（知・技③）** **◎平仮名を読み、書くことができる。（知・技(1)ウ）** **◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ）**	1 2	・調子のよい言葉のリズムに気づき、節を付けて歌うように読む。 ・何度も読んで、言葉遊びの歌の仕組みに気づく。 ・P50-51の吹き出しやP129-131の平仮名表を参考にして好きな行を作り、発表し合って楽し	【知・技】 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。((1)イ) ・平仮名を読み、書いている。((1)ウ) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づ

	○姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。(知・技(1)イ) ■言葉遊び歌を楽しむ。	3	む。 ・口形に気をつけて縦や横に読んだり、各行や列の音の特徴に気をつけて読んだりする。 ・区切ったり伸ばしたりいろいろな声の大きさで読んだりする。 ・P52-53の「しりとり」を参考にして、しりとり遊びを楽しむ。	いている。((3)イ) 【態】進んで平仮名の五十音を確かめ、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。
６月	つぼみ ８時間（知・技②、読⑥） ◎事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思・判・表C(1)ウ) ■文章を読んで分かったことや考えたことを伝え合う。 ☆動植物や自然に親しむ題材（道徳） ☆図鑑でいろいろな花のつぼみを見つける活動（図書館活用）	1 2 ～ 6 7 ～ 8	・花やつぼみについて、知っていることを出し合い、興味をもつ。 ・P54の写真を見て、三つのつぼみからそれぞれどんな花が咲くかを予想して絵に描いてみる。 ・教師の範読を自分の予想と比べながら聞き、内容の大体を知る。 ・本文と写真とを対応させながら、３種類の花のつぼみについて取り上げられていることを確かめる。 ・それぞれのつぼみについて、「問い」と「答え」を確認し、「答え」の後に、詳しく説明している部分があることを確かめる。 ・「問い」と「答え」という文章形式を確かめながら、二人組で音読する。	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) 【態】積極的に説明の順序を捉えながら文章を読み、学習課題に沿って分かったことや考えたことを伝えようとしている。
６月	おもちやと　おもちゃ ２時間（書②） ◎拗音の表記、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■拗音のある言葉を使って文を書く。	1 2	・語と語の続き方に気をつけて文を書く。	【知・技】拗音の表記、句点の打ち方を理解して、文の中で使っている。((1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ) 【態】進んで拗音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
６月	おおきく　なった ４時間（書④） ◎観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ) ■観察したことを記録する文を書く。 ☆植物を観察する活動（生活科） ☆観察時に写真を撮影（ＩＣＴ活用）	1 2 ～ 3 4	・生活科で育てている植物の様子を想起し、「よくみてくわしくかく」という学習課題を確認する。 ・出し合ったものとP64の観点を合わせて整理し、クラス全体で共有する。 ・P64-65の二つの作例を読み、書かれている観点と書き方の共通点・相違点を見つける。 ・生活科で育てている植物を観察し、観点を想起して気づいたことをメモしたり絵に描いたりする。 ・メモを見て、二つの作例の書き方から選んで観察記録を書く。 ・P124を参考に、横書きのカードの書き方を知り、生活科の学習にもいかす。 ・交流しながら、友達の観点や書き方との共通点・相違点に気づく。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っている。((1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。(B(1)ア) 【態】植物をさまざまな観点から積極的に観察し、これまでの学習をいかして観察したことを記録しようとしている。

			・いろいろな観点から観察することで、様子を詳しく記録できることを確かめる。	
６月	おおきな　かぶ ６時間（読⑥） ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） 〇文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） 〇場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■物語を楽しんで音読したり、劇遊びをしたりする。 ☆人との関わりで協力したり親切にしたりする題材（道徳） ☆練習を撮影した動画をいかした振り返り（ＩＣＴ活用）	1 ～ 3 4 5 6	・教師の範読を聞いて、内容の大体を捉える。 ・P76-77を見て、これからの学習に意欲をもつ。 ・教師の後について全文を音読する。 ・登場人物と増えていく順序を確かめる。 ・繰り返しの言葉や副詞に着目して読む。 ・繰り返しのおもしろさやリズムを楽しんで音読する。 ・動作やせりふを考えて楽しむ。 ・グループ内で互いのよさや改善点を助言し合いながら練習する。 ・繰り返しや言葉の響きやリズムを楽しみながら、学習したことを確かめる。	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) 【態】積極的に登場人物の行動を捉え、これまでの学習をいかして音読や劇遊びをしようとしている。
７月	はをへを　つかおう ３時間（書③） ◎助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） 〇語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■助詞「は」「を」「へ」を使って文を書く。	1 2 3	・教師の範読を聞いてから、いろいろな読み方で繰り返し音読する。 ・「は」「を」「へ」の読み方に注意する。 ・「わ」と「は」、「お」と「を」、「え」と「へ」の使い方に注意する。	【知・技】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使っている。((1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】進んで助詞の使い方を確かめながら、学習課題に沿って文を作ろうとしている。
７月	すきな　こと、なあに ７時間（話・聞③、書④） ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ◎語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） 〇丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。（知・技(1)キ） 〇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。（思・判・表A(1)イ） ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ■「好きなこと」を紹介する。	1 ～ 3 4 ～ 6 7	・教科書を見て、「すきなことをともだちにしょうかいしよう」という学習課題を確認する。 ・いちばん好きなことを選んで紹介の準備をする。 ・聞いたことについて、感想を言ったり理由を尋ねたりする。 ・理由を言うと、好きなことが相手によく伝わることに気づく。 ・P82の作例を視写して、名前の書き方や始まりを１字下げて書くことを知る。 ・視写したものを参考にして、２文で書く。 ・主語と述語の関係や、句読点の打ち方、理由の書き表し方に注意する。	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。((1)ア) ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。((1)キ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(A(1)イ) ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かる

	☆好きなことを知らせる活動（生活科）			ように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】粘り強く伝えたいことや表し方を考え、これまでの学習をいかして自分が好きなものとその理由を紹介しようとしている。
７月	おむすび　ころりん ５時間（読⑤） ◎昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。（知・技(3)ア） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■昔話を音読したり演じたりする。 ☆練習を撮影した動画をいかした振り返り（ＩＣＴ活用）	1 ～ 3 4 5	・これまでに学んだ音読について、おもしろかったところを発表する。 ・「おおきな　かぶ」での音読や劇遊びを思い出して、音読発表会をすることを知る。 ・内容の感想を発表する。 ・繰り返しや言葉のリズム（七五調）に気づく。 ・全体で音読練習をする。 ・挿絵を基に、場面の様子や「おじいさん」の行動を読む。 ・役割を決めて、役になりきって音読する。 ・音読に合わせて動作をつけて楽しんで演じる。 ・他のグループの読み方でよかったところを伝えたり、自分たちのグループを振り返ったりする。	【知・技】 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク) ・昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。((3)ア) 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) 【態】進んで昔話の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読しようとしている。
７月	こんな　ことが　あったよ ６時間（書⑥） ◎経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)オ） ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ■出来事や経験を報告する文章を書く。	1 ～ 2 3 ～ 5 6	・最近楽しかったことを思い出して発表し合う。 ・P92-93を見て、「たのしかったことを、ぶんしょうにかいてよみあおう」という学習課題を確認する。 ・文章に書く内容（したこと、見たこと、聞いたこと、思ったこと）を確認する。 ・伝えたい経験について、詳しく思い出す。 ・経験したことを絵に描く。 ・「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「どうした」等が分かるようにするとよいことを知る。 ・自分の経験を文章で表し、友達に紹介したことを確認する。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。((1)ア) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ) 【態】積極的に出来事や経験を思い出し、これまでの学習をいかして日記に書こうとしている。
７月	としょかんと　なかよし ２時間（知・技②） ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ■図書館に行き、好きな本を選んで読書に親しむ。 ☆好きな本を見つけたり、司書の方にきいたりする活動（図書館活用）	1 ～ 2	・読みたい本の見つけ方を知る。(表紙や題名や本の中身を見る、司書の先生にきく等) ・おもしろいところや心に残るところを見つけながら読む。	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3)エ) 【態】積極的にいろいろな本を手に取り、これまでの学習をいかして本を選ぼうとしている。
９月	ことばの　たいそう　　各配当時間を 15 分ずつなどに分割して扱ってもよい。			
	こえを　あわせて　よもう ２時間（読②）	1	・リズムを感じながら元気に読む。	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。

	◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■詩を音読する。 ☆好きな詩を探して読む活動の継続（図書館活用）	2	・声の大きさ、速さ、読む人数などを変えて読む。 ・内容から想像したり感じたりしたことを、自分なりの読み方で読んで音読を楽しむ。	((1)ク） 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) 【態】進んで詩の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読を楽しもうとしている。
	みんなに　しらせよう ２時間（話・聞②） ◎伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ○姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。(知・技(1)イ） ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ） ■知らせたい内容を聞き合う。 ☆話の内容を補うために、端末で撮影した写真などを共有（ＩＣＴ活用）	1 2 	・P98を参考に、内容や話し方を考えて練習する。 ・視覚に訴えられるよう、写真や絵を用意してもよい。 ・みんなが聞きやすい話し方(声の大きさや速さ)を考える。 ・P98の挿絵を参考に、集中して聞くことを確かめる。 ・伝えたいことを工夫して話す。 ・友達が知らせたい内容を聞き取り、質問や感想を伝える。	【知・技】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。((1)イ） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ) 【態】積極的に話す内容を考え、これまでの学習をいかして、伝えたい相手に応じて声の大きさや速さなどを工夫して話そうとしている。
	ことばを　みつけよう ２時間（知・技②） ◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ■みんなで言葉遊びをする。	1 2	・見つけた言葉をノートに書き、発表する。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)オ） 【態】積極的に言葉遊びに取り組み、これまでの学習をいかして自分でも言葉遊びを作成しようとしている。
９月	おはなしを　たのしもう			
	やくそく ８時間（読⑧） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ） ■お話を楽しんだり、想像を広げたりしながら読む。 ☆人との関わりや譲り合い等に関わる題材（道徳）	1 2 ～ 6 7 ～ 8	・「やくそく」という題名から、連想することや自分の経験等を出し合って、お話に関心をもつ。 ・「おはなしのすきなところをみつけて、こえにだしてよもう」という学習課題を確認する。 ・題名と作者、登場人物を確認する。(P109で「さくしゃ」という言葉を知る。) ・登場人物の言動を押さえながら、お話の展開を整理する。 ・３匹のその後を想像して伝え合い、お話の余韻を楽しむ。 ・音読したい場面を選ぶ。 ・場面の様子を想像し、３匹の「あおむし」や「木」になりきって役割読みをする。 ・グループの音読を聞き合って感想を伝え合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ） ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ） ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) 【態】進んで登場人物の行動を確かめ、学習の見通しをもって声に出してお話を楽しもうとしている。
９月	かたかなを　みつけよう	1		【知・技】片仮名を読み、書くととも

	２時間（知・技①、書①） ◎片仮名を読み、書くとともに、片仮名の長音、拗音、促音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意しながら、文を書き表すことができる。（思・判・表 B(1)ウ） ■身の回りから片仮名で書く言葉を見つけて、読んだり書いたりする。	 2	・P110の唱え歌を音読し、その中から片仮名を見つけてノートに書く。 ・P111で、片仮名の長音、拗音、促音、濁音の書き方を確かめる。 ・探した言葉を、長音、拗音、促音、濁音に気をつけながら、ノートに書く。 ・P126-127の片仮名表を参考に、片仮名で書く言葉の入った簡単な文を書く。	に、片仮名の長音、拗音、促音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使っている。((1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら文を書き表している。(B(1)ウ） 【態】身の回りから片仮名で書く言葉を進んで見つけ、これまでの学習をいかして簡単な文を書こうとしている。
９月	よんで　たしかめよう			
	うみの　かくれんぼ ８時間（読⑧） ◎文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思・判・表 C(1)ウ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表 C(1)ア） ■説明する文章を読み、分かったことを伝える。 ☆自然に親しむ題材（道徳） ☆他の生き物の隠れ方を図鑑等で調べる活動（図書館活用）	1 ～ 2 3 4 ～ 6 7 ～ 8	・「つぼみ」の学習で「問い」と「答え」の文があったことを思い出す。 ・P112-113の写真を見て、海にはたくさんの生き物がいることを経験や知識を基に話し合い、教材に興味をもつ。 ・「いきものがどんなかくれんぼをしているかをしらべて、ともだちにしらせよう」という学習課題を確認する。 ・最初の「問い」で問われていることを確かめる。 ・３種類の海の生き物が出てくることを確かめる。 ・１文目に海の生き物とその隠れ場所、２文目に体の仕組みや機能、３文目に隠れる方法という順序で書かれていることに気づく。 ・内容や構成について気づいたことを交流し、生き物ごとに、読み取ったことをカードにまとめて確かめる。 ・興味をもった生き物について「１なにが、どこに　２かくれるためのからだのつくり　３かくれんぼのしかた」を調べる。 ・調べて見つけたことを、順序を考えてカードに書く。 ・P112と同様の問いかけをしながら、友達と交流する。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ） ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア） ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ） 【態】粘り強く文章の中で大事な言葉を押さえながら読み、学習課題に沿って分かったことを伝えようとしている。
９月	かずと　かんじ ４時間（知・技②、書②） ◎第１学年に配当されている漢字を読み、漸次書くことができる。（知・技(1)エ） ・語と語との続き方に注意しながら文を書き表すことができる。（思・判・表 B(1)ウ） ■数え歌を書く。	1 ～ 3 4	・数に合わせて、子ブタの鳴き声を入れて読む。 ・読み方が複数あることを知る。	【知・技】第１学年に配当されている漢字を読み、漸次書いている。((1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら文を書き表している。(B(1)ウ） 【態】積極的に数え方に興味をもち、これまでの学習や経験をいかして漢字を使って数え歌を書こうとしている。

10月	おもいうかべながら　よもう

	くじらぐも **８時間（知・技①、読⑦）** **◎かぎ（「　」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ）** **◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ）** **○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク）** **■読んで想像したことを伝え合う。**	1 ～ 2 3 ～ 6 7 ～ 8	・題名から「くじらぐも」を想像することで、物語の様子を「おもいうかべながらよもう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・挿絵を手がかりに想像を広げながら、教師の範読を聞き初発の感想を交流する。 ・様子を想像して、かぎ（「　」）のところをどのように音読するか考える。 ・友達が想像したことを聞いて、思ったことを発表する。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・かぎ（「　」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（(1)ウ） ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク） 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) 【態】積極的に想像力を広げて物語を読み、これまでの学習をいかして想像したことを友達に伝えようとしている。
10月	まちがいを　なおそう **２時間（書②）** **◎文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正すことができる。(思・判・表B(1)エ)** **○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。(知・技(1)ウ)** **■正しい表記で文章を書く。**	1 ～ 2	・文章を読み返して間違いに気づいた経験や、日常的に文章を読み返す習慣がついているかを振り返る。 ・P19の文章例を読み、文字の間違いを直す。 ・友達と交換し、確認し合う。 ・「は」「へ」「を」を使って文章を書き、読み直す。 ・友達と交換し、確認し合う。	【知・技】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。((1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正している。(B(1)エ) 【態】進んで文章を見直し、これまでの学習をいかして適切な表記に正そうとしている。
10月	くわしく　かこう			
	しらせたいな、見せたいな **10時間（書⑩）** **◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。(思・判・表B(1)ア)** **○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)** **○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「　」）の使い方を理解して、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)** **○語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表すことができる。(思・判・表B(1)ウ)** **■見つけたことを記録して伝える。** **☆動植物の観察記録文を書く活動（生活科）** **☆知らせたい対象を端末で撮影（ＩＣＴ活用）**	1 2 ～ 3 4 ～ 8 9 ～	・P20を読み、「学校にいる生きものや、学校で見つけたものをよく見て、いえのひとにしらせる文しょうをかこう」という学習課題を確認する。 ・教材文を読んで学習の流れを確かめ、知らせたいものを考える。 ・知らせたいものをよく見て、P21のカードを参考に、絵の周りに色や形、触った感じ、様子などを短い言葉で書く。 ・P21のカードとP22の作例を比べ、見つけたことをどのように文章に表すのかを考える。 ・短冊カードを用意するなどして、見つけた事柄を一つずつ文にする。 ・カードを並べ替えながら文章の順序を考える。 ・考えた順序に沿って文章を書く。 ・句読点や「は」「へ」「を」が正しく使えているか推敲する。 ・家の人に読んでもらい、感想をもらう。 ・知らせたいことを伝える文章を書いて、家の人に読んでもらった感想をまとめる。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るととも	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「　」）の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。((1)ウ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表している。(B(1)ウ) 【態】知らせたいものを丁寧に観察し、学習の見通しをもって見つけたことを文章にして伝えようとしている。

		10	に、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	
10月	かん字の　はなし **６時間（知・技③、書③）** **◎第１学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）** **○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ）** **■漢字を使った短文を書く。**	1 ～ 2 3 ～ 4 5 ～ 6	・P24-25の挿絵を見て、何を表す絵が描いてあるかを確かめる。 ・絵と漢字を見比べて、漢字の成り立ちを知る。 ・絵からできている漢字の意味を考える。 ・ある事柄を示す印からできている漢字の意味を考える。 ・作った文を友達と読み合い、交流する。 ・互いに読み合い、漢字や文の書き方に間違いがないかを確かめる。 ・漢字の成り立ちについて知ったことを振り返る。	【知・技】第１学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】積極的に漢字の成り立ちに興味をもち、学習課題に沿って漢字を使った短い文を書こうとしている。
10月 ～ 11月	ことばを　たのしもう **２時間（知・技②）** **◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ）** **○音節と文字との関係に気づくとともに、発声や発音に注意して話すことができる。（知・技(1)イ）** **○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク）** **■詩や早口言葉を楽しむ。** **☆他にもおもしろい発音の詩を探す活動（図書館活用）**	1 2		【知・技】 ・音節と文字との関係に気づくとともに、発声や発音に注意して話している。((1)イ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。((3)イ) 【態】積極的に詩や早口言葉を楽しみ、これまでの学習や経験をいかして、発声や発音に気をつけながら声に出して読もうとしている。
11月	せつめいする　文しょうを　よもう			
	じどう車くらべ **７時間（読⑦）** **◎事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)ア）** **○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア）** **○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思・判・表C(1)ウ）** **■事物の仕組みを説明した文章を読み、分かったことをまとめる。**	1 2 ～ 5 6 7	・P30の挿絵を見て、それぞれの車がどんな仕事をするのか、そのためにどんなつくりになっているのか、考えを出し合う。 ・「いろいろな車のしごととつくりがどんなふうにしょうかいされているかかんがえながら、せつめいする文しょうをよもう」という学習課題を確認する。 ・文章全体の構造を捉える。(問いと答えの形式・三つの事例を挙げて説明) ・各事例の「しごと」と「つくり」を見分け、二つの事柄の順序や、「そのために」でつながっていることを押さえる。 ・事例を比べ、車の「つくり」は、「しごと」によって変わることを押さえる。 ・身近な自動車から順に登場していたことを押さえる。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るととも	【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) 【態】進んで説明における順序を考えながら読み、自分が説明するときにいかしたいことを見つけようとしている。

			に、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	
11月	せつめいする　文しょうを　かこう			
	じどう車ずかんを　つくろう **５時間（書⑤）** **◎事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。（思・判・表B(1)イ）** **○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア）** **■「じどう車しょうかいカード」を書く。** **☆自動車について書かれた図鑑等を選んで読む活動（図書館活用）**	1 2 ～ 4 5	・教材「じどう車くらべ」の学びを思い出す。 ・一人一人が「じどう車しょうかいカード」を書き、「クラスでまとめて、じどう車ずかんをつくろう」という学習課題を確認する。 ・図鑑などで知った自動車の中から紹介したい自動車を選ぶ。 ・説明の観点に着目しながら、「しごと」と「つくり」をノートに書く。 ・カードに文章を清書し、できたら、挿絵用の絵や写真のコピーを添える。 ・友達の作ったカードを読み、感想を伝え合う。 ・クラスで図鑑としてまとめる際、どんな順番でページに並べるか話し合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】「書くこと」において、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ) 【態】分かりやすい説明のしかたについて興味をもち、説明の順序に気をつけながら、見通しをもって自動車図鑑を作ろうとしている。
11月	かたかなを　かこう **２時間（知・技①、書①）** **◎片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ）** **○語と語との続き方に注意しながら、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ）** **■片仮名で書く言葉を集め、短文を書く。**	1 ～ 2	・片仮名の長音・促音・拗音の表し方を確認する。	【知・技】片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。((1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】片仮名の表記のしかたに気をつけながら、これまでの学習をいかして文の中で片仮名を使おうとしている。
11月	ともだちと　はなして、おはなしを　かこう			
	どんな　おはなしが　できるかな **６時間（話・聞②、書④）** **◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。（思・判・表A(1)オ）** **◎文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)オ）** **○句読点の打ち方、かぎ（「　」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ）** **○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ）** **○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。（思・判・表A(1)エ）** **■友達と話したことを基にして物語を作る。**	1 2 ～ 3 4 ～ 5 6	・「どうぶつになったつもりでともだちとはなして、おはなしをつくろう」という学習課題を確認する。 ・友達と話したことをノートにメモする。 ・「たいせつ」で、友達の話を聞くときに気をつけることを確認する。 ・P42を参考に、友達と話したことを会話の形にする。 ・書いたお話を読み返す。 ・「たいせつ」で、交流の観点を確認する。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・句読点の打ち方、かぎ（「　」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。((1)ウ) ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ) ・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ) ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。(B(1)オ) 【態】物語を完成させるという見通しをもち、進んで友達に質問し、お話

				を書こうとしている。
11月	すきな　ところを　見つけよう			
～ 12月	たぬきの　糸車 **８時間（読⑧）** **◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ)** **○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ)** **○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク)** **○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ)** **■物語の好きなところを見つけて、そのわけを話し合う。**	1 2 ～ 6 7 ～ 8	・教師の範読を聞いて好きなところを見つけ、文章に線を引く。 ・挿絵を手がかりに、内容の大体を捉える。 ・「すきなところとそのわけをみんなにしらせよう」という学習課題を確認する。 ・「たぬき」や「おかみさん」と同じ動作をしてみる。 ・「たぬき」のしたことを確かめ、そのときの様子を思い浮かべる。 ・「おかみさん」の気持ちを想像する。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) 【態】場面の様子に進んで着目し、これまでの学習をいかして、好きなところとそのわけを考えようとしている。
12月	日づけと　よう日 **３時間（知・技①、書②）** **◎第１学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)** **○身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)** **○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)** **■唱え歌を作る。**	1 2 3	・日付歌に出てくる漢字の読み方を学び、日付歌を声に出して練習する。 ・日付歌に出てくる漢字の練習をする。 ・曜日歌に出てくる漢字の読み方を学び、曜日歌を声に出して練習する。 ・曜日歌に出てくる漢字の練習をする。	【知・技】 ・第１学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) ・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】積極的に日付や曜日を表す漢字に関心をもち、これまでの学習をいかして自分でも唱え歌を作ろうとしている。
12月	てがみを　かこう			
	てがみで　しらせよう **６時間（書⑥）** **◎丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ)** **◎文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。(思・判・表B(1)エ)** **○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)** **■伝えたいことを手紙に書く。** **☆お世話になった人に手紙を書く活動（生活科）**	1 2 3 ～ 5 6	・手紙を書いたり、もらったりした経験を出し合う。 ・教材文を読み、「うれしかったことやたのしかったことを、てがみにかいてしらせよう」という学習課題を確認する。 ・相手と書く題材を決め、必要な事柄を集める。 ・P58-59の作例を参考に、クラス全員で共通の相手に手紙を書く練習をする。 ・読み返して、書くときに気をつけることを意識して書けているかを確かめる。 ・自分がいちばん知らせたい相手に手紙を書く。 ・手紙を書いた感想を交流する。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。((1)キ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(B(1)エ) 【態】書いた文章を積極的に見直しながら、これまでの学習をいかして、身近な人に手紙を書こうとしている。
12月	本は　ともだち			

	むかしばなしを　よもう おかゆの　おなべ **８時間（書④、読④）** **◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知･技(3)エ)** **○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)** **○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ)** **■昔話を読み、感想を伝え合う。** **☆いろいろな昔話を選んで読む活動（図書館活用）**	1 ～ 2 3 ～ 5 6 ～ 8	・知っている昔話や読んでみたい昔話を出し合う。 ・P60-61を見て、「いろいろなむかしばなしをよんで、ともだちにしらせよう」という学習課題を確認する。 ・「おかゆの　おなべ」を読む。 ・お話の好きなところやおもしろかったところなどを伝え合う。 ・P73を参考にカードの書き方を確認する。 ・カードの書き方を再度確かめる。 ・カードを読み、さらに物語を読んだり、カードに対する感想を書いたりする。 ・昔話を読んで紹介カードを交流し合った学習から、学んだことや感じたことを振り返る。	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3)エ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ) 【態】積極的に世界の昔話を読み、これまでの学習をいかして感想をカードに書いて伝えようとしている。
１月	ことばの　たいそう　　各配当時間を15分ずつなどに分割して扱ってもよい。			
	なりきって　よもう **２時間（読②）** **◎場面の様子など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表 C(1)イ)** **○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク）** **☆お気に入りの詩を見つける活動（図書館活用）** **☆工夫した読み方を端末で動画撮影し、友達と交流（ＩＣＴ活用）**	1 ～ 2	・読む速度を変えたり、動作化したりして、いろいろな読み方を楽しむ。 ・声に出して詩集を読んだり、友達と気に入った詩を紹介し合ったりしながら、詩を選ぶ。	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) 【態】進んで詩の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読を楽しもうとしている。
	くわしく　きこう **２時間（話・聞②）** **◎身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)** **◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ)** **○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア)** **■紹介を聞いて、質疑応答する。** **☆紹介したい本を選ぶ活動（図書館活用）** **☆話す練習を動画で撮影（ＩＣＴ活用）**	1 ～ 2	・教師の本の紹介を聞き、これからの学習に見通しをもつ。 ・どの本を友達に紹介するか決める。 ・知りたいことを考えながら聞き、もっと知りたいことを質問する。 ・本を紹介し合う活動の振り返りをし、これからも友達と好きなものを紹介し合って、友達のことをもっとよく知っていくように促す。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ) 【態】積極的に友達の話を聞き、学習の見通しをもって、質問や感想を述べようとしている。
	ことばで　あそぼう **２時間（知・技②）** **◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ）** **○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことがで**	1 ～ 2	・P78-79を見て、言葉遊びのしかたを理解し、ノートに書く。 ・教科書を参考に自分で言葉遊びのルールを決め、言葉遊びの問題を作る。	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)オ) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。((3)イ)

	きる。（知・技(3)イ）		・問題を出し合うことでさまざまなルールの言葉遊びを知り、継続して言葉遊びを続ける意欲をもつ。	【態】積極的に身近なことを表す語句を使った言葉遊びを楽しみ、これまでの学習をいかして語彙を豊かにしようとしている。
1月	くらべて　よもう			
	どうぶつの　赤ちゃん 10時間（読⑩） ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。（思・判・表C(1)カ） ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。（知・技(3)エ） ■書かれていることを比べて読む。 ☆他の動物の赤ちゃんについて書かれた本を読む活動（図書館活用）	1 ～ 2 3 ～ 6 7 ～ 10	・いろいろな動物の赤ちゃんの写真を見て、動物の赤ちゃんへの興味・関心をもつ。 ・「どうぶつの赤ちゃんについて、かかれていることをくらべながらよもう」という学習課題を確認する。 ・初めて知ったことや不思議に思ったことを話し合う。 ・「生まれたばかりのようす」「大きくなっていくようす」を観点ごとにまとめる。 ・お母さんとの違いや、成長過程での親子のつながりについて確認する。 ・どのような違いがあるのか、気づいたことを発表する。 ・P88-89の「もっと　よもう」を読み、比べる観点を確認する。 ・他の動物の赤ちゃんについて書かれた本を読み、生まれたばかりの様子や大きくなっていく様子で気づいた違いを発表し合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） ・読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（(3)エ） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ) 【態】文章の内容を比べながら粘り強く読み、学習の見通しをもって、本から得たことを友達に知らせようとしている。
1月	ことばって、おもしろいな			
	ものの　名まえ ６時間（知・技④、話・聞②） ◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づくことができる。（知・技(1)オ） ○互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。（思・判・表A(1)オ） ■尋ねたり、応答したりする。	1 2 ～ 3 4 ～ 5 6	・買い物をしたときの経験を出し合い、店での言葉のやり取りに関心をもつ。 ・P94-95を見て、「ものの名まえをあつめておみせやさんごっこをしよう」という学習課題を確認する。 ・教材文に出てくる物の名前を上位語と下位語に整理してノートに書く。 ・身の回りの物の名前を集め、上位語と下位語に分けてノートにまとめる。 ・集めた言葉を発表し合う。 ・２で発表し合った身の回りの物の名前を参考にして、開きたいお店ごとにグループを作る。 ・上位語で看板やポスターを、下位語で品物カードを作る。 ・教科書を参考にして、グループごとに「お店の人」と「お客さん」の話し方を練習する。 ・「お店の人」と「お客さん」の言葉のやり取りを楽しむ。 ５学習を振り返る。	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づいている。（(1)オ） 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ) 【態】積極的に言葉の上位語と下位語に関心をもち、学習の見通しをもって、言葉を集めて「おみせやさんごっこ」をしようとしている。

２月	わらしべちょうじゃ **１時間（読①）** **◎昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。（知・技(3)ア）** **○文章を読んで感じたことを共有することができる。（思・判・表C(1)カ）** **■昔話の読み聞かせを聞く。** **☆我が国の文化や生活に親しみ愛着をもたせる題材（道徳）** **☆いろいろな昔話を読む活動（図書館活用）**	1	・P126を参考に、読み聞かせやその他の楽しみ方について話し合ってもよい。	【知・技】昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。((3)ア) 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことを共有している。(C(1)カ) 【態】積極的に昔話の読み聞かせを楽しみ、これまでの学習をいかして内容や感想を共有しようとしている。
２月	かたかなの　かたち **３時間（知・技②、書①）** **◎片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ）** **○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ）** **■片仮名の言葉を使って文を書く。**	1 2 ～ 3	・一字ずつ形を確認しながらノートに書く。 ・P139-140の「ひらがなと　かたかな」を見て、他にも似ている形の字を探してノートに書く。 ・P99を見て、間違えやすい文字・長音・拗音の書き方を理解し、形に気をつけてノートに書く。 ・見つけた片仮名の言葉を使って文を書く。	【知・技】片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。((1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】進んで形の似ている字を探し、これまでの学習をいかして片仮名の言葉を使った文を書こうとしている。
２月	ことばあそびを　つくろう **６時間（知・技①、書⑤）** **◎身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ）** **○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ）** **○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ）** **■言葉遊びを作る。**	1 2 3 ～ 5 6	・教材文を見て、「ことばクイズをつくって、みんなでときあおう」という学習課題を理解する。 ・「いる」「ある」をヒントにして言葉を見つける。 ・できあがった文を声に出して読む。 ・（　　）の言葉の中に隠れている□の言葉を考える。 ・グループで相談し合う。 ・「いる」「ある」の使い分けに注意しながらクイズカードを作る。 ・グループごとにブースを作り、クイズを出し合う。	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。((3)イ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】身近なことを表す語句に積極的に関心をもち、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。
２月	ふたりで　かんがえよう			
	これは、なんでしょう **４時間（話・聞④）** **◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。（思・判・表A(1)オ）** **○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア）** **○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア）** **■二人で相談し、考えをまとめる。**	1 2 ～ 3 4	・教師から問題を聞いたり、教材文を読んだりして、クイズの大まかなルールを把握する。 ・「ふたりでもんだいをかんがえて、クイズたいかいをしよう」という学習課題を確認する。 ・問題にするものを決める。 ・決めたものの特徴（色や形、働き、様子など）をノートに書き出す。 ・動画を見て問題の出し方を確かめ、話し合いのしかたを学ぶ。 ・書き出したことをどのような順番で言うのかを決め、練習する。 ・二人組で出題したり、答えたりする。 ・解答者は、出題者の二人に問題の出し方につい	【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ) 【態】粘り強く二人で話し合い、学習課題に沿って協力してクイズを作ろうとしている。

			て感想を伝える。 ・二人で感想を出し合い、話し合うときにどのようなことが大切か、気づいたことを出し合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	
2月	よんで　かんじた　ことを　はなそう			
～ 3月	ずうっと、ずっと、大すきだよ 8時間（読⑧） ◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ) ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ■読んで感じたことを伝え合う。 ☆生命を尊重する心を育てる題材（道徳）	1 2 3 ～ 4 5 ～ 7 8	・家でペットを飼っている児童に、ペットとの関わりを紹介してもらう。 ・「おはなしをよんでかんじたことをはなそう」という学習課題を確認する。 ・教師の範読を聞いて、「いいな」「すきだな」「どうしてかな」など、心に残ったことを出し合う。 ・出し合った感想をもとに、みんなで話し合いたいことを決め、これからの学習計画を立てる。 ・「エルフ」がどんなふうに変わっていったか確かめる。 ・「ぼく」が、「エルフ」のことが大好きだと分かるところを見つける。 ・２で決めた話し合いたいことについて、考えを出し合う。 ・「ぼく」が、なぜ「となりの子」から子犬をもらわなかったのかを、自分に引きつけて考える。 ・このお話を読んで、最も心に残ったことを友達と話す。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ) 【態】友達の考えや感想を積極的に知ろうとし、学習の見通しをもって、読んで感じたことを伝え合おうとしている。
3月	にて　いる　かん字 3時間（知・技②、書①） ◎第１学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・語と語との続き方に注意しながら、文を書き表すことができる。(思・判・表B(1)ウ) ■似ている漢字を使って文を書く。	1 2 3	・P120の漢字を見比べ、どこが似ているか出し合う。 ・似ているところと異なるところを確かめながら、ノートに書く。 ・P121の漢字を、書き順を確かめながらノートに書く。	【知・技】第１学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、文を書き表している。(B(1)ウ) 【態】進んで漢字の形に注意し、これまでの学習をいかして楽しみながら文を書こうとしている。
3月	おもい出して　かこう			
	いい　こと　いっぱい、一年生 10時間（書⑩） ◎自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ○敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ) ○経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■経験したことを報告する文章を書く。	1 2 3 4	・写真やアルバムを見ながら１年間を振り返り、心に残っていることを話し合う。 ・教材文を読み、学習の手順を知る。 ・「おもいだして、『１年生のおもいで』をかこう」という学習課題を確認する。 ・P123を参考に、「がんばったこと」「できるようになったこと」などの観点から思い出す。 ・写真を見たり、家の人に聞いたりする。 ・一つ一つの事柄を思い出し、書きたい内容を集めてメモを作る。	【知・技】敬体で書かれた文章に慣れている。((1)キ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ) 【態】事柄の順序に沿って構成を粘り強く考えながら、これまでの学習や

	☆生活を明るくする態度を育てる題材（道徳） **☆これまでの活動の様子の写真や動画を端末に保存している場合は、それらも参照（ＩＣＴ活用）**	～ 8 9 ～ 10	・P124の作例を読み、書き方を考える。 ・順番を考えながらメモを並べ替え、文章にする。 ・様子を表す絵を描いたり、写真を貼ったりする。 ・句読点や文字の間違いを見直す。 ・内容の分かりにくいところはないか、読み直す。 ・時間順に並べるなど、構成を工夫する。 ・友達の思い出についての感想や、書き方のよかったところを伝え合う。 ・家の人に読んでもらい、感想をもらう。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。 ・１年生の初めに書いた字と比べ、自分の成長を確認する。	経験をいかして１年生の思い出を伝える文章を書こうとしている。

内容解説資料

２年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
４月	じゅんばんに　ならぼう **１時間（話・聞①）** **○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア）** **○自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞くことができる。（思・判・表A(1)エ）** **■出された課題に応じて、声をかけ合いながら順番に並ぶ。**	1	・扉の詩を音読したり、目次やP5「こくごの学びを見わたそう」を見たりして、上巻の学習への期待感や見通しをもつ。 ・どんな順番で並ぶのか、説明をしっかり聞いて理解する。 ・何の順番で並ぶのか確認する。 ・自分の場所を見つけるためには、どのような声のかけ合いをすればよいか相談する。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞いている。(A(1)エ) 【態】自分が聞きたいことを粘り強く集中して聞き取り、学習課題に沿って声をかけ合い、正しい順番で並ぼうとしている。

			・「もっとたのしもう」を参考に、さらにさまざまな順番で並ぶことを楽しんでもよい。	
４月	絵を　見て　かこう つづけて　みよう １時間（書①） 〇第１学年に配当されている漢字を文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) 〇想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表 B(1)ア) 〇文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけることができる。(思・判・表 B(1)オ) ■絵に描かれた様子を文章に書く。	1	・どこで ・どんな人が ・どんなことをしているか	【知・技】第１学年に配当されている漢字を文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。(B(1)オ) 【態】絵の中から進んで書くことを見つけ、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。
４月	どんな　おはなしかを　たしかめて、音読しよう			
	ふきのとう ９時間（読⑨） ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） 〇語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■音読を聞き合い、感想を伝え合う。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材（道徳、生活科） ☆音読の様子を撮影し、見せ合う活動（ＩＣＴ活用）	1 〜 2 3 〜 5 6 7 〜 8 9	・P19を見て、どのような物語かを想像する。 ・音読して「おもしろいな。」と思ったところを見つけ、友達と比べる。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。((1)オ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) 【態】場面の様子を表す言葉を手がかりに粘り強く物語の内容を確かめ、これまでの学習をいかして音読を工夫し、感想を伝え合おうとしている。
４月	図書館たんけん １時間（知・技①） ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ■図書館の本の並べ方の決まりや工夫を見つけ、発表する。 ☆図書館で読みたい本を探し、本の分類を学ぶ教材（図書館活用） ☆書架の様子や本の並べ方の撮影（ＩＣＴ活用）	1	・本はどのような工夫をして並べてあるのか、各自で見て回り、気づいたことを共有する。 ・P34「読みたい本をさがすときは」を確認する。 ・自分の読みたい本を探すときに気をつけることをまとめて発表し合う。	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3)エ) 【態】積極的に図書館の配架や本の並べ方を学び、学習課題に沿って自分の読みたい本を探そうとしている。
４月	春が　いっぱい ２時間（書②） ◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。	1 2		【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。((1)ア)

	（知・技(1)ア） ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知･技(1)オ） ○経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア） ■春を感じるものを見つけ、自分の感想を添えた、春のカードを作る。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材（道徳、生活科） ☆春らしい歌詞や、旋律などを楽しむ活動（音楽） ☆春を感じるものの撮影（ＩＣＴ活用）		・絵や写真を添える。 ・見つけたものの名前、いつ、どこで見つけたか。 ・見つけたときに感じたこと。	・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。((1)オ） 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア） 【態】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書こうとしている。
４月	思い出して　書こう			
	日記を　書こう ４時間（書④） ◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア） ○言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア） ■身近な出来事を日記に書く。 ☆学校生活や家庭生活、身近な自然や季節の行事などに目を向けさせる題材（特別活動、生活科）	1 2 3 4	・日付、曜日、天気 ・したこと（いつ・誰が・誰と・何を・どうした） ・見たこと、見つけたもの ・言ったこと、聞いたこと ・思ったこと ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。((1)ア） 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア） 【態】進んで経験したことなどから伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって日記を書こうとしている。
４月	だいじな　ことを　おとさないように　聞こう			
～ ５月	ともだちは　どこかな 【コラム】声の　出し方に　気を　つけよう ５時間（話・聞⑤） ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア） ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えることができる。(思・判・表A(1)エ） ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。(知・技(1)イ） ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ） ■目的に応じて大事なことをメモしながら聞き取る。 ☆必要なことについて、身近な人と連絡し合う活動（学校生活）	1 2 3 4 5	・音声を聞いて、絵の中から「ゆかさん」を探す。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・手がかりになりそうな言葉や事柄の予想を立てる。 ・P44コラム「声の出し方に気をつけよう」を参考に、分かりやすい話し方を練習する。 ・グループで相互に探し合いをする。探し役はメモを見せ合って協力してもよい。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・P44のコラムで音の高さによる言葉の意味の違いを理解する。	【知・技】 ・音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。((1)イ） ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ） ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えている。(A(1)エ） 【態】自分にとって必要なことを集中して粘り強く聞き取り、これまでの学習をいかして簡潔にメモしようとしている。
５月	じゅんじょに　気を　つけて　読もう			

	たんぽぽの　ちえ **【じょうほう】じゅんじょ** **10時間（知・技①、読⑨）** **◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア）** **◎時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思･判･表C(1)ア)** **○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク）** **○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思・判・表C(1)ウ）** **■植物の知恵について書かれている文章を読み、感想を書く。** **☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材（道徳、生活科）**	1 ～ 2 3 4 ～ 5 6 ～ 7 8 9 ～ 10	・P45を見て、文章の内容を想像したり、たんぽぽについて知っていることを出し合う。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・知恵が幾つあるかを数えることで、何を知恵というかを確かめる。 ・順序を表す言葉に着目して、たんぽぽの知恵を確かめる。 ・書いたものを友達と読み合い、同じだと思ったことを伝え合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。 ・身の回りの出来事や自分の行動などを、順序を考えながら話す。	【知・技】 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク) ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) 【態】粘り強く時間的な順序を考えて内容を捉え、学習の見通しをもって読んだ文章の感想を書こうとしている。
５月	ていねいに　かんさつして、きろくしよう			
	かんさつ名人に　なろう **10時間（書⑩）** **◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア）** **○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知･技(1)オ)** **■観察したことを記録する文章を書く。** **☆育てている動植物を観察し、分かったことなどを記録する活動(生活科)** **☆身近な動植物の変化や成長の様子への関心を育む題材（道徳、生活科）** **☆観察するものを撮影して記録する活動（ＩＣＴ活用）**	1 2 ～ 8 9 10	・生き物や植物を育てた経験を振り返り、友達と話し合う。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・P57「かんさつするときは」を参考にする。 ・観察して見つけたことや気づいたことを、メモを基に友達と尋ね合い、記録しておきたいことをどんな順序で書くか考える。 ・P59､60の作例を参考に観察記録文のイメージをもつとともに、記録文を書くときに必要なことを整理する。 ・読む人に伝わるように、書くこととその順序を再度確認したり､P60「かんさつしたことを書くときのことば」を参考にしたりする。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し､話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】書くために必要な事柄を進んで集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にし、これまでの学習をいかして観察記録文を書こうとしている。
６月	いなばの　白うさぎ **２時間（知・技②）** **◎神話の読み聞かせを聞き、我が国の**	1		【知・技】神話の読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。((3)ア)

	伝統的な言語文化に親しむことができる。(知・技(3)ア) ■神話の読み聞かせを聞き、感想を伝え合う。 ☆郷土への愛着を養う題材（道徳） ☆昔話や神話の本を図書館で探して読む活動（図書館活用）	2		【態】進んで神話の読み聞かせを聞き、これまでの学習をいかして感想を伝え合おうとしている。
６月	同じ　ぶぶんを　もつ　かん字 ２時間（知・技②） ◎第２学年までに配当されている漢字を読むことができるとともに、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)	1 ～ 2		【知・技】第２学年までに配当されている漢字を読み、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【態】積極的に第２学年までに配当されている漢字の読み書きに取り組み、学習課題に沿って、同じ部分をもつ漢字を見つけようとしている。
６月	お話を　読み、すきな　ところを　つたえよう			
	スイミー ９時間（読⑨） ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ■物語を読み、好きな場面について伝え合う。	1 ～ 2 3 ～ 4 5 ～ 7 8 9	・P67を見て、どのような物語かを想像する。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・それぞれの場面の出来事を確認する。 ・スイミーがしたことや見たもの、思ったことを表す言葉を見つけながら読む。 ・たとえを使った描写のおもしろさを想像しながら読む。 ・それぞれの場面でのスイミーの様子が伝わるように、音読する。 ・伝え合うときは、P79の「話し方のれい」を参考にする。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ） ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ） 【態】粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って自分の好きな場面を伝え合おうとしている。
６月	かん字の　ひろば① ２時間（書②） ◎第１学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ○助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ・語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■絵を説明する文を書く。	1 ～ 2		【知・技】 ・助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。((1)ウ) ・第１学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。（B(1)ウ） 【態】進んで第１学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして絵を説明する文を書こうとしている。
６月	【じょうほう】メモを　とる　とき ３時間（書③） ◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめ	1	・メモの必要性、有効性について経験を出し合う。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。((1)ア) 【思・判・表】「書くこと」において、

	たりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表 B(1)ア) **○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)** **☆気づいたことや分かったことをメモする活動（生活科、学校生活）**	2 ～ 3	・自分で読み返す。 ・書いたメモを友達と見せ合い、お互いのよいところを伝え合う。 ・メモを取るときに気をつけたいことをまとめる。	経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に必要な事柄を集め、これまでの学習をいかして知らせたいことをメモに取ろうとしている。
6月 ～ 7月	組み立てを　考えて　書き、知らせよう こんな　もの、見つけたよ **【コラム】丸、点、かぎ** **10時間（書⑩）** **◎句読点の打ち方、かぎ（「　」）の使い方を理解して、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)** **◎自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)** **■自分が見つけた「いいな」と思うものを友達に伝える文章を書く。** **☆身近な地域の特色や行事、施設などに目を向けさせる題材（生活科）** **☆見つけたものを撮影する活動（ＩＣＴ活用）**	1 2 ～ 4 5 ～ 6 7 ～ 9 10	・生活科の町探検などで見つけたものを共有し、いいなと思ったものを話し合う。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・P82「メモをとるとき」の学習内容を活用する。 ・メモを見直して、見つけたもののよさを伝えるのに必要なことを付け加える。 ・P86の組み立て例や、「組み立てを考えるときは」を参考に、「はじめ」「中」「おわり」にそれぞれ何を書くかを考える。 ・P163の「図をつかって考えよう」を活用し、順序を入れ替えながら確認する。 ・P89コラム「丸、点、かぎ」を参考に、書いたものを読み返し、間違いなどを正す。 ・初めて知ったことや分かりやすかったところなどを伝え合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】句読点の打ち方、かぎ（「　」）の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。((1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ) 【態】事柄の順序に沿った構成を粘り強く考え、学習の見通しをもって、読み手に分かりやすく伝える文章を書こうとしている。
7月	あいての考えを引き出す　しつもんをしよう あったらいいな、こんなもの 7時間（話・聞⑦） **◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)** **◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ)** **○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア)** **■質問をし合うことを通して考えをまとめる。**	1 2 3 ～ 5 6 ～ 7	・あったらいいなと思うものを考える。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・描いた絵に簡単な説明をメモしておくとよい。 ・P92「しつもんをするときは」や動画を参考に、どんなことを質問すれば効果的か考える。 ・働きや作りについて質問されて答えたことは、自分の絵に付け加えておく。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ) 【態】話し手が知らせたいことを落とさないように粘り強く聞き、学習課題に沿って質問をし合って考えをまとめようとしている。

７月	夏がいっぱい **２時間（書②）** **◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア）** **○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知･技(1)オ）** **○経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)** **■夏を感じるものを見つけ、自分の感想を添えた、夏のカードを作る。** **☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材（道徳、生活科）** **☆夏らしい歌詞や、旋律などを楽しむ活動（音楽）** **☆夏を感じるものの撮影（ＩＣＴ活用）**	1 2	・絵や写真を添える。 ・見つけたものの名前、いつ、どこで見つけたか。 ・見つけたときに感じたこと。	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。((1)ア) ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書こうとしている。
７月	本はともだち			
	お気に入りの本をしょうかいしよう ミリーのすてきなぼうし **６時間（読⑥）** **◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知･技(3)エ)** **○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ)** **■お気に入りの本を紹介し合う。** **☆お気に入りの本を探す活動（図書館活用）**	1 2 3 ～ 4 5 ～ 6	・「お気に入りの本をしょうかいしよう」という学習課題を知り、学習の進め方を確認する。 ・読書カードなどを使ってこれまでの読書生活を振り返り、どんな本が好きかを考える。 ・学校図書館などで、実際に本を見ながら選ぶ。 ・「ミリーのすてきなぼうし」を読む。 ・「ミリーのすてきなぼうし」を紹介するメモ（P99）を参考に、書き方を確かめる。 ・「読書にしたしむために」で、本の読み方を押さえる。	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3)エ) 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ) 【態】進んで読書に親しみ、学習課題に沿ってお気に入りの本を紹介しようとしている。
９月	雨のうた **２時間（読②）** **○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク）** **○詩を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思･判･表C(1)カ)** **■様子を想像しながら音読して、詩を楽しむ。**	1 2		【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ) 【態】粘り強く語のまとまりや言葉の響きに気をつけて音読し、これまでの学習をいかして詩を楽しんで読もうとしている。
９月	ことばでみちあんない **３時間（話・聞③）** **◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)** **◎相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。（思・判・表A(1)イ）**	1 2	・分かりにくいところとその理由を話し合う。 ・自分だったらどんな言葉を使って案内するかを考え、分かりやすい説明のポイントを見つける。 ・友達の案内を聞いて地図をたどってみる。案内役を交代して何回か試す。	【知・技】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(A(1)イ)

	○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えることができる。（思・判・表A(1)エ） ■友達と道案内をし合う。	3	・実際の場所を目的地にして、道案内をしてみてもよい。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えている。(A(1)エ) 【態】話す事柄の順序を粘り強く考え、学習課題に沿って相手を目的地に導く道案内をしようとしている。
９月	みの回りのものを読もう ２時間（読②） ◎文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思・判・表C(1)ウ） ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ■身の回りの情報を集めて整理する。 ☆町探検（生活科） ☆見つけたものの撮影（ＩＣＴ活用）	1 2	・情報を迅速・的確に伝えるためという観点からの工夫にも気づくようにする。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。((1)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) 【態】積極的に身の回りのものから重要な情報を読み取り、学習課題に沿って、考えを交流しようとしている。
９月	書いたら、見直そう ２時間（書②） ◎文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。（思・判・表B(1)エ） ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「　」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ）	1 2	・書いたものを見直す習慣をつける。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえ、この後の「書くこと」単元でも活用することを確かめる。	【知・技】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「　」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。((1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(B(1)エ) 【態】進んで文章を読み返し、学習課題に沿って間違いなどを正そうとしている。
９月	かん字のひろば② ２時間（書②） ◎第１学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■絵の言葉を使って、日記を書くように文章を書く。	1 ～ 2		【知・技】第１学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ) 【態】進んで第１学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして日記を書こうとしている。
９月	読んで考えたことを　話そう			
	どうぶつ園のじゅうい 10 時間（読⑩） ◎文の中における主語と述語の関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ○時間的な順序を考えながら、内容の	1 ～ 2 3 ～ 4 5 ～ 7	・P123を見て、動物園や獣医について知っていることや知りたいことを出し合う。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・いつ、どんな仕事をしているか確かめる。 ・その仕事をする理由や工夫を見つける。 ・毎日することと、この日だけにしたことを分け	【知・技】 ・文の中における主語と述語の関係に気づいている。((1)カ) ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の

	大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ■説明的な文章を読んで、考えたことを話す。 ☆働くことの価値や意味を理解する精神や、身近な動物に優しい心で接する態度を養う題材（道徳、生活科）	8 ～ 9 10	て捉え、違いについて話し合う。 ・獣医の仕事について自分の知識や体験と比べ、発見したことや驚いたこと、もっと知りたいことなどをまとめる。 ・まとめたものをグループで共有し、いろいろな気づきや考え方があることを知る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) 【態】進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、これまでの学習をいかして、文章を読んで考えたことを友達と話そうとしている。
９月	かたかなのひろば ２時間（書②） ◎片仮名を読み、書くとともに片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■絵の中の言葉を使って、文を作る。	1 2		【知・技】片仮名を読み、書くとともに片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。((1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】進んで片仮名を使って書く語を見つけ、学習課題に沿って文を書こうとしている。
９月	ことばあそびをしよう ２時間（知・技②） ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ） ■言葉遊びを楽しむ。	1 2	・徐々に声を大きくしながら読んだり、速さを変えて読んだりして楽しむ。	【知・技】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。((3)イ) 【態】進んで、言葉の豊かさに気づき、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。
10 月	なかまのことばとかん字 ２時間（知・技②） ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○第２学年までに配当されている漢字を読み、漸次書くことができる。(知・技(1)エ)	1 ～ 2	・漢字を使って書けるものは、漢字を使う。	【知・技】 ・第２学年までに配当されている漢字を読み、漸次書いている。((1)エ) ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【態】進んで、言葉には意味によるまとまりがあることに気づき、学習課題に沿って仲間の言葉を集めようとしている。
10 月	かん字のひろば③ ２時間（書②） ◎第１学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ・語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ）	1 ～ 2	・文を作る際、「は」や「を」が正しく使えているかを確かめる。	【知・技】 ・助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。((1)ウ) ・第１学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)

	■絵を説明する文を書く。			【態】進んで第１学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして絵を説明する文章を書こうとしている。

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
10 月	自分とくらべて読み、とうじょうじんぶつに手紙を書こう			
	お手紙 12 時間（読⑫） ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知･技(1)オ) ◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて､感想をもつことができる。(思･判・表 C(1)オ) 〇文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) 〇場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表 C(1)エ) ■物語を読み、登場人物に向けて手紙を書く。 ☆同じシリーズの本を図書館で探して読む活動（図書館活用）	1 〜 2 3 〜 5 6 〜 8 9 〜 10 11 〜 12	・P13を見て、登場人物に何が起こるかを考える。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・各場面での登場人物の様子や行動を、言葉や挿絵を手がかりにしてつかむ。 ・「がまくん」がどのように、「ああ。」「いいお手紙だ。」と言ったのか、「がまくん」になりきって音読する。 ・自分だったら、何をしたり、言ったりするか。 ・自分だったら、どう思うか。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。((1)オ) ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) 【態】進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習課題に沿って、登場人物に手紙を書こうとしている。
10 月	主語と述語に　気をつけよう ２時間（知・技②） ◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ)	1 2	・主語と述語の役割を知る。 ・例文や「お手紙」を基に、主語と述語の定義を確認する。 ・いろいろな文の主語と述語を見つける。	【知・技】文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ) 【態】積極的に、主語と述語の関係に気づき、学習課題に沿って文中から主語と述語を捉えようとしている。
10 月	かん字の読み方 ２時間（知・技②） ◎第２学年までに配当されている漢字を読むことができるとともに、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)	1 2	・「九」を「八」に、「日」を「月」に変えるなどして確認するとよい。 ・多くの読み方がある「上」「下」が含まれる文を音読したり視写したりする。 ・P33の課題に取り組む。 ・他にも複数の送り仮名がある漢字を探し、漢字に対する理解や興味を深める。	【知・技】第２学年までに配当されている漢字を読んでいるとともに、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【態】進んで第２学年までに配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、漢字の異なる読み方に気をつけて読もうとしている。

10月	秋がいっぱい **２時間（書②）** **◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア）** **○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知･技(1)オ）** **○経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表 B(1)ア）** **■秋を感じる言葉や詩を見つけ、自分の感想を添えた､秋のカードを作る。** **☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材（道徳、生活科）** **☆秋の風情が感じられる曲や歌を楽しんだり､景色を描いたりする活動(音楽・図工)** **☆秋を感じるものの撮影（ＩＣＴ活用）**	1 2	・絵や写真を添える。 ・見つけたものの名前、いつ、どこで見つけたか。 ・見つけたときに感じたこと。	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。((1)ア) ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書こうとしている。
10月 ～ 11月	みんなで話をつなげよう そうだんにのってください **８時間（話・聞⑧）** **◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)** **◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。（思・判・表A(1)オ）** **○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア)** **■グループで相談する。** **☆互いの困りごとを解決するために協力する題材（学級活動、生活科）** **☆話し合いの様子を撮影し、自分や相手の話し方を見返す活動（ＩＣＴ活用）**	1 2 ～ 3 4 ～ 7 8	・友達と相談してよかったことを出し合う。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・友達に相談してみたいことを､P37を参考に出し合う。 ・話し合いで解決できそうな相談事を選ぶ。 ・P38の「話し合いをすすめるときは」や動画資料を参考にする。 ・P38-39の話し合いの例を参考にして、話し合うときに気をつけるとよいことを考える。 ・順番に相談者になって話し合う。 ・「みんなで話し合うときは」を参考にする。 ・「話をつなげるときのことば」を意識して使う。 ・話し合いをしてよかったことを伝え合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ) 【態】積極的に相手の発言を受けて話をつなぎ、学習の見通しをもって話し合おうとしている。
11月	せつめいのしかたに　気をつけて読み、それをいかして書こう 紙コップ花火の作り方 おもちゃの作り方をせつめいしよう **14時間（書⑧、読⑥）** **◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)** **◎語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)** **◎文章の中の重要な語や文を考えて選**	1 ～ 2 3 ～ 5	・P41を見て、自分が作ったことのあるおもちゃや、紙コップ花火はどのように作るのか、予想して話し合う。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。((1)オ) ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しな

	び出すことができる。（思・判・表C(1)ウ） ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知･技(1)オ） ○時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ■おもちゃの作り方を説明する文章を読み、それをいかして書く。 ☆おもちゃを作る活動（図工・生活科） ☆説明するおもちゃの写真の撮影（ＩＣＴ活用）	6 7 8 ～ 10 11 ～ 12 13 14	・P50の作例から工夫しているところを見つけ、それを参考に言葉を考えて書く。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	がら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ） ・「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えている。（C(1)ア） ・「読むこと」において、文章の中 の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ） 【態】進んで文章の中の語や文を選び出したり、事柄の順序に沿って分かりやすく伝える書き表し方を工夫したりして、学習の見通しをもっておもちゃの作り方を説明する文章を書こうとしている。
11月	にたいみのことば、はんたいのいみのことば ２時間（知・技②） ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ）	1 2	・P165「ことばのたからばこ」を参考にしてもよい。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。((1)オ） 【態】進んで言葉には意味によるまとまりがあることに気づき、学習課題に沿って、似た意味の言葉や反対の意味の言葉の組を作ろうとしている。
11月	せかい一の話 １時間（読①） ◎昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。（知・技(3)ア） ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて､感想をもつことができる。(思･判・表C(1)オ） ■昔話の読み聞かせを聞き、おもしろいと思うところを伝え合う。	1		【知・技】昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。((3)ア） 【思・判・表】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ） 【態】進んで昔話の読み聞かせを聞いて伝統的な言語文化に親しみ、これまでの学習をいかして、おもしろいと思うことを共有しようとしている。
11月	かん字のひろば④ ２時間（書②） ◎第１学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■数を表す言葉を使って、算数の問題を作って書く。 ☆足し算や引き算の問題作り（算数）	1 ～ 2	・問題の書き方を確かめる。 ・「は」「へ」「を」や句読点の使い方に気をつける。 ・数詞の存在に気づき、それを用いて書く。	【知・技】第１学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。（B(1)ウ） 【態】進んで第１学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。
11月 ～ 12月	思いうかべたことをもとに、お話をしょうかいしよう みきのたからもの 10時間（読⑩） ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができ	1 ～ 2	・P57を見て、カードの持ち主や「みき」の宝物は何かを予想する。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ） ・読書に親しみ、いろいろな本が

	る。(思・判・表C(1)エ) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ■物語を読み、あらすじをまとめて紹介する文章を書く。 ☆教科書で紹介されている本を参考に、楽しく読める本を図書館で探して読む活動(図書館活用)	3 〜 4 5 〜 7 8 9 10	を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・誰が何をしたか、どんな出来事が起こったかを確かめる。 ・登場人物の様子や行動を、言葉や挿絵を手がかりにして捉える。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	あることを知っている。((3)エ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) 【態】登場人物の様子を具体的に想像することに積極的に取り組み、学習の見通しをもってお話を紹介する文章を書こうとしている。
12月	組み立てを考えて、お話を書こう			
	お話のさくしゃになろう 10時間(書⑩) ◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ◎自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ■絵から想像を広げて物語を書く。	1 2 〜 3 4 〜 5 6 〜 8 9 10	・これまで学習してきた物語教材を振り返ったり、自分が好きなお話のあらすじを友達に紹介したりする。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・P75の絵や「お話を考えるときは」を参考にする。 ・「組み立てのれい」を見て、まねしてみたいと思うところを考える。 ・P76「組み立てを考えるときは」を参考に、「はじめ」「中」「おわり」のまとまりで考える。 ・P77「友だちの考えたお話を聞いたときは」を参考に、友達どうしでアドバイスし合う。 ・P78下段を参考にする。 ・書いたら、声に出して読んでみる。その際、P29「主語と述語に気をつけよう」で学んだことをいかす。 ・最後に題名をつける。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ) 【態】事柄の順序に沿って粘り強く構成を考え、学習課題に沿って物語を書こうとしている。
12月	冬がいっぱい 2時間(書②) ◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)	1 2

	オ） ○経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表 B(1)ア） ■冬を感じる言葉や詩を見つけ、自分の感想を添えた、冬のカードを作る。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材（道徳、生活科） ☆冬の季節感が感じられる曲や歌を楽しむ活動（音楽） ☆冬を感じるものの撮影（ＩＣＴ活用）		・これまでに書きためたカードを読み合ってもよい。	【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書こうとしている。
１月	ねこのこ おとのはなびら はんたいことば ２時間（読②） ◎詩を読んで、感じたことや分かったことを共有することができる。（思・判・表 C(1)カ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■詩を楽しんで読み、お気に入りの詩をカードに書いて交流する。 ☆友達に贈る詩を図書館で探す活動（図書館活用）	1 2		【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで、感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ) 【態】詩を読んで感じたことを進んで共有し、学習課題に沿って詩を紹介しようとしている。
１月	かたかなで書くことば ２時間（書②） ◎片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ・語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表 B(1)ウ） ■絵と対応する文を書く。	1 2		【知・技】片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文の中で使っている。((1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】積極的に、片仮名で書く語の種類を知り、これまでの学習をいかして、片仮名を使って文を書こうとしている。
１月	ことばを楽しもう １時間（知・技①） ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ） ■言葉遊びを楽しむ。	1		【知・技】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。((3)イ) 【態】積極的に、言葉の豊かさに気づき、学習課題に沿って言葉遊びを楽しもうとしている。
１月	だいじなことばに気をつけて読み、分かったことを知らせよう			
	ロボット 12 時間（読⑫） ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知･技(3)エ) ◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。（思・判・表 C(1)カ） ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思・判・表	1 ～ 2 3 ～ 7	・P87を見て、文章の内容を想像したり、見たことのあるロボットについて出し合ったりする。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・大事だと思う言葉を見つけてノートに書く。	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3)エ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の中 の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)

	C(1)ウ） **■ロボットについて説明する文章を読み、考えたことを伝え合う。** **☆ロボットを紹介している本を、図書館で探して読む活動（図書館活用）** **☆ロボットについてのインターネット検索（ＩＣＴ活用）**	8 〜 9 10 〜 11 12	・P96「この本、読もう」を参考にする。 ・「ふりかえろう」で、単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【態】文章を読んで、感じたことや分かったことを進んで共有し、学習の見通しをもって、本を読んで分かったことを説明しようとしている。
1月	ことばについて考えよう			
	ようすをあらわすことば **４時間（知・技①、書③）** **◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知･技(1)オ)** **○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア）** **○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)** **■様子を表す言葉を使って文を書く。**	1 〜 2 3 4	・P98を読み、「といをもとう」を基に、ロボロボが雨の様子を、友達にどのように伝えればよかったかを考える。 ・様子を表す言葉には、いろいろな種類があることを理解する。	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。((1)ア) ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】進んで身近なことを表す語句の量を増やして語彙を豊かにし、学習課題に沿って、様子を表す言葉を使って文を書こうとしている。
1月 〜 2月	詩を作って、読み合おう 見たこと、かんじたこと **６時間（書⑥）** **◎詩に対する感想を伝え合い、自分の詩の内容や表現のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ)** **○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知･技(1)オ)** **■経験したことを基に詩を書いて、読み合う。**	1 2 3 〜 4 5 6	・詩を作って、読み合うという学習課題を確認する。 ・教科書の二つの詩を読み、題材や書き方のよいところを見つけて交流する。 ・P102「詩に書くことを考えるときは」を参考に題材を探し、カードやノートに書く。 ・心が動いたことで、詩になりそうな題材を選ぶ。 ・P98「ようすをあらわすことば」やP165「ことばのたからばこ」などから、読む人にそのときの様子や気持ちが伝わる言葉を選ぶ。 ・友達の感想を基に自分の詩を読み直し、自分の詩の表現のよいところを考える。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、詩に対する感想を伝え合い、自分の詩の内容や表現のよいところを見つけている。(B(1)オ) 【態】進んで感想を伝え合い、これまでの学習をいかして詩を書き、読み合おうとしている。
2月	カンジーはかせの大はつめい **２時間（知・技②）** **◎第２学年までに配当されている漢字**	1 〜 2		【知・技】第２学年までに配当されている漢字を読み、漸次書いている。((1)エ)

	を読み、漸次書くことができる。(知・技(1)エ)			【態】積極的に第２学年までに配当されている漢字を読んだり書いたりし、これまでの学習をいかして漢字クイズに取り組もうとしている。
２月	思いをつたえる手紙を書こう			
	すてきなところをつたえよう **10 時間（書⑩）** **◎丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。（知・技(1)キ）** **◎語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表 B(1)ウ）** **■友達に手紙を書いて届ける。** **☆よりよい人間関係を築くのに資する題材（生活科・道徳）**	1 2 〜 3 4 〜 5 6 〜 8 9 10	・さまざまな場面での友達との関わりを振り返り、すてきだと感じたときのことを思い出す。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・伝えたい人を決め、さまざまな関わりを思い出してメモする。 ・メモしたことの中からいちばん伝えたいことを選ぶ。 ・P108の作例を読み、気づいたことや書き方のよさを話し合う。 ・P109「思いをつたえる手紙を書くときは」を参考に、手紙の組み立てを考える。 ・誤字・脱字はないか。 ・習った漢字は使えているか。 ・「は」「へ」「を」は、正しく書けているか。 ・主語と述語は対応しているか。 ・伝えたいことが分かりやすく書かれているか。 ・丁寧な言葉で書いているか。 ・返事は、P110のカードを参考に、手紙の内容についての感想やお礼の気持ちを書く。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。((1)キ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】積極的に語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫し、これまでの学習をいかして手紙を書こうとしている。
２月 〜 ３月	読んで、かんじたことをつたえ合おう スーホの白い馬 **14 時間（読⑭）** **◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。（思・判・表 C(1)カ）** **○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)** **○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)** **○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表 C(1)エ）** **■物語を読み、最も心を動かされたことについて、感想を交流する。** **☆世界の文化や風土などに親しむ題材（道徳）**	1 〜 2 3 〜 10 11 〜 13 14	・P111を見て、「スーホ」と「白い馬」の関係を想像する。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・P129「えらんで読みふかめよう」の中から読み深める観点を決めて考える。 ・同じ観点で考えた友達と比べる。 ・他の観点で考えた友達の意見を聞き合う。 ・P129「話し方のれい」や、P165「ことばのたからばこ」を参考にする。	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。((1)オ) ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ) 【態】文章を読んで感じたことや分かったことを進んで共有し、学習課題に沿って、最も心を動かされたこと

			・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	を伝え合おうとしている。
３月	かん字の広場⑤ **２時間（書②）** **◎第１学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）** **○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ）** **・語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ）** **■絵の様子を説明する文を書く。**	1 ～ 2	・主語と述語のつながりに気をつける。	【知・技】 ・第１学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】進んで第１学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして絵を説明する文を書こうとしている。
３月	組み立てを考えて、はっぴょうしよう			
	楽しかったよ、二年生 **８時間（話・聞⑧）** **◎姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。（知・技(1)イ）** **◎相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。（思・判・表A(1)イ）** **○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。（知・技(1)キ）** **○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ）** **■心に残ったことを発表する。** **☆１年間の生活を振り返り、心に残った経験などを紹介する活動（特別活動・生活科）** **☆１年間を振り返り、自分の成長を実感させる題材（生活科）** **☆練習時の様子の撮影（ＩＣＴ活用）**	1 2 ～ 3 4 ～ 6 7 8	・写真や学年だより、作った作品などを基に、２年生の４月から３月までの出来事を思い出す。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・たくさんの思い出の中から、いちばん伝えたい話題を選ぶ。 ・したこと、思ったこと、友達が言ったことなど、そのときの様子が分かることをメモする。 ・P134の組み立て例を参考に組み立て方を確かめ、どんな順序で話せばよく伝わるかを考えて、「はじめ」「中」「おわり」の組み立てで発表メモを作る。 ・丁寧な言葉を意識して原稿を書く。 ４発表のしかたを考えて練習する。 ・話すときの姿勢や視線 ・声の大きさや話す速さ ・心に残ったことやよかったところを伝え合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。((1)イ) ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。((1)キ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(A(1)イ) ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ) 【態】行動したことや経験したことに基づいて話す事柄の順序を粘り強く考え、これまでの学習をいかして発表しようとしている。
３月	二年生をふりかえって **１時間（書①）** **○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア）** **○経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア）** **■１年間の国語の学習活動を振り返って書く。**	1	・P138「『たいせつ』のまとめ」を参考にする。 ・教科書の空欄に、振り返って思ったことや考えたことを丁寧に書く。 ・書いたものを友達と見せ合い、思ったことを伝え合う。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。((1)ア) 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】進んで、経験したことなどから書くために必要な事柄を集めたり確かめたりし、これまでの学習をいか

				して、１年間の振り返りを書こうとしている。

３年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
４月	よく聞いて、じこしょうかい **１時間（話・聞①）** **○相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。（知・技(1)イ）** **○話し手が伝えたいことの中心を捉えることができる。（思・判・表 A(1)エ）** **■自己紹介をする。** **☆楽しい学級づくり（特別活動）**	1		【知・技】相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。（(1)イ） 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話し手が伝えたいことの中心を捉えている。（A(1)エ） 【態】積極的に相手を見て話したり聞いたりし、学習課題に沿って自己紹介をしようとしている。
４月	どきん **１時間（読①）** **◎文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。（知・技(1)ク）** **○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。（思・判・表 C(1)カ）** **■詩を楽しんで音読する。**	1	・行末の擬声語や擬態語に注意する。 ・強弱をつけたり、身振りを交えたりして読む。 ・音読をして感じた楽しさをノートに書く。 ・「この本、読もう」で、詩集を読み広げることに関心をもつ。	【知・技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（(1)ク） 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。（C(1)カ） 【態】積極的に文章全体の構成や内容の大体を意識し、学習課題に沿って楽しんで詩を音読しようとしてい

内容解説資料

				る。
４月	わたしのさいこうの一日 つづけてみよう **１時間（書①）** **○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表Ｂ(1)ア）** **○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思･判･表Ｂ(1)ウ）** **・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。（知・技(1)オ）** **■想像を広げて架空の日記を書く。**	1		【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使っている。((1)オ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】経験したことや想像したことなどから書くことを進んで選び、学習課題に沿って架空の日記を書こうとしている。
４月	登場人物の気持ちをたしかめ、そうぞうしたことをつたえ合おう			
	春風をたどって **８時間（読⑧）** **◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ）** **◎登場人物の行動や気持ちなどについて､叙述を基に捉えることができる。（思・判・表Ｃ(1)イ）** **○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。（知・技(1)ク）** **■読んで想像したことを伝え合う。** **☆自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にする心を育てる題材（道徳）**	1 2 ～ 6 7 ～ 8	・P21を見て、どのような物語なのかを想像する。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・P32「言葉に着目しよう」を参考にして、「ルウ」の気持ちが分かる言葉をまとめる。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・様子や行動､気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)オ) ・文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて､叙述を基に捉えている。(C(1)イ) 【態】進んで、登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉え、学習課題に沿って想像したことを伝え合おうとしている。
４月	図書館たんていだん **１時間（知・技①）** **◎読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ）** **■図書館の地図を作り、本を探す。** **☆図書館の配架を知る活動（図書館活用）**	1	・グループで学校図書館の地図を作り、棚ごとにどのような種類の本があるのかを調べる。 ・読みたい本や必要な本を、紹介コーナーや棚の番号などで探す。 ・読書記録のつけ方を知る。	【知・技】読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。((3)オ) 【態】読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことを積極的に知り、学習課題に沿って学校図書館の工夫について調べようとしている。
４月	国語辞典を使おう **２時間（知・技②）** **◎辞書の使い方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ）** **☆考えをまとめる活動などの漢字の確かめ（総合的な学習の時間など）**	1 ～ 2	・「問いをもとう」を基に、どのようなときに国語辞典を使うのかを考える。 ・国語辞典を開いたり､P38の二次元コードを参考にしたりして､「国語辞典のれい」の内容を確かめる。	【知・技】辞書の使い方を理解し使っている。((2)イ) 【態】進んで辞書の使い方を理解し、学習課題に沿って国語辞典を使おうとしている。

			・国語辞典では、どのような決まりで言葉が示されているかを知る。 ・P40の設問に取り組み、示されているいろいろな語を辞書で引く。 ・調べて分かった意味をノートにまとめる。 ・「いかそう」を読み、学んだことをいかしたい場面を考える。	
４月	漢字の広場① ２時間（書②） ◎第２学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	1 ～ 2		【知・技】第２学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【態】積極的に第２学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
４月	春のくらし ２時間（書②） ◎語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■春を感じたことについて、文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳） ☆春を感じたものの撮影（ＩＣＴ活用）	1 2	・教科書の言葉や絵から知っていることを発表したり、連想する言葉を出し合ったりする。	【知・技】語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。
５月	知りたいことを考えながら聞き、しつもんしよう			
	もっと知りたい、友だちのこと 【コラム】きちんとつたえるために ６時間（話・聞⑥） ◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ◎必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。（思・判・表A(1)エ） ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ■知らせたいことを話したり、知りたいことを質問したりする。 ☆友達の新たな一面やよさを知る活動（特別活動、道徳）	1 2 3 4 ～ 6	・友達のことを知るために、グループになって話を聞き合う方法を知る。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・友達に知らせたいことを箇条書きでノートに書き、その中から一つに決める。 ・P45「しつもんのしゅるい」を参考にして、質問の種類や話の聞き方を整理する。 ・P46の二次元コードから、聞き方や質問のしかたのよいところを考える。 ・聞き手は、話の中心に気をつけて聞き、自分が特に知りたいことをはっきりさせ、質問を考える。 ・大事なことを落とさないように質問したり、答えたりする。その際、P48「きちんとつたえるために」を参考にしてもよい。	【知・技】相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。((1)イ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(A(1)エ) 【態】粘り強く話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、学習の見通しをもって話したり、質問したりしようとしている。

			・「ふりかえろう」で、単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。その際、P148「インタビュー」を参考にしてもよい。	
５月	漢字の音と訓 **２時間（知・技②）** **◎第３学年までに配当されている漢字を読むことができる。（知・技(1)エ）**	1 ～ 2	・P150「これまでに習った漢字」を使うなどして、既習の漢字の音と訓を確かめる。 ・P51の設問に取り組む。	【知・技】第３学年までに配当されている漢字を読んでいる。((1)エ) 【態】進んで第３学年までに配当されている漢字を読み、学習課題に沿ってよりよく漢字を学ぼうとしている。
５月	漢字の広場② **２時間（書②）** **◎第２学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）** **○接続する語句の役割について理解することができる。（知・技(1)カ）** **・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ）** **■絵を見て想像したことを基に文を書く。**	1 ～ 2		【知・技】 ・第２学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) ・接続する語句の役割について理解している。((1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【態】積極的に第２学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
５月	まとまりをとらえて読み、かんそうを話そう			
	文様 こまを楽しむ **【じょうほう】全体と中心** **８時間（知・技①、読⑦）** **◎全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア）** **◎段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)ア）** **○段落の役割について理解することができる。（知・技(1)カ）** **○目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。（思・判・表C(1)ウ）** **■説明する文章を読み、感想を伝え合う。** **☆伝統や文化を知り、歴史を愛する題材（道徳）**	1 ～ 2 3 ～ 6 7 ～ 8	・P53を見て、文様やこまについて知っていることを発表し合う。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・P160を参考に「問い」と「段落」の意味を理解する。 ・「問い」に書かれていることを確かめる。 ・「問い」の「答え」に当たる部分はどこかを考えながら音読する。 ・文章全体の「まとめ」にあたる段落を確かめる。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に学習のめあてを確かめる。 ・文章の中の「問い」を二つに分けて、ノートに書く。 ・段落に番号を付けて、「はじめ」「中」「おわり」のまとまりに分ける。その際、P65「全体と中心」を参考にするとよい。 ・「中」に書かれている「問い」に対する「答え」を確かめ、ノートに整理する。 ・「中」には、「答え」の他にどのようなことが書かれているかを確かめ、そのことが書かれている理由を考える。 ・「おわり」に書かれていることを確かめ、その役割を考える。 ・六つのこまの中から、いちばん遊んでみたいこまとその理由をノートに書く。	【知・技】 ・段落の役割について理解している。((1)カ) ・全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。(C(1)ウ) 【態】進んで段落相互の関係に着目しながら内容を捉え、学習課題に沿って説明する文章を読んだ感想を伝え合おうとしている。

			・友達の感想との共通点や相違点など、気づいたことをノートに書く。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	
６月	相手に分かりやすいように、あんないの手紙を書こう			
	気持ちをこめて、「来てください」 **４時間（書④）** **◎丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。（知・技(1)キ）** **◎間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ）** **〇言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア）** **■行事を案内する手紙を書く。** **☆時と場に応じた適切な手紙を書く活動（社会、総合的な学習の時間）**	1 2 〜 3 4	・運動会や学習発表会などの、誰かに見に来てほしい行事や、手紙を送りたい相手を想起する。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・日時、場所、行事の説明、気持ちなど、行事を案内するときに何を書くとよいかを考える。 ・P68「あんないの手紙を読みかえすときは」を参考にして文章を整える。 ・書き終わったら、声に出して読み返し、確かめる。 ・郵便で送る場合は、住所と宛名を書く。その際、P147「手紙を送ろう」を参考にするとよい。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。（(1)キ） 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。（B(1)エ） 【態】粘り強く、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整え、学習の見通しをもって行事を案内する手紙を書こうとしている。
６月	漢字の広場③ **２時間（書②）** **◎第２学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）** **・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ）** **■絵を見て想像したことを基に文を書く。**	1 〜 2		【知・技】第２学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。（B(1)エ） 【態】積極的に第２学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
６月	登場人物のへんかに気をつけて読み、すきな場面について話し合おう			
	まいごのかぎ **６時間（読⑥）** **◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ）** **〇様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ）**	1 2 〜 4	・P71を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・場所や出来事に気をつけて読み、場面分けする。 ・各場面での出来事や、そのときの「りいこ」の気持ちをノートにまとめる。	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（C(1)エ） 【態】登場人物の気持ちの変化につい

	■物語を読んで、好きな場面について話し合う。	5 6	・「りいこ」の言動を表す言葉に着目して、不思議な出来事に対する「りいこ」の考え方や気持ちをまとめる。 ・「りいこ」の変化との関わりを考えながら、ノートにまとめる。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	て、進んで場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って物語の好きな場面について話し合おうとしている。
６月	俳句を楽しもう **１時間（知・技①）** **◎易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア）** **■俳句を音読する。** **☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳）** **☆五音と七音を組み合わせた詩などを探す活動（図書館活用）**	1	・俳句は、「５・７・５」の17音で作られていることや季語があることを確認する。 ・どこで区切るかを考えたり、音のリズムを確かめたりして、言葉の響きや調子を楽しむ。 ・P92の二次元コードから音声を聞くのもよい。	【知・技】易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア） 【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って俳句を音読したり暗唱したりしようとしている。
６月	こそあど言葉を使いこなそう **２時間（知・技②）** **◎指示する語句の役割について理解することができる。（知・技(1)カ）**	1 ～ 2	・「問いをもとう」を基に、生活の中でうまく伝わらなかったことを想起する。 ・「こそあど言葉」には、相手との距離や目的などによって、使い分けがあることを理解する。 ・P95の設問1に取り組む。 □ □ ・「いかそう」を読み、学んだことをいかしたい場面を考える。	【知・技】指示する語句の役割について理解している。（(1)カ） 【態】積極的に指示する語句の役割について理解し、学習課題に沿って使おうとしている。
６月	**【じょうほう】引用するとき** **３時間（知・技①、書②）** **◎引用のしかたや出典の示し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ）** **・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ）** **■本などから調べたことを書き留め、引用して文章を書く。** **☆調べたことを文章にまとめる活動（社会など）**	1 ～ 3	・P96を参考に、本などから調べたことを報告する際は、自分の考えと区別しなくてはならないことを理解する。その際、P160「学習に用いる言葉」を確かめる。 ・文章の中で引用する際の決まりを確かめる。 ・出典の示し方を理解し、それが奥付にまとめられていることを知る。 ・「いかそう」を読み、学んだことをいかしたい場面を考える。	【知・技】引用のしかたや出典の示し方を理解し使っている。（(2)イ） 【思・判・表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】積極的に引用のしかたや出典の示し方を理解し使い、学習課題に沿って本などから調べたことを引用して文章を書こうとしている。
７月	つたえたいことをはっきりさせて、ほうこくする文章を書こう			
	仕事のくふう、見つけたよ **【コラム】符号など** 10 時間（書⑩）	1 ～ 2	・大人になったらしたい仕事を話し合い、そこにはどのような工夫があるかを想像する。	【知・技】 ・改行のしかたを理解して文や文章の中で使うとともに、句読

	◎相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○改行のしかたを理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つことができる。(知・技(1)ウ) ○段落の役割について理解することができる。(知・技(1)カ) ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■調べたことを報告する文章を書く。 ☆調べたいことを決めて、調査を行い、報告する文章にまとめる活動(社会、総合的な学習の時間) ☆調べる仕事についての本を探す活動(図書館活用) ☆見つけた工夫の撮影(ＩＣＴ活用)	3 ～ 6 7 ～ 9 10	・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・興味のある仕事について、本を読んだり、見学をしたり、インタビューをしたりして調べる。 ・調べて分かったことはメモをする。 ・P99「つたえることをえらぶときは」やP100「土川さんのメモ」を参考にするなどして、特に伝えたいことは何かを考え、読み手のことを意識して伝えることを選ぶ。 ・P100を参考に、伝えたいことを内容のまとまりに分けて整理する。 ・P101の文章や二次元コードを参考にし、気をつけることを確認してから書き始める。 ・句読点などの使い方などにも注意して書く。その際、P103「符号など」を参考にするとよい。 ・報告文の書き方や印象に残ったことなどについて伝え合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	点を適切に打っている。((1)ウ) ・段落の役割について理解している。((1)カ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】進んで相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって調べたことを報告する文章を書こうとしている。
７月	夏のくらし ２時間(書②) ◎語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■夏を感じたことについて文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材(道徳) ☆夏を感じたものの撮影(ＩＣＴ活用)	1 2	・教科書の言葉や絵から知っていることを発表したり、連想する言葉を出し合ったりする。	【知・技】語句の量を増し、文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。
７月	本は友だち			
	本で知ったことをクイズにしよう 鳥になったきょうりゅうの話 ５時間(読⑤) ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ) ■図鑑や科学読み物を読んで、クイズを出し合う。 ☆本を選んで読む活動(図書館活用)	1 2 3 ～ 5	・本から新しい知識を得た経験を想起する。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・どんな本を、どのように読んでいるかを友達と話し合う。 ・P160を見るなどして、索引の使い方を理解する。 ・「この本、読もう」などを参考にして本を選んで読む。 ・驚いたことや友達が知らないと思うことなどか	【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。((3)オ) 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ) 【態】進んで幅広く読書に親しみ、学習課題に沿って本で知ったことをクイズにしようとしている。

			らクイズを考え、友達と出し合う。 ・「読書に親しむために」で、本の読み方を押さえる。	
９月	わたしと小鳥とすずと 夕日がせなかをおしてくる **２時間（読②）** **○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。（知・技(1)ク）** **○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ）** **■詩を読んで、思ったことや感じたことを話し合う。**	1 ～ 2	・連ごとに様子を思い浮かべながら音読する。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（(1)ク） 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（C(1)エ） 【態】進んで文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読し、学習課題に沿って詩を読んで思ったことや感じたことを話し合おうとしている。
９月	こんな係がクラスにほしい **３時間（話・聞③）** **◎考えとそれを支える理由や事例について理解することができる。（知・技(2)ア）** **◎目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)オ）** **○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりすることができる。（思・判・表A(1)ア）** **■グループで話し合い、考えを整理してまとめる。** **☆係活動における話し合い（特別活動）**	1 ～ 2 3	・思いついた係や仕事を付箋に書き出す。 ・理由と目的を出し合い、質問するなどして考えを広げる。 ・目的や仕事内容に分けて付箋に書き、話し合ったことを整理する。 ・それぞれのグループの発表を聞いて、感想を伝え合う。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】考えとそれを支える理由や事例について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりしている。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。（A(1)オ） 【態】進んで互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめ、学習の見通しをもってグループで話し合い、考えを整理してまとめようとしている。
９月	ポスターを読もう **２時間（読②）** **◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ）** **○比較や分類のしかたを理解し使うことができる。（知・技(2)イ）** **○目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。（思・判・表C(1)ウ）** **■ポスターを読み比べて、考えたことを伝え合う。**	1 2	・「キャッチコピー」について、P160「学習に用いる言葉」で確認するとよい。 ・どちらのポスターのほうがお祭りに行きたくなるか、理由とともに友達と話し合う。 ・二つのポスターを比べて、共通点や相違点をノートに整理する。その際、整理のしかたはP163「図を使って考えよう」を参考にしてもよい。 ・ポスターが作られた目的や知らせたい相手を考えて、なぜ相違点があるのかを話し合う。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】比較や分類のしかたを理解し使っている。（(2)イ） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。（C(1)ウ） ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。（C(1)オ） 【態】文章を読んで理解したことに基づいて、進んで感想や考えをもち、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
９月	書くことを考えるときは **２時間（書②）** **◎比較や分類のしかたを理解し使うことができる。（知・技(2)イ）** **◎相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くこと**	1 ～ 2	・中心にテーマを書き、線でつなぎながら考えを広げる。 ・相手や目的を意識して書くことを選ぶ。	【知・技】比較や分類のしかたを理解し使っている。（(2)イ） 【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分

	を選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） **■夏休みの思い出を書く。**		・図を見ながら、どのようにして書くことを選んだのかを伝え合う。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえ、この後の「書くこと」単元でも活用することを確かめる。	類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】粘り強く集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にし、学習課題に沿って夏休みの思い出を書こうとしている。
９月	漢字の組み立て **３時間（知・技③）** **◎漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解することができる。（知・技(3)ウ）**	1 ～ 3	・P130を参考に、２枚のカードを組み合わせて漢字を作る。 ・P131の設問に取り組み、国語辞典などで確かめる。 ・P132を参考に、２枚のカードを組み合わせて漢字を作る。 ・P133の設問に取り組み、国語辞典などで確かめる。	【知・技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。((3)ウ) 【態】漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて粘り強く理解し、学習課題に沿って漢字の構成を捉えようとしている。
９月	ローマ字 **４時間（知・技④）** **◎日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くことができる。（知・技(1)ウ）** **☆ローマ字入力（ＩＣＴ活用）**	1 ～ 3 4	・ローマ字表の見方、書き表し方の決まり、ローマ字入力について理解する。 ・P135の設問に取り組む。 ・P134の設問に取り組む。 ・好きな言葉などをローマ字で入力する。	【知・技】日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。((1)ウ) 【態】進んでローマ字で表記されたものを読み、学習課題に沿ってローマ字で書いたり入力したりしようとしている。

９月 ～ 10月	場面をくらべながら読み、感想を書こう ちいちゃんのかげおくり **10時間（読⑩）** **◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ）** **◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ）** **○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ）** **■物語を読み、感想をまとめる。** **☆戦争や平和について考え、平和を願う心を養う題材（道徳）**	1 ～ 2 3 ～ 7 8 ～ 9 10	・P13を見て、どのような物語なのかを想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・二つの「かげおくり」の間には、どのような出来事があったかを考える。 ・P29「まとめ方のれい」を参考にして、場面を比べて読んだり、詳しく読んだりして感じたことを、ノートに書く。 ・P165「言葉のたから箱」を参考にするとよい。 ・感じ方の共通点や相違点について交流する。 ・初発の感想と比べて、どのような読みの変容が	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【態】文章を読んで理解したことに基づいて、進んで感想や考えをもち、学習課題に沿って物語を読んだ感想をまとめようとしている。

			あったかを伝え合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・単元で身につけた力をいかして、P144「メロディ――大すきな　わたしのピアノ」を読むことを確かめる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	
10月	修飾語を使って書こう **２時間（知・技②）** **◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係について理解することができる。（知・技(1)カ）** **〇言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解することができる。（知・技(1)オ）**	1 ～ 2	・「問いをもとう」を基に、文が分かりにくい理由を考える。 ・主語と述語について、既習の内容を確認する。 ・修飾語によって、文の内容が詳しくなることを理解する。 ・P33の設問に取り組む。 ・「いかそう」を読み、学んだことをいかしたい場面を考える。	【知・技】 ・言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解している。((1)オ) ・主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係について理解している。((1)カ) 【態】粘り強く修飾と被修飾との関係について理解し、学習課題に沿って修飾語を使って文を書こうとしている。
10月	秋のくらし **２時間（書②）** **◎語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ）** **〇経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア）** **■秋を感じたことについて文章に書く。** **☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳）** **☆秋を感じたもののの撮影（ＩＣＴ活用）**	1 2	・教科書の言葉や絵から知っていることを発表したり、連想する言葉を出し合ったりする。	【知・技】語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。
10月	進行にそって、はんで話し合おう			
	おすすめの一さつを決めよう **８時間（話・聞⑧）** **◎比較や分類のしかたを理解し使うことができる。（知・技(2)イ）** **◎目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)オ）** **〇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア）** **■グループで役割を決めて話し合い、考えをまとめる。** **☆インタビューによって調査する活動（社会、総合的な学習の時間）** **☆おすすめの本を選ぶ活動（図書館活用）**	1 ～ 2 3 ～ 4 5 ～ 7 8	・１年生から依頼があり、班ごとに楽しい本を決めて紹介するという設定を確認する。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・司会、記録、計時などの役割があることを確認する。 ・P37「進め方のれい」を参考にして、話し合いの進め方をノートに書く。 ・P38の二次元コードで話し合いの例を見て、話し合いのしかたを知る。 ・P38-41を見ながら、司会と参加者が気をつけることを確認する。 ・自分の役割を意識して、意見と理由を明確にしながら話し合いを進める。 ・話し合いのしかたでよかったところを伝え合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとも	【知・技】比較や分類のしかたを理解し使っている。((2)イ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A(1)オ) 【態】粘り強く司会などの役割を果たしながら話し合い、学習の見通しをもって考えをまとめようとしている。

			に、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	
11月	れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう			
	すがたをかえる大豆 食べ物のひみつを教えます 12時間（書⑥、読⑥） ◎比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。(思・判・表C(1)ウ) ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ■筆者の説明の工夫を見つけ、食材について説明する文章を書く。 ☆食育に関わる題材（総合的な学習の時間） ☆食べ物について書かれた本を探す活動（図書館活用）	1 2 ～ 3 4 ～ 6

			・できあがったことわざ辞典を読み合い、感想を伝え合う。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	
11月	漢字の意味 **２時間（知・技②）** **◎漢字と仮名を用いた表記を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ）**	1 ～ 2	・漢字と仮名を交ぜて書くことで、意味が分かりやすくなることを理解する。	【知・技】漢字と仮名を用いた表記を理解して文や文章の中で使っている。((1)ウ) 【態】積極的に漢字と仮名を用いた表記を理解し、これまでの学習をいかして文や文章の中で使おうとしている。
11月	短歌を楽しもう **１時間（知・技①）** **◎易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア）** **☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳）**	1	・短歌は「５・７・５・７・７」の31音で作られていることや、情景や心情が込められていることなどを確認する。 ・P63の二次元コードから、音声を聞くのもよい。	【知・技】易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) 【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って短歌を音読したり暗唱したりしようとしている。
11月	漢字の広場④ **２時間（書②）** **◎第２学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）** **・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ）** **■絵を見て想像したことを基に文を書く。**	1 ～ 2		【知・技】第２学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【態】積極的に第２学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
12月	登場人物の行動や気持ちをとらえて、えらんだ民話をしょうかいしよう			
	三年とうげ **６時間（読⑥）** **◎登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)イ）** **○引用のしかたを理解し使うことができる。（知・技(2)イ）** **○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知･技(3)オ）** **○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ）** **■民話や昔話を紹介する。** **☆世界の文化に対する興味・関心を促し、その理解を図る題材（道徳、総合的な学習の時間）** **☆民話や昔話を探す活動(図書館活用)**	1 2 ～ 3 4 5 ～ 6	・これまでに読んだ民話や昔話を想起し、どんなところがおもしろかったかを伝え合う。 ・P65を見て、どのような内容の民話かを想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・並行読書を行う場合は、P77「この本、読もう」なども参考にし、学校図書館などで民話や昔話の本を探して読む。 ・設定、登場人物、出来事、展開、登場人物の行動や気持ちなどの観点から内容をまとめる。 ・行動や様子を表す言葉に着目し、ノートにまとめる。 ・出来事、登場人物の行動や気持ち、考え方、言葉の使われ方や文の調子などの観点からまとめる。 ・おもしろいところを引用しながら、民話を紹介する文章を書く。	【知・技】 ・引用のしかたを理解し使っている。((2)イ) ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。((3)オ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【態】登場人物の行動や気持ちなどについて、積極的に叙述を基に捉え、学習課題に沿って民話や昔話を紹介しようとしている。

			・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	
12月	しょうかいする文章を書き、感想をつたえ合おう			
	わたしの町のよいところ 10時間（書⑩） ◎書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ) ○考えとそれを支える理由について理解することができる。(知・技(2)ア) ■町のよさを紹介する文章を書く。 ☆身近な地域を観察・調査する題材(社会) ☆文章に適切な写真の撮影（ＩＣＴ活用）	1 2 ～ 3 4 ～ 5 6 ～ 8 9 ～ 10	・自分が住む町には、どのようなものがあるかを想起する。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・紹介したいものとその理由を図を使って書き出し、書くことを選ぶ。 ・P83「水野さんの組み立てメモ」を参考にして、どのような順序で書くかを考える。 ・P84「水野さんが書いた、しょうかいする文章」を読み、紹介する文章を書くときのポイントを確認する。 ・内容と書き方の両面から感想を伝え合い、自分の文章のよい点を考える。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】考えとそれを支える理由について理解している。((2)ア) 【思・判・表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ) 【態】積極的に文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけ、学習課題に沿って町のよさを紹介する文章を書こうとしている。
12月	冬のくらし ２時間（書②） ◎語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■冬を感じたことについて文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳） ☆冬を感じたものの撮影（ＩＣＴ活用）	1 2	・教科書の言葉や絵から知っていることを発表したり、連想する言葉を出し合ったりする。	【知・技】語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。
１月	詩のくふうを楽しもう ４時間（書②、読②） ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。（知・技(1)ク） ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ) ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ■詩を創作する。 ☆詩を探す活動（図書館活用）	1 2 ～ 4 	・言葉のリズムや響きを楽しみながら音読する。 ・それぞれの行の最初の字をつなげたり、文字や詩全体の形を絵のように見たりする。 ・６編の詩の工夫をいかしながら創作する。 ・活動を通して気づいた詩のおもしろさを発表する。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【態】進んで文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読し、学習課題に沿って詩を創作しようとしている。

１月	四まいの絵を使って **２時間（書②）** **◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。（思・判・表Ｂ(1)イ）** **○段落の役割について理解することができる。（知・技(1)カ）** **■考えた物語の流れを伝え合う。**	1 ～ 2	・「始まり」「出来事」「解決」「結び」という組み立てを知る。 ・「三年とうげ」の組み立てを確かめる。 ・それぞれの絵について考えたことを、簡単に書き出す。 ・物語の基本的な組み立てを参考にして、おおまかな話の流れをメモする。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】段落の役割について理解している。((1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ) 【態】書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考えることに粘り強く取り組み、学習課題に沿って物語の流れを書こうとしている。
１月	カンジーはかせの音訓かるた **２時間（知・技②）** **◎第３学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）**	1 ～ 2	・P95「作り方」を参考にして歌を作る。P154「これまでに習った漢字」、P159「この本で習う漢字」を参考にしてもよい。 ・正しく音と訓が使えているかを確認する。	【知・技】第３学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【態】進んで第３学年までに配当されている漢字を読み、学習課題に沿って漢字の音訓を使った文を書こうとしている。
１月	漢字の広場⑤ **２時間（書②）** **◎第２学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）** **・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表Ｂ(1)エ）** **■絵を見て想像したことを基に文を書く。**	1 ～ 2		【知・技】第２学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【態】積極的に第２学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
１月	読んで考えたことをつたえ合おう			
	ありの行列 **７時間（読⑦）** **◎指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。（知・技(1)カ）** **◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表Ｃ(1)オ）** **◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。（思・判・表Ｃ(1)カ）** **○言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解することができる。（知・技(1)オ）** **■文章を読んで考えたことを伝え合う。** **☆生き物の生態や不思議さに目を向けさせる題材（理科）**	1 2 ～ 5 6 7	・P97を見て、ありやありの行列について知っていることを出し合う。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・「問い」と「答え」が、どの段落にどのように書かれているかを捉える。 ・ウイルソンが調べたことやそこから考えたことを捉える。 ・P104「言葉に着目しよう」を参考にして、段落ごとに大事な言葉や文を見つける。 ・興味をもったこと、もっと知りたいことを中心にして書く。 ・共通点や相違点を見つけて伝え合う。	【知・技】 ・言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解している。((1)オ) ・指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ) 【態】進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習課題に沿って、考えたことを伝え合おうとしている。

			・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	
1月 ～ 2月	言葉について考えよう つたわる言葉で表そう ５時間（知・技②、書③） ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■相手に伝わる文章を書く。 ☆体験したことを報告する文章にまとめる活動（社会、総合的な学習の時間）	1 ～ 3 4 ～ 5	・P107を読み、「問いをもとう」を基に、伝えたいことがうまく伝わらなかった理由について考える。 ・様子や気持ちが伝わる言葉を使い、ロボロボの話し方を改善する。 ・似た意味でも言葉から受ける感じが違うことを知り、伝えたいことに合う言葉を選ぶ大切さを知る。 ・P109を読み、使える言葉を増やしていくきっかけについて考える。 ・P165「言葉のたから箱」を参考にしてもよい。	【知・技】 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【思・判・表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに積極的に気づき、学習の見通しをもって相手に伝わる文章を書こうとしている。
2月	書き表し方をくふうして、物語を書こう たから島のぼうけん ８時間（書⑧） ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ◎書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■物語を創作する。	1 ～ 3 4 ～ 6 7 ～ 8	・宝物を探す冒険というと、どんな物語が思い浮かぶか考える。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・P112「物語のないようを考えるときは」を確認し、登場人物や出来事などを書き出す。 ・P92「四まいの絵を使って」で学んだことをいかし、「始まり」「出来事」「解決」「結び」の組み立てに当てはめる。 ・P114-115「物語のれい」を読み、書き表し方のよさを見つける。 ・比喩や修飾語を用いるなどして、読み手を引きつけるように言葉を選んで書く。 ・P114「書き表し方を考えるときは」を参考に、表現を工夫して書く。 ・物語の内容と言葉の使い方のよさを伝え合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】進んで様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにし、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。
2月	つたえたいことを、理由をあげて話そう お気に入りの場所、教えます ８時間（話・聞⑧） ◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができ	1 ～ 2	・学校の中で自分が好きな場所を出し合う。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。	【知・技】 ・相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。（(1)イ）

	る。(知・技(1)イ) ◎相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えることができる。(思・判・表A(1)イ) ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心などの情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ○話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ■お気に入りの場所を発表する。 ☆発表に適切な写真の撮影（ＩＣＴ活用） ☆発表の練習を撮影し見返すことでよりよくする活動（ＩＣＴ活用）	3 ～ 4 5 ～ 6 7 ～ 8	・P117「話すことを考えるときは」を参考に、お気に入りの場所について考えを整理する。P167「図を使って考えよう」を参考にしてもよい。 ・どのような資料が必要かを考え、必要に応じて写真を撮りに行くなどする。 ・P118「発表メモのれい」やP119「発表のれい」を参考に、組み立ての工夫を見つける。 ・「はじめ」「中」「終わり」の組み立てを意識し、分かりやすく伝わるように発表メモを作る。 ・P118の二次元コードの動画を見て、話し方の工夫を確認する。 ・P119「話し方をくふうするときは」を参考にして、ポイントを意識して練習をする。 ・必要に応じて練習の様子を撮影し見返して、話し方をよりよくする。 ・組み立てや話し方についてよかったところを伝え合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心などの情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えている。(A(1)イ) ・「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(A(1)ウ) 【態】進んで話の中心が明確になるように話の構成を考え、学習課題に沿ってお気に入りの場所を発表しようとしている。
３月	登場人物について考えたことを、つたえ合おう			
	モチモチの木 12時間（読⑫） ◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ) ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ■登場人物について考えたことをまとめ、伝え合う。 ☆他者への愛情をもち、勇気をもって実行する姿勢を育てる題材（道徳）	1 ～ 2 3 ～ 9 10 ～ 12

	することができる。(知・技(1)カ) **・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)** **■絵を見て想像したことを基に文章を書く。**			【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【態】積極的に第２学年までに学習した漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
３月	三年生をふり返って **１時間（書①）** **○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)** **○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)** **■１年間の国語科での学びを振り返って、書く。** **☆一人一人のキャリア形成と自己実現を育む題材（特別活動）**	1	・P140「『たいせつ』のまとめ」を基に、国語で学んだことを振り返る。	【知・技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。((1)ア) 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】進んで経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にし、学習課題に沿って１年間の振り返りを書こうとしている。

４年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
４月	力を合わせてばらばらに **１時間（話・聞①）** **○様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)** **○必要なことを記録しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。(思・判・表A(1)エ)** **■必要なことを聞いて情報を集める話し合いをする。**	1		【知・技】様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(A(1)エ) 【態】積極的に、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、学習の見通しをもって、情報を集める話し合いをしようとしている。
４月	春のうた **１時間（読①）** **◎詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク)** **○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ)** **■想像しながら詩を音読する。**	1	・教師の範読を聞き、「自分も音読してみたい」という思いをもつ。	【知・技】詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) 【態】積極的に情景などを具体的に想像して読み、学習課題に沿って、想

	☆自然のすばらしさに感動し、自然や動植物を大切にする心を育てる題材（道徳）			像しながら詩を音読しようとしている。
４月	なりきって書こう つづけてみよう **１時間（書①）** **○修飾と被修飾との関係について理解することができる。（知・技(1)カ）** **○書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思･判･表 B(1)オ)** **■好きなものなどになりきって想像したことを書く。**	1	・P19の創作文例（「リク（犬・八さい）」）を読み、「書きたい」「読み合いたい」という思いをもつとともに、学習の進め方を確かめる。 ・友達の感想から、自分の創作文のよいところを確かめる。	【知・技】修飾と被修飾との関係について理解している。((1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ) 【態】進んで感想や意見を伝え合い、学習の見通しをもって、なりきって想像したことを書こうとしている。
４月	ふしぎな出来事をとらえて読み、考えたことを話そう			
	白いぼうし **７時間（読⑦）** **◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ）** **◎登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。（思・判・表 C(1)イ）** **○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。（知・技(1)ク）** **■不思議なところについて考えたことを伝え合う。**	1 2 3 ～ 5 6 7	・P21を見て、題名やリード文から物語を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・友達の考えを聞いて、感じたことを書き留める。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ) ・文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ) 【態】進んで登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉え、学習課題に沿って、不思議なところについて考えたことを伝え合おうとしている。
４月	図書館の達人になろう **１時間（知・技①）** **◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知･技(3)オ)** **■本の探し方を考えながら学校図書館で本を探す。** **☆学校図書館を活用した調べ学習（図書館活用）**	1		【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。((3)オ) 【態】進んで読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づき、これまでの学習をいかして、本の探し方を考えながら学校図書館で本を探そうとしている。
４月	漢字辞典を使おう **２時間（知・技②）** **◎漢字辞典の使い方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ）**	1		【知・技】漢字辞典の使い方を理解し使っている。((2)イ) 【態】進んで漢字辞典の使い方を理解し、学習課題に沿って、漢字辞典を

		2		使って調べようとしている。
４月	春の楽しみ ２時間（書②） ◎様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■春の行事の様子を伝える手紙を書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳）	1 〜 2	・絵や写真を見て、自分の知っている言葉を書き出し、交流する。 ・教科書にはないが、自分の地域に伝わる行事を表す言葉がないか、話し合う。 友達と読み合い ・送る相手や伝える内容を明確にし、春の自然の様子や行事を表す語句を使って手紙を書く。 ・季節を言葉で表現するよさを味わう。	【知・技】様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に春の行事やその様子などを表す語句の量を増し、学習の見通しをもって、春の行事の様子を伝える手紙を書こうとしている。
５月	大事なことを落とさずに聞こう			
	聞き取りメモのくふう 【コラム】話し方や聞き方からつたわること ６時間（話・聞⑥） ◎必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。（思・判・表A(1)エ） ○相手を見て話したり聞いたりすることができる。(知・技(1)イ) ■聞きたいことを聞き、その内容を伝えるためにメモを取る。 ☆ＩＣＴ端末を活用した録音・録画（ＩＣＴ活用）	1 2 3 4 〜 5 6	・教師の体験談を聞き、先生たちが小学生の頃に夢中になっていたことを想像して、題材への関心を高める。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・二次元コードを使って音声を聞き、メモを取る。 ・P46のメモの例を見て、それぞれの工夫を見つけ、自分のメモと比べる。 ・グループで互いのメモの取り方を比べる。 ・聞き取りメモを基に、話の内容をクラスの友達に伝える。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・P48「話し方や聞き方からつたわること」を読み、話し方や聞き方の違いで相手の受け止め方や伝わることに違いが生じることについて考える。	【知・技】 ・相手を見て話したり聞いたりしている。((1)イ) ・必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。((2)イ) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(A(1)エ) 【態】粘り強く必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話の中心を捉え、学習の見通しをもって、聞いたことを伝えるためにメモを取ろうとしている。
５月	カンジーはかせの都道府県の旅１ ２時間（知・技②） ◎第４学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ■都道府県名を使った文を作る。 ☆地域に目を向けさせる題材（社会）	1 〜 2		【知・技】第４学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【態】進んで第４学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、学習課題に沿って、都道府県名を使った文を作ろうとしている。
５月	漢字の広場① ２時間（書②） ◎第３学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意	1 〜 2		【知・技】第３学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめ

	識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ■絵を見て想像したことを基に文を書く。			たりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【態】進んで第３学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。
５月	筆者の考えをとらえて、自分の考えを発表しよう			
	思いやりのデザイン アップとルーズで伝える 【じょうほう】考えと例 ８時間（知・技①、読⑦） ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ○接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。(知・技(1)カ) ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ■筆者の考えに対してもった自分の考えを伝え合う。 ☆情報の発信のしかたやその意図に目を向けて課題を解決する学習（総合的な学習の時間）	1 2 3 ～ 4 5 6 7 8	・P53を見て、題名やリード文から説明文を想像する。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・筆者の考えとその示し方を確かめ、例を対比することでどんなことが分かるかを考える。 ・筆者の考えに対する自分の考えをまとめる。 ・段落と写真の対応関係を考える。 ・筆者の考えが書かれた文章を見つける。 ・筆者の考えがどのように伝えられているかをつかむ。 ・P65「考えと例」を参考にしながら、それぞれの段落どうしの関係を捉える。 ・「アップ」と「ルーズ」を対比して説明することのよさについて考え、話し合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。 ９ P65「考えと例」を読み、課題に取り組む。	【知・技】 ・接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ) ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【態】粘り強く、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉え、学習の見通しをもって、自分の考えを伝え合おうとしている。
６月	気持ちが伝わる手紙を書こう			
	お礼の気持ちを伝えよう ４時間（書④） ◎相手や目的を意識して、経験したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。(知・技(1)キ) ■お礼の手紙を書く。 ☆校外学習の見学先への礼状送付（社会、総合的な学習の時間）	1 2 3 4 	・お礼の手紙を書きたい相手を考えて、活動への意欲を高める。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・何に対してお礼を言いたいのかを明確にするため、詳しく書き出す。 ・「初めの挨拶」「本文」「結びの挨拶」「後付け」といった、改まった手紙の形式を確かめる。 ・文末の表現や文字の間違い、言葉遣いに誤りがないかを確認する。 ・P69を参考にして、封筒に宛名と差出人の名前と住所を書く。 ・手紙で気持ちを伝えることのよさを話し合う。	【知・技】 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。((1)ア) ・丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。((1)キ) 【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】進んで相手や目的を意識して伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって、お礼の手紙を書こうとしている。

			・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	
６月	漢字の広場② **２時間（書②）** **◎第３学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）** **・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ）** **■絵を見て想像したことを基に文を書く。**	1 ～ 2	・主述の照応や句読点に気をつけて読み返す。	【知・技】第３学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【態】進んで第３学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。
６月	場面をくらべて読み、心にのこったことを伝え合おう			
	一つの花 **７時間（読⑦）**	1	・P71を見て、題名やリード文から物語を想像する。	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ)
	◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） **○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ）** **■心に残ったことを伝え合う。**	2 ～ 3 4 ～ 5 6 7	・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・どんな状況（時代、季節、場所等）の物語か、その中での登場人物の思いを会話や行動から確かめる。 ・P84「たいせつ」で、「くり返し出てくる物や言葉」に着目して読む方法を確かめる。 ・「一つだけ」という言葉が最後の場面に出てこない理由や、題名が表していることを考える。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) 【態】粘り強く、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、心に残ったところを伝え合おうとしている。
６月	つなぎ言葉のはたらきを知ろう **２時間（知・技②）** **◎接続する語句の役割について理解することができる。（知・技(1)カ）**	1 2	・「問いをもとう」を基に、つなぎ言葉とその役割について考える。	【知・技】接続する語句の役割について理解している。((1)カ) 【態】積極的に接続する語句の役割を理解し、これまでの学習をいかして、つなぎ言葉を使って文を書こうとしている。
６月	短歌・俳句に親しもう（一） **１時間（知・技①）** **◎易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア）** **■短歌や俳句を音読したり暗唱したりして親しむ。** **☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳）**	1	・おおよその意味が書かれた文を参考にして、言葉の響きやリズムを感じながら声に出して読み、風景や作者の心情を思い浮かべ、話し合う。 ・気に入った短歌や俳句を暗唱して楽しむ。	【知・技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) 【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って、短歌や俳句を音読したり暗唱したりしようとしている。

６月	【じょうほう】要約するとき **２時間（読②）** **◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。（思・判・表Ｃ(1)ウ）** **○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア）** **■文章を要約する。** **☆多くの情報を集め、目的を意識して内容を要約、発信（総合的な学習の時間）**	1 2	・P91の文章例を見て、要約した箇所がどのように用いられているかを確かめる。 ・必要な言葉や内容が抜けていないか、まとめ方を工夫しているところはあるかに気をつけて読み合う。 ６学習を振り返る。 ・「いかそう」を確かめる。	【知・技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。(C(1)ウ) 【態】粘り強く目的を意識して中心となる語や文を見つけ、学習課題に沿って、文章を要約しようとしている。
			・P138「あせの役わり」の要約に取り組む。	
６月 ～ ７月	見せ方を工夫して書こう 新聞を作ろう **【コラム】アンケート調査のしかた** **10時間（書⑩）** **◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)** **○比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方、引用のしかたや出典の示し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)** **○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)** **■新聞を作る。** **☆調べたことの整理、表現（社会、総合的な学習）**	1 2 3 4 ～ 5 6 7 ～ 8 9 10	・P93、96の新聞や、実際の新聞を見て、読む人のことを考えた新聞の工夫を見つける。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・P98「アンケート調査のしかた」を確認する。 ・それぞれが集めた材料をグループで確かめ、記事の大きさや割り付ける場所を考える。 ・何を言葉で伝え、何を写真や図などで伝えるのかを考え、写真や図の大きさや場所を考える。 ・実際の新聞を参考に、記事の書き方を考える。 ・記事の種類や伝えたい内容に合わせて、記事の文章の組み立てを考える。 ・記事の本文を書き、伝えたい内容に合った見出しを付ける。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方、引用のしかたや出典の示し方を理解し使っている。((2)イ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ) 【態】進んで書く内容の中心を明確にして構成を考え、学習の見通しをもって、新聞を作ろうとしている。
７月	カンジーはかせの都道府県の旅２ **２時間（知・技②）** **◎第４学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)** **■都道府県名を使った文を作る。**	1 ～ 2		【知・技】第４学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【態】進んで第４学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、学習課題に沿って、都道府県名を使った文を作ろうとしている。

	☆地域に目を向けさせる題材（社会）			
７月	夏の楽しみ ２時間（書②） ◎様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■夏の行事などを俳句にする。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳）	1 ～ 2	・絵や写真を見て、自分の知っている言葉を書き出し、交流する。 ・教科書にはないが、自分の地域に伝わる行事を表す言葉がないか、話し合う。 ・短歌や俳句を読み、夏の風景を表す言葉からその様子を豊かに想像する。 2 3繰り返し声に出して読み返したり、友達と読み合ったりして、 ・季節を言葉で表現するよさを味わう。	【知・技】様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に夏の行事やその様子などを表す語句の量を増し、学習の見通しをもって、夏の行事の様子を俳句で表現しようとしている。
７月	本は友達			
	本のポップや帯を作ろう 神様の階段 ５時間（読⑤） ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知･技(3)オ) ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ) ■読んでほしい１冊をポップや帯で紹介する。 ☆読書生活の充実（図書館活用）	1 2 3 4 5	１学習の見通しをもつ。 ・図書館や書店で、本のポップや帯を見た経験を語り合う。 ・学習の課題を設定し、学習計画を立てる。 ２本の読み方について話し合う。 3　読みたい本を選んで読む。 4 ５紹介したい事柄がはっきりするよう、本を読み返し、帯やポップにまとめる。 ・P107のポップや帯の例などを参考に、内容に盛り込む事柄を確かめる。 ・選んだ本を読み返し、心に残る場面や叙述、作品を読んで感じたことや考えたことなどを確かめる。 ・帯やポップの内容構成を具体的に考える。 6 7学 ・「読書に親しむために」で、本の読み方を押さえる。	【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。((3)オ) 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ) 【態】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって、本をポップや帯で紹介しようとしている。
９月	忘れもの ぼくは川 ２時間（読②） ○詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク) ○詩を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ■詩から受けた印象を伝え合う。	1 ～ 2	１場面の様子や人物の気持ちを想像しながら、声に出して読む。 ２それぞれの詩の特徴的な表現に着目し、何が何にたとえられているかを考えて、様子を思い浮かべる。 ３たとえを使った表現によってどんな印象を受けたかを話し合う。	【知・技】詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【態】進んで二つの詩を読んで理解したことに基づいて感想をもち、学習課題に沿って、詩から受けた印象を伝え合おうとしている。
９月	あなたなら、どう言う ３時間（話・聞③） ◎考えとそれを支える理由との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎目的を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。(思･判･表A(1)オ)	1 ～ 2 3	1P120の状況を踏まえ、グループで役割を決めて、それぞれの立場でやり取りをする。 ・役割を交代してやり取りを積み重ねることで、それぞれの立場での思いを理解する。 ・なぜそのような言い方をしたのかを話し合う。 ・互いが納得する方法を考える。 2　自分とは違う立場になって考えることのよさについて考える。 ３学習を振り返る。	【知・技】 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。((1)ア) ・考えとそれを支える理由との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、目的を確認して話し合い、

	○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) **■グループで役割を決めて、それぞれの立場で話し合いをする。** **☆ＩＣＴ端末の活用による録音、録画（ＩＣＴ活用）**		・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A(1)オ) 【態】積極的に、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめ、学習課題に沿って、異なる立場に立って話し合いをしようとしている。
９月	パンフレットを読もう **２時間（読②）** **◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。(思・判・表C(1)ウ)** **○読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ)** **○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ）** **■パンフレットの工夫について話し合う。** **☆調べ学習における情報収集（社会、総合的な学習の時間）**	1 2	**１身の回りでどんなパンフレットを見たことがあるかを紹介し合う。** ・それぞれのパンフレットに共通することを出し合い、パンフレットの特性を明らかにする。 **２P124-125 のパンフレットやパンフレットの実物を読んで、気づいたことを話し合う。** **３知りたい情報を得るためには、パンフレットをどのように読めばいいか考える。** **４パンフレットの工夫について話し合う。** ・パンフレットには、作られた目的や伝えたい相手に応じて工夫がなされていることを知る。 **学習を振り返る。** ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。((3)オ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。(C(1)ウ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【態】積極的に目的を意識して中心となる語や文を見つけ、学習課題に沿って、パンフレットの工夫について話し合おうとしている。
９月	どう直したらいいかな **２時間（書②）** **◎間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)** **○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。(知・技(1)カ)** **○丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。(知・技(1)キ)** **■文章を推敲する。** **☆日常生活や学習場面での記述とその見直し（各教科等）**	1 2	１文章を書いた後、これまでどのように見直していたかを想起する。 ２推敲の際に気をつけることを、文例を通して押さえる。 ・P126-127の卓球クラブの紹介文例を比べて読み、どこをどのように直したのか、なぜそのように直したのかを考えて話し合う。 ・推敲の際には、間違いを直したり、相手や目的に合うように書き換えたりすることを確かめる。 ３P127 の町の特徴を説明する文例を、１年生に読んでもらう文章に書き直す。 **４学習を振り返る。** ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえ、この後の「書くこと」単元でも活用することを確かめる。	【知・技】 ・主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ) ・丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。((1)キ) 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【態】　進んで文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、学習の見通しをもって、文章を推敲しようとしている。
９月	いろいろな意味をもつ言葉 **２時間（知・技②）** **◎様子や行動を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ）** **○国語辞典の使い方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)**	1 2	**１同音異義語があることを理解する。** ・「問いをもとう」を基に、同音異義語に出会った経験について想起する。 ・詩「とる」を参考にして、同音異義語のそれぞれの意味について考え、課題に取り組む。 **２国語辞典を使って、例示されている言葉の意味を調べ、意味の異なる用例を集めたり、言葉遊びの詩を作ったりして紹介し合う。** **学習を振り返る。** ・「いかそう」を確かめる。	【知・技】 ・様子や行動を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)オ) ・国語辞典の使い方を理解し使っている。((2)イ) 【態】進んで様子や行動を表す語句の量を増し、学習の見通しをもって、言葉遊びの詩を作ろうとしている。
９月	ローマ字を使いこなそう **２時間（知・技②）** **◎日常使われている簡単な単語について、ローマ字で書くことができる。（知・技(1)ウ）** **☆パソコンのキーボード入力など、必**	1	１ ・「問いをもとう」を基に、ローマ字で書かれている言葉にはどのようなものがあるのかを、日常生活を振り返って確かめる。 **２ローマ字で表記する際、二つの書き方（訓令式、ヘボン式）があることを知る。**	【知・技】日常使われている簡単な単語について、ローマ字で書いている。((1)ウ) 【態】積極的にローマ字の表記を考え、これまでの学習をいかして、ローマ字を書こうとしている。

	要な場面におけるローマ字の活用（ＩＣＴ活用） ☆ローマ字表記と英語の違いの確認（外国語活動）	2	３例示された言葉や身の回りの言葉を、訓令式とヘボン式でそれぞれ書く。 ４場面に応じた訓令式とヘボン式の使い分けについて考える。 ５日本語のローマ字表記と英語は、違うことを知る。 学習を振り返る。 ・「いかそう」を確かめる。	
９月	漢字の広場③ ２時間（書②） ◎第３学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○接続する語句の役割について理解することができる。（知・技(1)カ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	1 ～ 2	１教科書の絵を見て、場面や出来事を想像し、提示された言葉を使いながら、「おむすびころりん」と「浦島太郎」の話を完成させる。 ・「そして」「しかし」などのつなぎ言葉を使って書く。 ２書いたものを読み返し、間違いを直すなどして推敲する。	【知・技】 ・第３学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) ・接続する語句の役割について理解している。((1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【態】進んで第３学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。

９月 ～ 10月	気持ちの変化に着目して読み、感想を書こう			
	ごんぎつね 【コラム】言葉を分類しよう 12時間（知・技①、読⑪） ◎言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■物語の結末についての感想を書く。	1 2 ～ 6 7 ～ 8 9 10 ～ 11 12	・P13を見て、題名やリード文から物語を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・初読の感想を書き留めておく。 ・登場人物の言動から、その人物の性格や境遇、気持ちを考える。 ・情景から、人物の様子、気持ちを考える。 ・場面と場面を結び付けたり比べたりして、登場人物の気持ちの変化を考える。 ・新たに考えたことや思ったことを書き加える。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。 ・単元で身につけた力をいかして、P150「手ぶくろを買いに」を読む。 ・性質による言葉の分類があることに気づく。	【知・技】言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【態】進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想をもち、学習の見通しをもって、物語の結末についての感想を書こうとしている。
10月	漢字を正しく使おう ２時間（知・技②）	1 ～		【知・技】 ・漢字と仮名を用いた表記、送り

	◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) **○第４学年までに配当されている漢字を読み、第３学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第４学年に配当されている漢字を漸次書くことができる。(知・技(1)エ)**	**2**	・漢字を正しく用いるためにはどのようなことに注意すればよいのかについて、関心を高める。	仮名の付け方を理解して文や文章の中で使っている。((1)ウ) ・第４学年までに配当されている漢字を読み、第３学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第４学年に配当されている漢字を漸次書いている。((1)エ) 【態】進んで同音異義語や送り仮名の付け方などについて理解し、学習課題に沿って、漢字を文や文章の中で使おうとしている。
10 月	秋の楽しみ **２時間（書②）** **◎様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)** **○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)** **■秋の行事の楽しさを伝える手紙を書く。** **☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳）**	**1** **～** **2**	・絵や写真を見て、自分の知っている言葉を書き出し、交流する。 ・教科書にはないが、自分の地域に伝わる行事を表す言葉がないか、話し合う。 ・短歌や俳句を読み、秋の風景を表す言葉からその様子を豊かに想像する。 ・日付や宛名等、手紙の書き方を確認する。 ・送る相手や伝える内容を明確にし、秋の自然の様子や行事を表す語句を使って手紙を書く。 ・季節を言葉で表現するよさを味わう。	【知・技】様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に秋の行事やその様子などを表す語句の量を増し、学習の見通しをもって、秋の行事の様子を伝える手紙を書こうとしている。
10 月	役わりをいしきしながら話し合おう			
	クラスみんなで決めるには **８時間（話・聞⑧）** **◎比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)** **◎目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ)** **○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア)** **■役割を意識しながらクラス全体で話し合って考えをまとめる。** **☆役割を意識して話し合う姿勢を育てる題材（特別活動）** **☆自分と違う考えと接するときに、約束に則って適切に判断する態度について考える題材（道徳）** **☆ＩＣＴ端末を活用した録音・録画（ＩＣＴ活用）**	**1** **2** **3** **～** **4** **5** **～** **8**	・クラスで話し合いたい議題を考える。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・話し合いにおける役割を理解し、分担する。 ・日常生活の中から必要性の高い議題を選ぶ。 ・P42-45の話し合いの例を、二次元コードで見られる動画で視聴したり、文章で読んだりして、気をつけるとよいことを考え、交流する。 ・司会グループや提案者、参加者がそれぞれ気をつけるとよいことを確かめる。 ・司会グループは進行計画を立て、提案者や参加者は議題に対する自分の考えをまとめておく。 ・話し合いを振り返り、よかったところや次に気をつけたいところを伝え合う。振り返ったことを基に、別の議題で役割を変えて話し合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。((2)イ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A(1)オ) 【態】積極的に役割を果たしながら話し合い、学習課題に沿って、考えをまとめようとしている。
11 月	中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう			
	未来につなぐ工芸品 工芸品のみりょくを伝えよう **12 時間（書⑥、読⑥）**	**1**	・P47を見て、題名やリード文から工芸品に対するイメージを広げる。	【知・技】 ・事典の使い方を理解し使っている。((2)イ)

	◎事典の使い方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。(思・判・表C(1)ウ) ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ■調べて分かったことなどをまとめて書く。 ☆インターネットを活用した情報収集（ＩＣＴ活用） ☆図書館を活用した調べ学習（図書館活用） ☆我が国の伝統と文化を大切にする心を育てる題材（道徳）	2 ～ 3 4 5 ～ 6 7 8 9 10 ～ 11 12	・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・筆者の伝えたいことは何かを考えながら読み、文章の構成を捉える。 ・まとまりごとに中心となる語や文を確かめ、それを用いて文章全体を200字以内で要約する。その際、４上P90「要約するとき」を参考にするとよい。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。 ・P56「問いをもとう」「目標」を基に、学習のめあてを確かめる。 ・P58-59の作例を読み、資料の使い方など、リーフレットの書き方のよさを見つけ、自分の書く文章の組み立てや資料の使い方を考える。 ・表紙や裏表紙を作って仕上げる。 ・元になる資料や事典の文章を読み返し、自分が伝えたいことの中心となる語や文が含まれているかを確かめる。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。((3)オ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。(C(1)ウ) 【態】積極的に、中心となる語や文を見つけて要約したり、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫したりして、学習の見通しをもって、調べて分かったことをまとめて書こうとしている。
11月	慣用句 ２時間（知・技①、書①） ◎長い間使われてきた慣用句の意味を知り、使うことができる。(知・技(3)イ) ・相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■慣用句の意味を調べて文を作る。	1 ～ 2	・国語辞典にどのように例文が書かれているかを確かめる。 ・慣用句の意味を調べ、例文を作る。 ・作った例文を友達と交換し、正しく慣用句を使えているかどうか確かめ合う。	【知・技】長い間使われてきた慣用句の意味を知り、使っている。((3)イ) 【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】進んで慣用句の意味を知り、学習の見通しをもって、慣用句を使った文を書こうとしている。
11月	短歌・俳句に親しもう（二） １時間（知・技①） ◎易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ■短歌や俳句を音読したり暗唱したりして親しむ。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と	1	・おおよその意味が書かれた文を参考にして、言葉の響きやリズムを感じながら声に出して読み、風景や作者の心情を思い浮かべ、話し合う。 ・気に入った短歌や俳句を暗唱して楽しむ。	【知・技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) 【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って、短歌や俳句を音読したり暗唱したりしようとしている。

	愛情を養う題材（道徳）			
11月	漢字の広場④ **２時間（書②）** **◎第３学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）** **・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ）** **■絵を見て想像したことを基に文を書く。**	1 ～ 2	・漢字や送り仮名、句読点等が正しく使えているかを確かめ、間違いを直す。	【知・技】第３学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【態】進んで第３学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。
12月	つながりを見つけながら読み、おもしろいと思ったことを話し合おう			
	友情のかべ新聞 **８時間（読⑧）** **◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ）** **○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知･技(3)オ)** **■おもしろいと思ったところを伝え合う。** **☆関連図書の読書（図書館活用）**	1 2 3 ～ 4 5 6 ～ 8	・P65を見て、題名やリード文から物語を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・「この本、読もう」で取り上げられている本などのミステリーから読みたい本を選び、並行して読み進める。 ・叙述と叙述とを結び付けながら、どのような謎が、どのような叙述のつながりで解き明かせそうかを考える。 ・着目した謎と、それを解き明かす証拠の叙述を結び付けて、おもしろさを説明する文章に書きまとめる。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で取り上げられている本などのミステリーを読んでおもしろいと思ったところを伝え合う。	【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。((3)オ) 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) 【態】積極的に登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けながら想像して読み、学習の見通しをもって、おもしろいと思ったところを伝え合おうとしている。
12月	理由や例を挙げて、考えを書こう			
	もしものときにそなえよう **10時間（書⑩）** **◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア）** **◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思･判･表B(1)ウ)** **■調べて考えたことを文章に書く。** **☆自然災害に備えた防災学習（社会、理科）** **☆インターネットを活用した情報収集**	1 2 ～ 4 5 ～	・自然災害への備えについて知っていることを出し合う。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・「大雨」「津波」など、大きなテーマを選び、その中から特に詳しく知りたいことを決める。 ・さまざまな本や資料、インターネットを活用して情報を調べる。 ・分かったことはカードに書くなどして整理する。図や表を使って内容ごとに分類する。 ・P87の作例を読み、自分の考えを伝えるための書	【知・技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】積極的に自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にし、学習の見通しをもって、調べて考えたことを文章に書こうとしている。

	（ＩＣＴ活用） ☆図書館を活用した調べ学習（図書館活用）	6 7 ～ 8 9 10	き方の工夫を見つけ、気づいたことを話し合う。 ・挙げている理由や事例が考えを支えるものとなっているかを確かめる。 ・文章の最後には、引用文献、参考文献をそれぞれ書く。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	
12月	冬の楽しみ ２時間（書②） ◎様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■冬の行事の楽しさを伝えるかるたを作る。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳）	1 ～ 2	・絵を見て、自分の知っている言葉を書き出し、交流する。 ・教科書にはないが、自分の地域に伝わる行事を表す言葉がないか、話し合う。 ・読み札と取り札の書き方を確認する。 ・地域の冬の行事の楽しさを表す語句を使って読み札を作り、それに対応した取り札を作る。 ・完成したかるたで遊んだり、読み札の表現で工夫しているところを見つけて、伝え合ったりする。 ・季節を言葉で表現するよさを味わう。	【知・技】様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に冬の行事やその様子などを表す語句の量を増し、学習の見通しをもって、冬の行事の楽しさを知らせるかるたを作ろうとしている。
１月	自分だけの詩集を作ろう ４時間（書②、読②） ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知･技(3)オ） ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○詩を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。（思・判・表C(1)カ） ■詩や詩集を読み、自分だけの詩集を作る。 ☆テーマに合った詩の収集（図書館活用）	1 2 3 ～ 4	・３編の詩から想像される「月」が全く違うものであることや、自分と友達との感じ方に違いがあることに気づき、同じテーマで複数の作品を読むことの楽しさや感想を交流することのよさを知る。 ・言葉の使い方や書かれ方に目を向け、集めた詩とその理由をノートに書き出す。 ・自分の意図するテーマが明確になるように、集めた中からどの詩を載せるか検討し、載せる順番を考える。 ・自分の意図するテーマについて、最後のページで説明をする。 ・友達と詩集を読み合い、テーマが伝わるかどうかや感じ方の違いについて交流する。	【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。((3)オ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「読むこと」において、詩を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ) 【態】　進んで目的を意識して詩を選び、学習の見通しをもって、自分だけの詩集を作ろうとしている。
１月	言葉から連想を広げて ２時間（書②） ◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思･判･表B(1)ウ) ○必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)	1 ～ 2		【知・技】必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。((2)イ) 【思・判・表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】　進んで連想を広げ、書き表し方を工夫し、学習の見通しをもっ

	■連想したことを基にひと言で詩を書く。		・身の回りから題材を選んでひと言で詩を書く。 ・互いに読み合い、相手がなぜそのように表現したのか、連想の道筋を考える。 **５学習を振り返る。** ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえ、この後の「書くこと」単元でも活用することを確かめる。	て、ひと言で詩を書こうとしている。
１月	熟語の意味 **２時間（知・技②）** **◎第４学年までに配当されている漢字を読むことができる。（知・技(1)エ）**	1 ～ 2	・熟語を訓で読んでその意味を考え、友達と説明し合う。 ・漢字の組み合わせを手がかりに熟語の意味を考え、友達と説明し合う。 ・国語辞典や漢字辞典を引き、熟語の意味と自分たちの説明が一致するか確かめる。	【知・技】第４学年までに配当されている漢字を読んでいる。((1)エ) 【態】進んで第４学年までに配当されている漢字を読み、これまでの学習をいかして、漢字や熟語を正しく読んだり書いたりしようとしている。
１月	漢字の広場⑤ **２時間（書②）** **◎第３学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）** **・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ）** **■絵を見て想像したことを基に文を書く。**	1 ～ 2	・漢字や送り仮名、句読点等が正しく使えているかを確かめ、間違いを直す。	【知・技】第３学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【態】進んで第３学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。
１月	きょうみをもったことを中心に、しょうかいしよう			
	風船でうちゅうへ **８時間（読⑧）** **◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア）** **◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ）** **◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。（思・判・表C(1)カ）** **○様子や行動を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ）** **■興味をもったところを中心に要約して紹介する文章を書く。** **☆調査・結果・考察など、記録・報告における事実と考えの整理（理科、総合的な学習の時間）**	1 2 3 ～ 6 7 8	・P99を見て、題名やリード文から、文章の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・「もっと読もう」も併せて読み、自分が最も興味をもったことを明確にする。 ・書き出した言葉や文を使ったり、自分の言葉を用いたりして文章を要約する。 ・交流を通して、興味をもったところが違えば要約のしかたも異なることに気づく。 ・要約した文章を使い、感想とともに教材文を紹介する文章を書く。 ・「何の話か」「要約」「感想」という構成で、教材文を紹介する文章を書く。 ・自分との違いや、「いいな。」と思うところを伝え合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・様子や行動を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ) ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ) 【態】進んで、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習課題に沿って、要約して紹介する文章を書こうとしている。

２月	言葉について考えよう			
	つながりに気をつけよう **４時間（知・技①、書③）** **◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割について理解することができる。（知・技(1)カ）** **○間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ）** **■つながりに気をつけて文章を書く。**	1 2 ～ 3 4	・P113を読み、「問いをもとう」を基に、分かりやすく書くために必要なことを考える。 ・例文を読み、１文にまとめることで分かりやすくなることもあることを知る。 ・これまでの学習内容をいかして書き直す。 ・友達と、どこをどのように直したのかを説明し合う。	【知・技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割について理解している。((1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【態】進んで、主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割について理解し、これまでの学習をいかして、つながりに気をつけて文章を書こうとしている。
２月	言葉を選んで詩を書き、友達と読み合おう			
	心が動いたことを言葉に **７時間（書⑦）** **◎書こうとしたことが明確になっているかなど、詩に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)オ）** **○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や詩の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ）** **○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、連の役割について理解することができる。（知・技(1)カ）** **■心が動いたことを詩に書いて友達と読み合う。**	1 2 ～ 3 4 5 ～ 6 7	・心を動かされたことを振り返り、紹介し合う。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・心を動かされたことの中から、最も伝えたい題材を選ぶ。 ・どんな詩を書きたいか、行数や連の数などから考えてみる。 ・心を動かされたときのことについて、いちばん伝えたいことを中心に連想を広げて言葉を書き出す。 ・書いた作品を読み返し、心が動かされたときのことが伝わる表現かどうかを確かめ、整える。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や詩の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ) ・主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、連の役割について理解している。((1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、詩に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ) 【態】進んで感想を伝え合い、これまでの学習をいかして、心が動いたことを言葉にして書いた詩を読み合っている。
２月 ～ ３月	調べて分かったことを話そう			
	調べて話そう、生活調査隊 **８時間（話・聞⑧）** **◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。（知・技(1)イ）** **◎目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア）** **◎話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ）** **○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係に**	1 2 ～ 4 5	・普段の生活の中で疑問に思ったことを出し合い、題材への関心を高める。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・自分やみんなの生活について、感じていることをグループで出し合い、調べたいテーマを決める。 ・４上P98「アンケート調査のしかた」を参考に、アンケート調査をした経験をいかしてアンケートを取る。 ・アンケートから分かったことを明確にして、グラフや表にまとめる。	【知・技】 ・相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。((1)イ) ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」におい

	ついて理解することができる。(知・技(2)ア) ○相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。(思・判・表A(1)イ) ■調査の報告をする。 ☆目的を意識して調査結果を整理、発表（社会、理科、総合的な学習の時間） ☆ＩＣＴ端末を活用した録音･録画(ＩＣＴ活用)	～ 6 7 ～ 8	・P123「発表の例」を読んだり、動画を見たりして分かりやすく伝えるための工夫を考える。 ・互いの練習の様子を動画で撮影して工夫点を確かめる。 ・話し方の工夫を意識して発表する。 ・自分の生活と比べながら聞き、質問をしたり発表のよかったところを伝えたりする。 ・友達の感想から、自分の考えが正しく伝わっているか考える。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	て、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。(A(1)イ) ・「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(A(1)ウ) 【態】進んで、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、これまでの学習をいかして、調査の報告をしようとしている。
３月	読んで考えたことを、友達と伝え合おう			
	スワンレイクのほとりで ７時間（読⑦） ◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ) ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ■物語を読んで考えたことを伝え合う。	1 2 3 ～ 5 6 7	・P125を見て、題名やリード文から物語を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・同じ観点や違う観点の人と、どのような考えを見いだしているのかを伝え合い、考えを深める。 ・交流を通して新たに気づいたことや、一人一人の解釈や感じ方の違いを振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ) 【態】進んで一人一人の感じ方に違いがあることに気づき、学習の見通しをもって、物語を読んで考えたことを伝え合おうとしている。
３月	漢字の広場⑥ ２時間（書②） ◎第３学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	1 ～ 2	・漢字や送り仮名、句読点等が正しく使えているかを確かめ、間違いを直す。	【知・技】第３学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【態】進んで第３学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。
３月	四年生をふり返って １時間（書①） ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分	1		【知・技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。((1)ア) 【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確

	類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■１年間の国語科での学びを振り返り、書く。			にしている。(B(1)ア) 【態】進んで経験したことなどから書くことを選び、学習課題に沿って１年間の振り返りを書こうとしている。

５年

内容解説資料

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
４月	ひみつの言葉を引き出そう １時間（話・聞①） ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。（思・判・表A(1)エ） ■友達から「ひみつの言葉」を引き出せるように話す。	1	・カードを持たないメンバーは、どうすればカードを持つ人が「ひみつの言葉」を口にするかを考えながら話す。	【知・技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。((1)ア) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている。(A(1)エ) 【態】進んで自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、学習の見通しをもって友達から「ひみつの言葉」を引き出せるように話そうとしている。
４月	かんがえるのって　おもしろい １時間（読①） ◎詩を音読することができる。（知・技(1)ケ） ○詩を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ■音読して、想像したことを伝え合う。	1	・「どこかとおく」「しらないけしき」などの言葉が表していることを考える。	【知・技】詩を音読している。((1)ケ) 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) 【態】進んで詩を音読し、学習課題に沿って想像したことを伝え合おうとしている。
４月	名前を使って、自己しょうかい 続けてみよう １時間（書①） ○文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解することができる。（知・技(1)カ） ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)カ） ■自分を紹介する文章を書く。	1	・名前の文字から始まる言葉を思い浮かべ、自分の書きたいことに合ったものを選ぶ。 ・前後の文とのつながりを考えながら、文章を書く。	【知・技】文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解している。((1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)カ) 【態】積極的に文章の構成や展開について理解し、これまでの学習をいかして自分を紹介する文章を書こうと

				している。
４月	人物の心情や人物どうしの関わりをとらえ、印象に残ったことを伝え合おう			
	銀色の裏地 **５時間（読⑤）** **◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク）** **◎登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)イ）** **○情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ）** **■印象に残ったことを伝え合う。** **☆友情、信頼や相互理解に関わる題材（道徳）**	1 2 3 4 5 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	・P25を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・P36「言葉に着目しよう」を参考に、「理緒」の心情や、他の人物との関わりが表れているところに線を引く。 ・P37「関係を図に表す」を参考に、線を引いたところを使って、登場人物の関係を図に表す。 ・変化のきっかけになった出来事や言動について考える。 ・「理緒」から見た「高橋さん」の人物像について考える。 ・題名でもある「銀色の裏地」という言葉の意味について考える。 ・物語の中の印象的な表現や、自分の経験と重ねて感じたことから考える。	【知・技】 ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク） ・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（(2)イ） 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) 【態】粘り強く登場人物の相互関係や心情を捉え、学習の見通しをもって印象に残ったことを伝え合おうとしている。
４月	図書館を使いこなそう **１時間（知・技①）** **◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ）** **■本を探して、記録カードを書く。** **☆図書館で本を探す活動（図書館活用）**	1 ・「日本十進分類法」について知る。 ・著作権の観点から、図書を活用する際の留意点を確かめる。 ・自分でテーマやキーワードを決めて探す。		【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。（(3)オ） 【態】進んで読書が自分の考えを広げることに役立つことに気づき、これまでの学習をいかして本を探して、記録カードを書こうとしている。
４月	漢字の成り立ち **２時間（知・技②）** **◎漢字の由来、特質などについて理解することができる。（知・技(3)ウ）**	1 2 □ ・漢字辞典を使って、形声文字について確かめる。 □ ・漢字辞典を使って、漢字の成り立ちを確かめる。		【知・技】漢字の由来、特質などについて理解している。（(3)ウ） 【態】進んで漢字の由来、特質などに関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。

４月	春の空 **１時間（書①）** **◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア）** **○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ）** **○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。（思・判・表B(1)ア）** **■春らしいものや様子を文章に書く。** **☆我が国の伝統と文化を尊重する態度を養う題材（道徳）**	1		【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア) 【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って春らしいものや様子を文章に書こうとしている。
５月	話の意図を考えてきき合い、「きくこと」について考えよう			
	きいて、きいて、きいてみよう **６時間（話・聞⑥）** **◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ）** **◎話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)エ）** **○話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。（知・技(1)イ）** **○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。（思・判・表A(1)ア）** **■インタビューをし、報告する。** **☆インタビューを行い、報告する活動（社会、総合的な学習の時間）** **☆インタビューの録音・録画（ＩＣＴ活用）**	1 2 3 4 ～ 5 6	・生活の中で、どのような「きく」があるのかを出し合う。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・話し手との関わりを思い出しながら、きいてみたい話題を幾つか挙げる。 ・その人の人柄を引き出せそうな話題を考え、質問を挙げる。 ・絞った話題について、質問に対する答えを予想し、インタビューのためのメモを書く。 ・P48-49を読み、きき手、話し手、記録者の役割やインタビューの具体的なやり取り、報告のしかたなどについて、全体で確認する。 ・役割の違いによって、きき方がどのように違うのかについて話し合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・話し言葉と書き言葉との違いに気づいている。((1)イ) ・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。((2)イ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) 【態】粘り強く話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、学習の見通しをもってインタビューをしたり、報告したりしようとしている。
５月 ～ ６月	文章の要旨をとらえ、考えたことを伝え合おう			
	見立てる 言葉の意味が分かること **【情報】原因と結果** **７時間（知・技①、読⑥）** **◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア）** **◎事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができ**	1 ～ 2 3 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に	・P51を見て、文化や言葉とものの見方の関わりについて考える。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。	【知・技】 ・文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ) ・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】

	る。(思・判・表C(1)ア) ○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ) ■考えたことを伝え合う。 ☆外国語や異文化への興味をもち、理解する態度を養う題材（外国語、道徳、総合的な学習の時間）	4 5 ～ 6 7	学習のめあてを確かめる。 ・文章を「初め」「中」「終わり」に分けて、各段落の内容を捉え、文章構成と内容を確かめる。 ・P63「原因と結果」、P60-61「言葉に着目しよう」を参考にする。 ・共感できる点や疑問に思う点に変化があったかを考える。 ・筆者の考えに触れながら、文章から読み取れる筆者の考えに対する自分の考えを話す。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) 【態】粘り強く文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
６月	敬語 ２時間（知・技②） ◎日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。(知・技(1)キ) ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ☆礼儀や言葉遣いが、円滑な人とのつながりをつくることについて考える題材（道徳）	1 2	・「問いをもとう」を基に、言葉遣いについて自分なりの考えとその理由をもつ。 ・丁寧語・尊敬語・謙譲語について理解し、ノートにまとめる。 ・どのような表現に変えるとよいかを考え、理由とともにノートに書いて、話し合う。 ・「いかそう」を基に、これからの生活にいかす視点をもつ。	【知・技】 ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。((1)ア) ・日常よく使われる敬語を理解し使い慣れている。((1)キ) 【態】進んで日常よく使われる敬語について理解し、学習課題に沿って使い慣れようとしている。
６月	表現を工夫して、俳句を作ろう			
	日常を十七音で ３時間（書③） ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ◎俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えることができる。(思・判・表B(1)オ) ○俳句の中で漢字と仮名を適切に使い分けることができる。(知・技(1)ウ) ○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■俳句を作る。	1 2 3	・P66の二つの俳句を読み、「問いをもとう」に沿って感想を話し合う。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・P67のメモの例を参考にして、生活の中で気づいたことや、驚いたこと、心が動いたことなどを短い文で書き留める。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・俳句の中で漢字と仮名を適切に使い分けている。((1)ウ) ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えている。(B(1)オ) 【態】粘り強く構成や書き表し方などに着目して文言を整え、学習の見通しをもって俳句を作ろうとしている。
６月	漢字の広場① １時間（書①） ◎第４学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)	1		【知・技】第４学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに

	・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ) ■示された言葉を使って、絵を基にして文を書く。			着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) 【態】進んで第４学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
６月	古典の世界（一） ２時間（知・技②） ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ○古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。(知・技(3)イ) ■古文を音読する。 ☆我が国の伝統と文化を尊重する態度を養う題材（道徳）	1 2	・P71の絵や文章から気づいたことを出し合う。 ・「この本、読もう」で紹介されている本も参考にするとよい。	【知・技】 ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) ・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。((3)イ) 【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って古文を音読しようとしている。
６月	【情報】目的に応じて引用するとき ２時間（書②） ◎引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)エ) ○情報と情報との関係づけのしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ■引用カードを書く。 ☆レポート等を作成する際に、目的に応じて適切な引用を行う活動（理科、社会、総合的な学習の時間）	1 ～ 2 ・「いかそう」を基に、これからの生活にいかす視点をもつ。		【知・技】情報と情報との関係づけのしかたを理解し使っている。((2)イ) 【思・判・表】「書くこと」において、引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ) 【態】進んで目的に応じた引用のしかたを理解し、学習課題に沿って引用カードを書こうとしている。
６月 ～ ７月	伝えたいことを整理して、報告しよう みんなが使いやすいデザイン ８時間（書⑧） ◎目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○情報と情報との関係づけのしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ■報告する文章を書く。 ☆よりよい社会や学校生活をつくろうと考える題材（道徳、総合的な学習の時間） ☆調べたことを報告する文章の書き方を工夫する活動（理科、社会、総合的な学習の時間） ☆インターネットによる情報収集（ＩＣＴ活用）	1 2 3 ～ 4 5	・ユニバーサルデザインについて、知っていることを紹介し合う。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・P79を参考にして、家や町の中にあるものから、誰もが使いやすいように工夫されているものを探す。 ・見つけたものから、特に調べたいものを選ぶ。 ・P80「さまざまな調べ方と特長」を参考に、適切な方法を選んで調べる。 ・P76「目的に応じて引用するとき」の学習を参考にして、調べたことを記録する。 ・P80「さまざまな調べ方と特長」を参考にしながら、集めた情報を整理する方法について考える。	【知・技】情報と情報との関係づけのしかたを理解し使っている。((2)イ) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】粘り強く目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関係づけたりし、学習の見通しをもって報告する文章を書こうとしている。

		6 7 8 ・どんなところがよかったか、そう感じた理由とともに、感想を伝え合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	・P82の作例や二次元コードから見られる作例（全文）を参考にして、文章の構成を考える。 ・小見出しを立てるなどして、まとまりが分かるように書く。 ・本などから引用する場合は、他と区別して書く。 ・まとめは、それまでに述べてきたことと対応させる。	
7月	同じ読み方の漢字 **2時間（知・技②）** **◎第５学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）**	1 2	□□ □□	【知・技】第５学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【態】進んで同じ読み方の漢字の使い分けに関心をもち、これまでの学習をいかしてそれらを理解しようとしている。
7月	夏の夜 **1時間（書①）** **◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア）** **○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ）** **○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。（思・判・表B(1)ア）** **■夏らしいものや様子を文章に書く。** **☆我が国の伝統と文化を尊重する態度を養う題材（道徳）**	1		【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア) 【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って夏らしいものや様子を文章に書こうとしている。
7月	本は友達			
	作家で広げるわたしたちの読書 モモ **5時間（読⑤）** **◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ）** **○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ）** **■本の魅力を伝え合う。** **☆作家を意識して選んだ本を読む活動（図書館活用）**	1 2 ～ 4 5 ・「読書に親しむために」で、本の読み方を押さ	・普段、どのように本を探しているかを想起する。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・さまざまな観点があってよいが、作家に着目した発言が出るようにしたい。	【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。((3)オ) 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) 【態】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本の魅力を伝え合おうとしている。

			える。	
９月	かぼちゃのつるが われは草なり **２時間（読②）** **◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク）** **○詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思・判・表C(1)エ）** **■考えたことを伝え合う。**	1 2	・繰り返しの表現に着目しながら読む。 ・「はい上がり」「葉をひろげ」が、どう繰り返され、何を表しているかを考える。 ・繰り返しの表現が、各連の中で、他の表現とどう結び付いているかについて話し合う。	【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) 【態】進んで比喩や反復などの表現の工夫に気づき、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
９月	どちらを選びますか **２時間（話・聞②）** **◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。（知・技(1)オ）** **◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。（思・判・表A(1)オ）** **■立場に分かれて話し合う。** **☆適切な資料を用意し、相手が納得する説明をする活動（特別活動）**	1 ～ 2	・それぞれのチームが意見を言った後、質疑応答をして、互いの考えの違いをはっきりさせる。 ・各チームは、質疑応答を踏まえて考えを整理し、改めて意見を述べる。 ・先生役は、説得力があったチームを判定する。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。((1)オ) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ) 【態】積極的に互いの立場を明確にして、これまでの学習をいかして立場に分かれて話し合おうとしている。
９月	新聞を読もう **２時間（読②）** **◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。(思・判・表C(1)ウ)** **○文章の構成や、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ）** **○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。（思・判・表C(1)ア）** **■新聞記事を読む。** **☆新聞記事等による情報収集（社会、総合的な学習の時間）**	1 2	・実際の新聞を用意し、構成を確認しながら、気づいたことや疑問点などをノートに書く。 ・新聞のそれぞれの面には、どのような分野の記事が書かれているかを確認する。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】文章の構成や、文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ) 【態】進んで必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりし、学習課題に沿って新聞記事を読もうとしている。
９月	文章に説得力をもたせるには **２時間（書②）** **◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。（思・判・表B(1)イ）** **○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ）**	1 2	・「予想される反論」と「反論に対する考え」があるのとないのとでは、主張の伝わり方がどのように変わるかを考える。 ・「まとめ」で「主張」と同じ内容が繰り返されていることの効果を考える。	【知・技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ) 【態】積極的に筋道の通った文章とな

	■考えたことを伝え合う。		・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	るように文章全体の構成や展開を考え、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。
９月	漢字の広場②	1		【知・技】第４学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)
	１時間（書①）			【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)
	◎第４学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）			【態】進んで第４学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
	・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ）			
	■示された言葉を使って、絵を基にして文を書く。			
９月	物語の全体像を想像し、考えたことを伝え合おう			
～	たずねびと	1		【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（知・技(1)ク）
10 月	**６時間（読⑥）**		・P113を見て、物語の内容を想像する。	【思・判・表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ)
	◎人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(思･判･表C(1)エ)		・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。	【態】粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。
	○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク）	2		
	■考えたことを伝え合う。		・それぞれの場面で「綾」が出会ったものや、登場人物を確かめる。	
	☆戦争や平和について考えさせるとともに、平和を願う心を養う題材（道徳）		・P128「心情の変化をとらえる」を参考に、行動や会話、心情や情景を表す表現に着目して、「綾」の心情の変化を捉える。	
		3		
		～		
	☆紹介された本を選んで読む活動（図書館活用）	4	・「きれいな川」や「ただの名前」が、「綾」にとってどんなものに変わったかを考える。	
			・原爆や戦争に対する「綾」の見方がどう変わったかを考える。	
			・「綾」が訪ねた場所や出会った人が、それぞれ「綾」に何を伝える役割をしていたかについて考える。	
		5		
			・P129「考えをまとめる例」を参考にする。	
		6		
			・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	
			・単元で身につけた力をいかして、P260「チェロの木」を読むことを確かめる。	
			・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	
10 月	漢字の広場③	1		【知・技】第４学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)
	１時間（書①）			【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)
	◎第４学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）			【態】進んで第４学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
	・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ）			
	■示された言葉を使って、絵を基にして文を書く。			

10月	方言と共通語 **２時間（知・技②）** **◎共通語と方言との違いを理解することができる。（知・技(3)ウ）**	1 〜 2	・「問いをもとう」を基に、言葉の中には方言があることに気づく。 ・「方言分布図」を参照し、自分の住んでいる地方で、塩の味を表す言葉としてどう言うか、話し合う。 ・自分の住む地域の方言を知る。 ・「たずねびと」の方言の効果について話し合う。 ・方言を使った場合と共通語を使った場合のそれぞれのよさを考える。 ・「いかそう」を読み、これからの生活にいかす視点をもつ。	【知・技】共通語と方言との違いを理解している。((3)ウ) 【態】進んで方言と共通語の違いに関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。
10月	秋の夕 **１時間（書①）** **◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア）** **○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ）** **○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。（思・判・表B(1)ア）** **■秋らしいものや様子を文章に書く。** **☆我が国の伝統と文化を尊重する態度を養う題材（道徳）**	1		【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア) 【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って秋らしいものや様子を文章に書こうとしている。
10月	たがいの立場を明確にして、話し合おう			
	よりよい学校生活のために **【コラム】意見が対立したときには** **６時間（話・聞⑥）** **◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ）** **◎目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。（思・判・表A(1)ア）** **◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。（思・判・表A(1)オ）** **○思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。（知・技(1)オ）** **■身の回りの問題について、それぞれの立場から考えを伝えて話し合う。** **☆身近な問題に気づき、仲間と共に解決を図る学習（特別活動、社会、総合的な学習の時間）** **☆ＩＣＴ端末の機能を使って、出てきた考えを整理する活動（ＩＣＴ活用）**	1 2 3 4	・学校生活の中でこうなるといいと思うことについて、考えを出し合う。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・新たにしてみたいことや解決したい身近な課題を見つけて、ノートに書く。 ・書いた課題を基にクラスで一つの課題を選び、議題を決める。 ・P138「自分の考えを明らかにするときは」を参考にする。 ・議題についての自分の意見を付箋等に書き出して整理しておく。 ・P138「進め方の例」を参考にする。 ・グループごとに司会や記録などの役割や、時間配分等を決める。 ・「考えを広げる話し合い」「考えをまとめる話し合い」それぞれについて、よりよい意見の伝え方や質問のしかた、意見のまとめ方などを確かめる。	【知・技】 ・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。((1)オ) ・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。((2)イ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ) 【態】粘り強く互いの立場や意図を明確にしながら、学習の見通しをもって身の回りの問題を解決するために話し合おうとしている。

		5 6	・P142「意見が対立したときには」を読み、意見が対立したときの伝え合い方について知る。 ・前時までの学習をいかして話し合う。 ・各自の考えを書いた付箋を利用して、それぞれの考えを整理する。P140「ふせんを使って整理する例」を参考にする。 ・話し合いの中でよかったところを伝え合い、話し合いのよりよい進め方として確かめ合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	
11 月	浦島太郎――「御伽草子」より **１時間（知・技①）** **◎古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。（知・技(3)イ）** **○親しみやすい古文の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア）** **○時間の経過による言葉の変化に気づくことができる。（知・技(3)ウ）** **■古典の文章を読み、知っている話と比べて思ったことを話す。** **☆二次元コードから朗読を視聴（ＩＣＴ活用）**	1	・昔の言葉と今の言葉を比べたり、昔の人のものの見方や感じ方について感想をもったりしてまとめる。	【知・技】 ・親しみやすい古文の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) ・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。((3)イ) ・時間の経過による言葉の変化に気づいている。((3)ウ) 【態】進んで昔の人のものの見方や感じ方を知り、学習課題に沿って古典の文章について思ったことを話そうとしている。
11 月	和語・漢語・外来語 **２時間（知・技②）** **◎語句の由来などに関心をもつとともに、世代による言葉の違いに気づくことができる。（知・技(3)ウ）** **○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ）**	1 2	・「問いをもとう」を基に、違う言い方があることに気づき、使い分け方について考える。 ・P146の①と②を読み、それぞれから受ける印象の違いについて伝え合う。 ・和語、漢語、外来語の定義を理解する。 ・それぞれの特徴をまとめる。 ・「いかそう」を基に、これからの生活にいかす視点をもつ。	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) ・語句の由来などに関心をもつとともに、世代による言葉の違いに気づいている。((3)ウ) 【態】進んで和語・漢語・外来語などの由来に関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。
11 月	資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう			
	固有種が教えてくれること 自然環境を守るために 【コラム】統計資料の読み方 10 時間（書⑤、読⑤） ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。	1	・P149を見て、固有種について知っていることや、自然環境について関心のあることなどを出し合う。 ・自然環境について、自分の考えを文章に書くことを確かめる。	【知・技】 ・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに

	（知・技(2)ア） ◎引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)エ） ◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。(思･判･表C(1)ウ） **○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ）** **○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。（思・判・表C(1)ア）** ■筆者の説明のしかたの工夫について、考えをまとめて話し合ったり、統計資料を根拠にして意見文を書いたりする。 ☆図表・グラフ等と文章を関連させながら、説明されていることを読み取る活動（社会、算数、理科） ☆理由や根拠を明確にしながら自分の考えを記述する活動（社会、理科、家庭科） ☆固有種や環境について目を向けて考える題材（理科） ☆統計資料がある本を読む活動（図書館活用） ☆グラフや表の作成（ＩＣＴ活用）	2 ～ 3 4 ～ 5 6 7 8 ～ 9 10

			もに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	
11月	カンジー博士の暗号解読 **２時間（知・技②）** **◎第５学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）**	1 ～ 2	・同音の漢字が解読の鍵であることに気づく。 ・漢字辞典や国語辞典を使って、漢字を確かめる。	【知・技】第５学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【態】進んで漢字の読み方に関心をもち、これまでの学習をいかして漸次書こうとしている。
12月	古典の世界（二） **１時間（知・技①）** **◎親しみやすい漢文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア）** **○作品の内容の大体を知ることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。（知・技(3)イ）** **■漢文を音読する。** ☆国語に対する関心と、我が国の文化と伝統に対する理解と愛情を養う題材（道徳）	1	・漢文特有の言い回しやリズムを味わう。 ・日本語訳（大意）を参考にして意味を捉え、問答の場面や、漢詩の情景を想像する。 ・内容を自分に引き寄せて感想をもち、紹介し合う。	【知・技】 ・親しみやすい漢文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) ・作品の内容の大体を知ることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。((3)イ) 【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って漢文を音読しようとしている。
12月	漢字の広場④ **１時間（書①）** **◎第４学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）** **・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ）** **■示された言葉を使って、それぞれの県についての文を書く。**	1	・クラスやグループで都道府県すごろくを完成させ、遊んで楽しむ中で、漢字に親しむ。	【知・技】第４学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) 【態】進んで第４学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
12月	伝記を読み、自分の生き方について考えよう			
	やなせたかし――アンパンマンの勇気 **５時間（読⑤）** **◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ）** **◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)オ）** **○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)イ）** **■伝記を読み、自分の生き方について考えたことを交流する。** **☆自分の郷土に目を向けさせる題材（総合的な学習の時間）** **☆伝記の選書（図書館活用）**	1 2 ～ 3 4 5	・P171を見て、やなせたかしについて、知っていることを出し合う。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習の見通しをもつ。 ・P181「この本、読もう」も参考にしながら、興味のある伝記を選ぶ。 ・P182「伝記の表現」から、特色を知る。 ・それぞれの出来事で「たかし」がしたことや考えたこと、人生における意味を確かめる。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。((3)オ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) 【態】積極的に文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを交流しようとしている。
12月	意見文を書いて読み合い、よいところを見つけよう			
	あなたは、どう考える **６時間（書⑥）** **◎語感や言葉の使い方に対する感覚を**	1	・他の人の意見を読んで共感したり、意見をもったりした経験について発表する。	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使

	意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) **◎文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)カ)** **○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ)** **○目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くことで、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)** **■意見文を書く。** ☆自分の関心のあることから題材を決め、詳しく知りたいと思うことを調べる活動(社会、総合的な学習の時間) ☆意見や理由とその根拠を説明する活動(社会、総合的な学習の時間) ☆ＩＣＴ端末に文章構成の表を用意し、付箋機能を使い、文章の構成を考える活動(ＩＣＴ活用)	2 3 4 ～ 5 6	・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・P187の作例を読み、よいところを見つける。 ・P185の投書の例や「題材の例」を参考にして、題材を集めて、その中から決める。 ・P185「主張をはっきりさせるには」を参考に主張の理由や根拠を書き出す。 ・主張や理由、根拠について、説得力があると感じたところや補ったほうがよいところを友達と伝え合う。 ・友達の意見を参考にして、自分の主張に対する反論を予想する。 ・必要に応じて、実際にあった出来事を思い出したり、図書館やインターネットで情報を調べたりする。 ・P186の倉田さんの例を参考に、集めた情報から、どれをどの順番で取り上げるかを決める。 ・P186「学びをいかそう」を参考にして、説得力を意識した文章構成になるように確かめる。 ・P187「考えを表す言葉」を参考にする。 ・P188の感想の例や質問の例を参考にする。 ・P188「感想や質問を伝え合うときは」を参考にして、質問や感想で意見文のよさを引き出したり、気づいたりできるようにする。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	っている。((1)オ) ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くことで、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)カ) 【態】積極的に文章に対する感想や意見を伝え合い、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。
12月	冬の朝 **１時間(書①)** **◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア)** **○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ)** **○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア)** **■冬らしいものや様子を文章に書く。** **☆我が国の伝統と文化を尊重する態度を養う題材(道徳)**	1	・自分が書いた「春夏秋冬らしいものや様子」を見直して、振り返ることができるとさらによい。	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア) 【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って冬らしいものや様子を文章に書こうとしている。
１月	好きな詩のよさを伝えよう **２時間(書①、読①)** **○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク)** **○目的や意図に応じて、感じたことや**	1	・「言葉に着目しよう」を参考に考え、伝え合う。	【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考

	考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア) **○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ)** ■詩を紹介する文章を書く。 ☆詩集を読む活動（図書館利用）	2	・これまでに読んだ詩や詩集などからお気に入りの詩を選び、表現のよさを考える。 ・「この本、読もう」で読書の幅を広げる。	えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア) ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) 【態】積極的に詩を読んでまとめた感想を共有し、学習課題に沿って詩を紹介しようとしている。
1月	言葉でスケッチ **2時間（書②）** **◎目的や意図に応じて事実と感想とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)** **○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク)** **■情景が伝わるように書く。**	1 2	・P194「観点にそってメモに書き出そう。」を参考にする。 ・教材にある子どもの写真を基に、観点を作ってメモを作成する。 ・メモを作成して、観点に沿って整理する。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえ、この後の「書くこと」単元で活用することを確かめる。	【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて事実と感想とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】粘り強く自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習課題に沿って情景が伝わるように書こうとしている。
1月	熟語の読み方 **2時間（知・技②）** **◎第５学年までに配当されている漢字を読むことができる。(知・技(1)エ)**	1 2	□ □	【知・技】第５学年までに配当されている漢字を読んでいる。((1)エ) 【態】進んで熟語の読み方に関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。
1月	漢字の広場⑤ **1時間（書①）** **◎第４学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)** **・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ)** **■示された言葉やつなぎ言葉を使って、道順を案内する文を書く。**	1		【知・技】第４学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) 【態】進んで第４学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
1月	事例と意見の関係をおさえて読み、考えたことを伝え合おう			
	想像力のスイッチを入れよう **6時間（読⑥）** **◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ)** **○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ)** **○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることが**	1 2 〜 3	・P199を見て、「想像力のスイッチ」という言葉から連想することを出し合う。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・文章のまとまりごとに述べられていることをまとめて、概略をつかむ。	【知・技】文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共

	できる。(思・判・表C(1)カ) ■メディアとの関わりについて考えを伝え合う。 ☆メディアとの関わり方について理解し、考えをもつ題材（総合的な学習の時間、日常生活）	4 5 6	・なぜその表現にしたのかを考える。 ・表現に対する自分の意見をもつ。 ・取り入れたい友達の考えを明らかにする。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) 【態】積極的に文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習の見通しをもってメディアとの関わり方について話し合おうとしている。
1月	複合語 2時間（知・技②） ◎語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ）	1 2	・「問いをもとう」を基に、言葉と言葉が結び付いて、新しい意味をもつことに気づく。 ・複合語の組み合わせ方を理解して、設問1に取り組む。 ・長い複合語や略語について理解する。 ・発音や音の高低が変わる複合語があることを確かめる。 ・設問2に取り組む。 ・「いかそう」を基に、これからの生活にいかす視点をもつ。	【知・技】語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【態】進んで複合語の構成や変化について関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。
2月	言葉について考えよう			
	言葉を使い分けよう 3時間（知・技①、書②） ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■手紙を書く。	1 2 3	・P213を読み、「問いをもとう」を基にどんなことを考えていくかの見通しをもつ。 ・「お知らせをどう書き換えればいいか」について話し合う。 ・P214「言葉を選ぶときは」を読んで、選び方について確認する。 ・「お知らせ」をどう書き換えればいいかについて話し合う。 ・P215「言い方を変えるときは」を読んで、よりよい言い方について確認する。 ・相手に合わせて言葉を選び、相手や場に応じた言い方をすることの大切さを確認する。 ・友達と評価し合う。 ・これからの生活や学習にいかす視点をもつ。	【知・技】 ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。((1)ア) ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】積極的に語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習課題に沿って手紙を書こうとしている。
2月	読む人を意識して構成を考え、物語を書こう			
	もう一つの物語 6時間（書⑥） ◎話や文章の構成や展開、話や文章の	1	・別の展開について考えてみたい物語を想起する。	【知・技】話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ)

	種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ■別の物語に書き換える。	2 3 4 5 6	・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・P218「変える部分を考えるときは」を読み、変え方の参考にする。 ・変える部分を友達と紹介し合って、書き換える物語と、書き換える部分について決める。 ・P219「物語の基本的な構成」「塩谷さんの構成メモ」を参考にして、構成メモを作成する。 ・塩谷さんの構成の工夫を見つけて、読む人にどう楽しんでもらおうとしているかを予想する。 ・P219「物語の構成を考えるときは」を読んで、構成を考える参考にする。 ・読む人にどう感じてほしいかを意識して、物語の「どこに」「何を」書けばよいかを考える。 ・物語の場面を想像して、会話文や登場人物の様子、情景などを工夫して書き表す。 ・P220「学びをいかそう」を参考にして、表現を工夫する。 ・推敲して、仕上げる。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【思・判・表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ) 【態】粘り強く文章全体の構成や展開を考え、学習の見通しをもって物語を書こうとしている。
2月	事実と感想、意見とを区別して、説得力のある提案をしよう			
～ 3月	「子ども未来科」で何をする 6時間（話・聞⑥） ◎話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。(知・技(1)イ) ◎話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができる。(思・判・表A(1)イ) ○話の構成や展開、話の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ■提案するスピーチを行う。 ☆自分の関心のあることから題材を決め、詳しく知りたいと思うことを調べる活動（社会、総合的な学習の時間） ☆意見や理由と根拠を説明する活動（社会、総合的な学習の時間） ☆練習時の スピーチの録音・録画（ＩＣＴ活用）	1 2 3 4 5 	・自分が学んでみたいことを考え、発表し合う。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・どんな課題があるかを想起して、自分が考えたいテーマを決める。 ・課題にしようとしているテーマについて、グループで情報交換する。 ・自分が決めたテーマについての課題を挙げて、「子ども未来科」で学べそうなことを考える。 ・P223「情報を集めるときは」を参考に、説得力を上げるための情報を集める。 ・内容や話す順序を考え、スピーチメモを作る。 ・提示する資料を作る。 ・P224「構成を考えるときは」「資料を作るときは」を読んで、参考にする。 ・P225「山下さんのスピーチ」や二次元コードを参考に、効果的な言葉の選び方や話し方、資料	【知・技】 ・話し言葉と書き言葉との違いに気づいている。((1)イ) ・話の構成や展開、話の種類とその特徴について理解している。((1)カ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。(A(1)イ) ・「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) 【態】粘り強く話の構成を考え、学習の見通しをもって提案するスピーチをしようとしている。

		6	の示し方などを工夫する。 ・動画に撮っておき、見返す。 ・話の構成、話し方の両面から、友達のスピーチのよかったところを伝え合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	
３月	登場人物の心情の変化に着目して読み、物語のみりょくを伝え合おう			
	大造じいさんとガン **６時間（読⑥）** **◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ）** **○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク）** **○文章を音読したり朗読したりすることができる。（知・技(1)ケ）** **○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(思･判･表C(1)エ）** **■物語の魅力を伝える文章を書く。** **■物語の魅力が表れているところを朗読する。**	1 2 ～ 3 4 5 ～ 6	・P227を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・P246「言葉に着目しよう」を参考に、「大造じいさん」の心情を表す情景描写の効果について考える。 ・「大造じいさん」の心情が大きく変わるところを探す。 ・P247「選んで読み深めよう」を参考にする。 ・観点が同じ人どうしや違う人どうしで考えを伝え合い、考えを深める。 ・物語の魅力がよく表れている場面や文を選んで、そう思う理由を書き表す。 ・物語の魅力について書いた文章や朗読について、グループで紹介し合い、考えを比べる。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク） ・文章を音読したり朗読したりしている。((1)ケ） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ） ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ） 【態】積極的に意見や感想を共有し、学習の見通しをもって物語の魅力を伝え合おうとしている。
３月	漢字の広場⑥ **１時間（書①）** **◎第４学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）** **・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ）** **■示された言葉を使って、出来事を報道する文を書く。**	1		【知・技】第４学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ） 【態】進んで第４学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
３月	五年生をふり返って **１時間（書①）** **○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア）** **○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶ**	1	・P252「『たいせつ』のまとめ」を読んで、領域ごとに自分が大切だと思ったことを書き加える。 ・学習で使ったノートやワークシートなどを見返して、それぞれの単元、時間で学んだことを想起する。	【知・技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。((1)ア） 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア）

	ことができる。(思・判・表B(1)ア) ■１年間の国語科での学びを振り返って、書く。			【態】進んで考えたことなどから書くことを選び、学習課題に沿って１年間の振り返りを書こうとしている。

６年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
４月	**つないで、つないで、一つのお話** １時間（話・聞①） ◎自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ) ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ■グループで一人１文ずつつないで、一つのまとまった話を作る。 ☆よりよい人間関係の形成に関する題材（特別活動）	1	１扉の詩、目次、P9「国語の学びを見わたそう」を見て、学習の進め方を確かめたり、見通しをもったりする。 ２P17を読み、６年生の国語学習の目標を書く。 ３「つないで、つないで、一つのお話」の活動の目的と流れを確かめる。 ４最初と最後の１文を決め、グループで２周する間にお話が完結するように１文ずつ話をつなぐ。時間に余裕があれば､「もっと楽しもう」に挑戦する。 ５できたお話を発表して感想を伝え合ったり、友達とお話を作ってどう感じたかを振り返ったりする。	【知・技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。((1)ア) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) 【態】進んで話の内容を捉えながら相手の話を聞き、これまでの学習をいかしてお話作りに取り組もうとしている。
４月	**準備** １時間（読①） ◎詩を音読することができる。(知・技(1)ケ) ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ○詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(思・判・表C(1)エ) ■詩の音読を聞き合い、感じたことを伝え合う。 ☆希望と勇気、努力と強い意志に関する題材（道徳）	1	１詩の内容や情景を思い浮かべながら音読する。 ・誰に向かって、何を呼びかけているのかを考える。 ・言葉の順序や繰り返しの表現など、詩に用いられている表現の工夫に着目する。 ・心に強く響いた言葉が、聞く人の印象に残るように、工夫して音読する。 ２音読を聞き合い、互いに感じたことを伝え合う。 ３学習のまとめをする。	【知・技】 ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク) ・詩を音読している。((1)ケ) 【思・判・表】「読むこと」において、詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) 【態】進んで詩を音読し、学習課題に沿って感じたことを伝え合おうとしている。
４月	**伝わるかな、好きな食べ物** **続けてみよう** １時間（書①） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ○文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)カ) ■文章を読み合い、紹介されている食べ物を当て合う。 ☆食生活への関心を高める題材（家庭科）	1	１「伝わるかな、好きな食べ物」の活動の目的と流れを確かめる。 ２紹介する食べ物を決め、見た目や食感などの特徴を想起し、書く内容を考える。 ３比喩を用いるなど表現を工夫しながら、おいしさが伝わるように文章を書く。 ４文章を読み合い、何の食べ物かを当て合う。時間に余裕があれば、「もっと楽しもう」に挑戦する。 ５自分が書いた文章のよさや、友達が書いた文章で印象に残った表現について振り返る。 ６P24「続けてみよう」を読み、年間を通した継続的な活動に取り組む意欲をもち、ノートの書き方について学ぶ。	【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク) 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)カ) 【態】積極的に表現を工夫し、これまでの学習をいかして互いの文章を読み合おうとしている。
４月	**視点や作品の構成に着目して読み、印象に残ったことを伝え合おう**			
	帰り道 ５時間（読⑤） ◎文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ◎登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ■物語を読み、印象に残ったことについて考えをまとめ、伝え合う。	1 2	１学習の見通しをもつ。 ・P25を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ２「律」と「周也」の心情や関係の変化を考える。 ・P38「展開にそって比べよう」を参考に、同じ出来事や言葉に対する登場人物の捉え方や心情、考え方をまとめる。 ・二人の心情が伝わるように音読する。 ・P39「言葉に着目しよう」を参考に、複数の表現を関連づけて、天気雨の前後で二人の心情と関係がどう変わったのかを押さえる。	【知・技】 ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ) ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) 【態】進んで登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉

	☆友情や信頼、相互理解や寛容に関する題材（道徳）	3 4 5	3「律」と「周也」の人物像を考え、交流する。 ・さまざまな視点から二人の人物像を考える。 ・「１」と「２」に分けて書かれていることの効果を考え、友達と話し合う。 4特に印象に残ったことについて考えをまとめる。 ・P39「考えをまとめるときの観点の例」を参考に、構成、内容、表現など、さまざまな観点から考えをもつ。 5考えたことを伝え合う。 6学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	え、学習の見通しをもって印象に残ったことについて考えを伝え合おうとしている。
４月	**公共図書館を活用しよう** １時間（知・技①） ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ☆公共図書館の資料やサービスの利用（図書館活用、社会） ☆公共図書館のウェブサイトや電子図書館の利用（ＩＣＴ活用）	1	1公共図書館を利用した経験を想起する。 ・学校図書館との違いを考える。 2公共図書館で利用できる資料やサービスを確かめ、利用してみたいものを出し合う。 3P42「図書館以外の施設も活用しよう」を読み、図書館以外の施設にどんなものがあるかを知る。 4P43の記録カードの例を参考に、読んだ本や調べたことの記録のしかたを知る。 ・実際に、学校図書館や公共図書館で調べたことを記録カードに書く経験をするとよい。	【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。（(3)オ） 【態】進んで公共図書館の役割や特徴について知り、学習課題に沿って利用してみたいものや本の記録のしかたについて考えようとしている。
４月	**漢字の形と音・意味** ２時間（知・技②） ◎漢字の由来、特質などについて理解することができる。（知・技(3)ウ） ○第６学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）	1 2	1同じ部分をもつ漢字には、音も共通する場合があることを理解する。 ・P44 の設問1に取り組む。 2同じ部分をもつ漢字には、意味のうえでつながりがある場合があることを理解する。 ・P45 の設問2に取り組む。 3学習のまとめをする。 ・形（部分）、音、意味の関係に着目して、漢字を読んだり書いたりしようとする意識をもつ。	【知・技】 ・第６学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） ・漢字の由来、特質などについて理解している。（(3)ウ） 【態】進んで漢字の由来、特質などについて理解し、これまでの学習をいかして漢字を文や文章の中で使おうとしている。
４月	**春のいぶき** １時間（書①） ◎語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■身の回りで感じた「春」を、俳句や短歌に表す。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材（社会、道徳）	1	1春のイメージを広げる。 ・身の回りで感じた「春」を交流する。 ・教科書に示されている二十四節気を確かめたり、俳句、短歌を声に出して読み、おおまかな意味を捉えたりする。 2自分の地域の今の「春」を、俳句や短歌に表す。 ・俳句や短歌の形式や決まりを確かめる。 ・自分が感じた、どのような「春」を伝えたいのかを考え、それが表れるような言葉を選んで作る。 3書いた作品をグループで読み合う。 ・春の感じ方、言葉の選び方や使い方、語感など、内容と表現の工夫に着目して感想を伝え合う。	【知・技】語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ） 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） 【態】積極的に季節を表す語彙を豊かにし、これまでの学習をいかして俳句や短歌を作ろうとしている。
５月	**インタビューをして、自分の考えと比べながら聞こう**			
	聞いて、考えを深めよう ６時間（話・聞⑥） ◎語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことがで	1	1学習の見通しをもつ。 ・学校のよいところや学校にどんな人が関わっているかを想起する。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ）

	きる。(知・技(1)オ) ◎話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ) ○日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。(知・技(1)キ) ■インタビューをする。 ☆よりよい学校生活、集団生活の充実に関する題材（道徳） ☆礼儀や敬語が円滑な人とのつながりをつくることを実感する活動(道徳) ☆インタビューを通して必要な情報を集め、自分の考えを深める教材（社会、総合的な学習の時間） ☆ＩＣレコーダーなどの機器によるインタビューの録音（ＩＣＴ活用）	2 3 ～ 4 5 6	定し、学習計画を立てる。 2インタビューの相手を決め、知りたいことを明らかにする。 ・P49「インタビューの相手を考えるときは」を参考に、学校のよいところとの関連を考えながら、インタビューの相手を決める。 ・P49「インタビューの準備をするときは」を参考に、質問や自分の考えをまとめ、インタビューの準備をする。 3インタビューをする。 ・P50-51 の桜井さんのインタビューを読んだり、二次元コードから動画「インタビューの様子」を視聴したりして、相手の思いや考えを引き出すために気をつけたいことを、友達と出し合う。 ・P50「インタビューをするときは」を参考に、相手の思いや考えを引き出すインタビューを行う。 4話を聞いて考えたことを、伝え合う。 ・考えが深まったり、変化したりした点を明確にする。 5学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	・日常よく使われる敬語を理解し使い慣れている。((1)キ) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) 【態】進んで話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、学習課題に沿ってインタビューをしようとしている。
５月	**漢字の広場①** １時間（書①） ◎第５学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ) ■絵の中の出来事を伝える記事を書く。	1	1教科書の絵を見て、町のあちこちで起こっている出来事を想像する。 2提示された言葉を使い、５年生までに習った漢字を正しく用いて、それぞれの出来事を町の人に伝える記事を書く。	【知・技】第５学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) 【態】積極的に第５学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして記事を書こうとしている。
５月 ～ ６月	**主張と事例の関係をとらえ、自分の考えを伝え合おう** **笑うから楽しい** **時計の時間と心の時間** **【情報】主張と事例** ７時間（知・技①、読⑥） ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ) ■主張を述べた文章を読み、自分の考えを伝え合う。 ☆物事を科学的に考えるよさに目を向ける題材（理科）	1 ～ 2 3 4 5	1学習の見通しをもつ。 ・P53 を見て、心の動きが体や時間とどのように関わっているかを考える。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2「笑うから楽しい」を、筆者の考えと事例の関係に着目しながら読む。 ・どの段落に筆者の考えと、その基となる事例が書かれているかを確かめる。 ・事例を挙げることの効果について考える。 ・この文章に対する自分の考えを友達と話す。 3「時計の時間と心の時間」を読む。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習のめあてを確かめる。 4文章全体の構成を捉える。 ・「時計の時間」「心の時間」の定義を確かめる。 ・「笑うから楽しい」の学習を振り返ったり、P65「主張と事例」を読んだりして、どの段落に筆者の考えが書かれているか、どんな事例が挙げられているかを考える。 5筆者が複数の事例を挙げた意図を話し合う。 ・それぞれの事例について、自分の経験を振り返	【知・技】 ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ) ・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) 【態】進んで事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、学習課題に沿って自分の考えを伝え合おうとしている。

			ったり、実験結果を詳しく読み取ったりする。 ・P62-63「話し合いの例」を参考に、複数の事例を挙げた筆者の意図を話し合う。	
		6	6筆者の主張に対する自分の考えをまとめる。 ・共感・納得したり、疑問に思ったりしたことを、自分の経験を踏まえてまとめる。	
		7	7考えをグループで伝え合う。 8学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	
6月	**文の組み立て** 2時間（知・技②） ◎文の中での語句の係り方や語順について理解することができる。(知・技(1)カ)	1	1言葉の順序について理解する。 ・「問いをもとう」を基に、日本語の文の語順の特徴について、友達と考えを出し合う。 2主語と述語の関係について理解する。 ・一つの文の中に主語と述語の関係が二つ以上出てくる場合があることを知る。 ・主語と述語の関係が複数ある場合には、短い文に分けると読みやすくなることを確かめる。	【知・技】文の中での語句の係り方や語順について理解している。((1)カ) 【態】進んで文の中での語句の係り方や語順について理解し、これまでの学習をいかして設問に取り組もうとしている。
		2	3P67 の設問1 2に取り組む。 4学習のまとめをする。 ・「いかそう」を読み、文の組み立て方について、今後いかしたい場面を考える。	
6月	**表現を工夫して短歌を作り、読み合おう**			
	たのしみは 3時間（書③） ◎短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)カ) ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ○語句の係り方や語順、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ○自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■日常の中の楽しみや喜びを短歌に表す。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材(社会、道徳)	1	1学習の見通しをもつ。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2短歌に表したい場面を決める。 ・P69 の短歌二首を読み、内容を理解する。 ・P69「題材を決めるときは」を参考に、生活の中にある「たのしみ」を探し、そのときの様子や気持ちを細かく思い出す。	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) ・語句の係り方や語順、話や文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見つけている。(B(1)カ) 【態】学習の見通しをもって短歌を作り、積極的に短歌に対する感想や意見を伝え合おうとしている。
		2	3短歌を作る。 ・短歌が５・７・５・７・７の 31 音でできていることを確かめ、「たのしみは」で始まる短歌の形にする。 ・比喩を用いたり、言葉の順序を変えたりし、表現を工夫する。	
		3	4短歌を読み合い、感想を伝え合う。 ・P70「感想を伝え合うときは」を参考に、「たのしみ」を感じた題材や場面の切り取り方、それを伝える言葉の使い方などで工夫している点について交流する。 5学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	
6月	**天地の文** 1時間（知・技①） ◎近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ○古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。(知・	1	1教材文を音読する。 ・リード文を読んで、「天地の文」の成り立ちやおおまかな内容を理解する。 ・二次元コードの音声「天地の文」を参考に、文語調のリズムや響きに親しみ、音読する。 2大意を参考に内容を捉え、繰り返し音読する。 ・時間や週日など、暮らしの基本となる決め事が書かれていることを確かめる。 3学習のまとめをする。	【知・技】 ・近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) ・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。((3)イ)

	技(3)イ) ■文語調の文章を音読する。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材(社会、道徳)		・文語調ならではの言葉の響きやリズム、筆者の考えなどについて感想をもつ。	【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、これまでの学習をいかして音読しようとしている。
６月	**【情報】情報と情報をつなげて伝えるとき** ２時間（書②） ◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■条件に即して、報告書を書き直す。 ☆調べた情報を整理して伝える方法を学ぶ教材（理科、社会、総合的な学習の時間）	1 2	１情報を整理して伝える必要性を理解する。 ・P74 の矢島さんの例を見て、情報どうしの関係を整理することの大切さを感じる。 ・身近な例を取り上げて、情報と情報にはどのような関係があるか、またその関係を伝えるための言葉や表現を知る。 ２P75 の設問（▼）に取り組む。 ・「地産地消」の定義を付け加えたり、情報と情報をつなぐ言葉を挿入したりする。 ・複数の情報の共通点を見つけ、まとめの文を書く。 ３学習を振り返る。 ・「いかそう」を読み、書くときだけでなく、文章を読むときにも、情報と情報との関係に着目するとよいことを確認する。	【知・技】情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。((2)イ) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】進んで情報と情報との関係づけのしかたについて理解を深め、学習課題に沿って報告書を書き直そうとしている。
６月 ～ ７月	**構成を考えて、提案する文章を書こう** **デジタル機器と私たち** ８時間（書⑧） ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ○文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ■考えたことや伝えたいことを基に提案する文章を書く。 ☆デジタル機器への関心を高める題材（ＩＣＴ活用） ☆図書館での情報収集（図書館活用） ☆インターネットによる情報収集や、文書作成ソフトによる制作（ＩＣＴ活用） ☆インタビューによる情報収集(社会、総合的な学習の時間) ☆調べたことを基に、提案する文章を書く活動（社会、総合的な学習の時間）	1 2 ～ 3 4 ～ 5 6 ～ 7 8	１学習の見通しをもつ。 ・デジタル機器との付き合い方を振り返る。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ２グループでテーマを決める。 ・P77「テーマを決めるときは」を参考に、さまざまな観点からテーマを考える。 ３情報を集めて、提案内容を考える。 ・本やインターネットで調べたり、身近な人にインタビューしたりする。 ・集めた情報に関連する体験を出し合い、提案内容を検討する。 ４提案する文章の構成を考える。 ・P78「提案する文章の構成を考えるときは」や、P79「ふせんを使って、構成を考える例」を参考に、文章の構成を話し合う。 ・P278「課題解決に向けて考える」を参考にするとよい。 ・話し合いを振り返り、どのように構成を決めたかをノートに書く。 ５提案する文章を書く。 ・P80「岩木さんたちが書いた、提案する文章」や二次元コードから見られる作例(全文)を基に、提案する文章のイメージを共有し、グループで分担を決める。 ・P79「提案する文章を書くときの言葉」やP74「情報と情報をつなげて伝えるとき」の学習を参考にする。 ・文書作成ソフトを用いてもよい。 ・書き終わったらグループで読み返し、説得力があるかどうかを確かめる。 ６読み合って、感想を伝え合う。 ７学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ) ・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ) 【態】積極的に文章全体の構成や展開を考え、学習の見通しをもって提案する文章を書こうとしている。

７月	**夏のさかり** １時間（書①） ◎語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■季節を感じる語句を使って、手紙を書く。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め､尊重する態度を養う題材(社会、道徳)	1	１夏のイメージを広げる。 ・身の回りで感じた「夏」を交流する。 ・教科書に示されている二十四節気を確かめたり、俳句、短歌を声に出して読み、おおまかな意味を捉えたりする。 ２自分の地域の今の「夏」を、手紙に書く。 ・手紙の形式を確かめる。 ・自分が感じた、どのような「夏」を伝えたいのかを考え、それが表れるような言葉を選んで書く。 ３書いた手紙をグループで読み合う。 ・夏の感じ方、言葉の選び方や使い方、語感など、内容と表現の工夫に着目して感想を伝え合う。	【知・技】語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に季節を表す語彙を豊かにし、これまでの学習をいかして手紙を書こうとしている。
７月	**本は友達**			
	私と本 **星空を届けたい** ５時間（読⑤） ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ) ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ) ■テーマに沿って読んだ本を紹介するブックトークを行う。 ☆ブックトークに向けた読書（図書館活用） ☆共生社会に目を向ける題材（道徳）	1 2 3 4 5	１学習の見通しをもつ。 ・リード文を読み、自分の読書生活を振り返る。 ・「見通しをもとう」を基に、学習計画を立てる。 ・「ブックトーク」という読書活動を知る。 ２本を読むことをきっかけに、どのように知識や考えを広げたり深めたりしているかを話し合う。 ３印象深い本について、友達と話す。 ・これまでに読んだ中で、心に残っている本を想起し、その本がもつテーマについて、友達と話す。 ４テーマに着目して、複数の本を読む。 ・P87「テーマと本の例」やP280「本の世界を広げよう」を参考に、一つのテーマに関する複数の本について、並行読書を始めてもよい。 ５「星空を届けたい」を読み、ブックトークの手順を確かめる。 ・「星空を届けたい」を読んで、印象に残ったことを交流する。 ・P88「ブックトークの例」を読み、「初め」「中」「終わり」の構成で、テーマに沿って本を紹介することを理解する。 ６ブックトークをする。 ７学習を振り返る。 ・「読書に親しむために」で本の読み方を押さえる。	【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。((3)オ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) 【態】進んで読書が自分の考えを広げることに役立つことに気づき、これまでの学習をいかしてブックトークをしようとしている。
９月	**せんねん　まんねん** **名づけられた葉** ２時間（読②） ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ◎詩を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ) ■詩を読み、考えたことを伝え合う。 ☆個性の尊重、努力と強い意志に関する題材（道徳）	1 2	１二つの詩を音読する。 ２表現の工夫に着目して、詩の内容を捉える。 ３二つの詩の題名が表していることや、描かれている思いについて、話し合う。 ・繰り返しの表現や比喩など、表現の工夫に着目する。	【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) 【態】積極的に表現の工夫に気づき、これまでの学習をいかして考えたことを伝え合おうとしている。
９月	**いちばん大事なものは** ２時間（話・聞②） ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。	1	１これからの生活で、どのようなものや考え方を大事にしていきたいか､自分の考えをノートに書く。 ・P102の吹き出しを参考に、多面的に考える。 ２３人一組のグループをつくり、考えを伝え合う。	【知・技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」

	（知・技(2)ア） ◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。(思・判・表A(1)オ) ■メンバーを替えながら、グループで考えを尋ね合う。 ☆よりよい人間関係の形成に関する題材（特別活動） ☆相互理解、寛容に関する題材（道徳）	2	・互いの考えがよく分かるように、理由や、これまでの経験などを尋ね合う。 ・メンバーを二度入れ替え、同様に考えを聞き合ったり、前のグループで出た話題などを共有したりする。 ・最後に、初めのグループに戻って、交流する。 3最終的な考えをまとめ、交流する。 ・変わったり深まったりした自分の考えを、ノートに書く。 ・書いたものを見せ合い、互いの「いちばん大事なもの」や、対話する意義について交流する。	において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ) 【態】積極的に考えを広げ、学習課題に沿って考えを尋ね合おうとしている。
９月	**インターネットでニュースを読もう** ３時間（読③） ◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができる。(思・判・表C(1)ウ) ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ) ■ニュースサイトと新聞を比較して読む。 ☆インターネットによる情報収集（ＩＣＴ活用）	1 2 3	1ニュースサイトの読み方や活用のしかたについて学習することを理解する。 ・P105 脚注を基に、「ニュースサイト」とは何かを確認する。 2ニュースサイトのトップページの特徴を知る。 ・P105「トップページの例」を参考に、トップページの特徴を考える。 ・ニュースサイトを利用した経験を話し合う。 3ニュースサイトと新聞の記事を比べる。 ・P106 の恐竜化石に関するニュースを基に、ニュースサイトと新聞の相違点を考える。 ・P107 の吹き出しとニュースサイトの記事を照らし合わせ、情報の正しい読み取り方について考える。 ・さらに情報を得たいときの検索のしかたについて、友達と話し合う。 4実際にニュースサイトにアクセスし、興味のあるニュースを読んだり、さらに知りたいことを検索したりする。 5学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけている。(C(1)ウ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) 【態】進んでニュースサイトの特徴を理解し、これまでの学習をいかしてニュースサイトと新聞を比較して読もうとしている。
９月	**文章を推敲しよう** ２時間（書②） ◎文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ) ○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解することができる。(知・技(1)カ) ■文章を推敲する。 ☆持続可能な社会に関する題材(社会)	1 2	1P108 と P308 を読み、「推敲」について知る。 2P108 の設問（▼）に取り組む。 ・P108「書きこみの例」を参考に、文章に赤字で書き込む。 3P109 の設問（▼）に取り組む。 ・桜井さんの直した文章と、自分が赤字で書き込んだ点とを比べる。 ・気づいたことを、グループで話し合う。 4学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえ、この後の「書くこと」単元でも活用することを確かめる。	【知・技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解している。((1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) 【態】進んで文章全体の構成や書き表し方などに着目し、学習課題に沿って文章を推敲しようとしている。
９月	**漢字の広場②** １時間（書①） ◎第５学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ) ■絵の中の人々の行動を説明する文章を書く。	1	1教科書の絵を見て、遊園地での人々の行動を想像する。 2提示された言葉を使い、５年生までに習った漢字を正しく用いて、遊園地での人々の行動を、文章に書く。	【知・技】第５学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) 【態】積極的に第５学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。
９月	**作品の世界を想像しながら読み、考えたことを伝え合おう**			
～	**やまなし**	1	1学習の見通しをもつ。	【知・技】

10月	**【資料】イーハトーヴの夢** ８時間（読⑧） ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ◎物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(思・判・表C(1)エ) ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ■物語と資料を重ねて読み、作品世界について考えたことを書いて、伝え合う。 ☆生命や自然との関わりに関する題材（道徳） ☆キャリア形成と自己実現に目を向ける題材（特別活動）	2 〜 3 4 〜 5 6 7 8	・P111を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2「やまなし」の作品世界を捉える。 ・二枚の青い幻灯に描かれた谷川の風景が分かる言葉や文を探す。 ・資料「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方について感想を伝え合う。 3「やまなし」の作品世界を読み深める。 ・作者の独特な表現に着目し、心を引かれる表現から情景を豊かに想像する。 ・かにの様子、水や光の様子、上から来たものについて、「五月」と「十二月」の場面で使われている言葉に着目して対比する。 ・作者がなぜ「十二月」にしか出てこない「やまなし」を題名にしたのかを考える。 4作者が作品に込めた思いを考える。 ・P133「考えをまとめるとき」を参考に、自分の考えを文章にまとめる。 5書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 ・友達の考えと違うところや、「いいな。」と思ったところを伝え合う。 6学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつとともに、P266「物語の世界を作る表現」で表現や構成に着目して本を読むことへの意欲を高める。	・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ) ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) 【態】粘り強く物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりし、学習の見通しをもって作品世界について考えたことを書き、伝え合おうとしている。
10月	**漢字の広場③** １時間（書①） ◎第５学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ) ■絵を基に、冒険物語を書く。	1	1教科書の絵を見て、絵の中の魔法使いを主人公にした冒険物語のストーリーを考える。 2提示された言葉を使い、５年生までに習った漢字を正しく用いて、魔法使いが冒険する物語を書く。	【知・技】第５学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) 【態】積極的に第５学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして物語を書こうとしている。
10月	**熟語の成り立ち** ２時間（知・技②） ◎語句の構成や変化について理解することができる。(知・技(1)オ) ○第６学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)	1 2	1漢字二字の熟語の成り立ちを理解する。 ・漢字二字の熟語には、４通りの成り立ちがあることを理解する。 ・P136の設問1に取り組む。 2漢字三字の熟語の成り立ちを理解する。 ・漢字三字の熟語には、３通りの成り立ちがあることを理解する。 3漢字四字以上の熟語の成り立ちを理解する。 ・普通は、幾つかの語の組み合わせでできていることを確認する。 4P137の設問2に取り組む。 ・新聞や本などから、漢字三字以上の熟語を探してもよい。 5学習のまとめをする。	【知・技】 ・第６学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) ・語句の構成や変化について理解している。((1)オ) 【態】進んで熟語の構成についての理解を深め、学習課題に沿って熟語を探したり組み合わせを考えたりしようとしている。
10月	**秋の深まり** １時間（書①） ◎語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語	1	1秋のイメージを広げる。 ・身の回りで感じた「秋」を交流する。 ・教科書に示されている二十四節気を確かめたり、俳句、短歌を声に出して読み、おおまかな	【知・技】語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語

	感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■身の回りで感じた「秋」を、俳句や短歌に表す。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材(社会、道徳)		意味を捉えたりする。 2自分の地域の今の「秋」を、俳句や短歌に表す。 ・俳句や短歌の形式や決まりを確かめる。 ・自分が感じた、どのような「秋」を伝えたいのかを考え、それが表れるような言葉を選んで作る。 3書いた作品をグループで読み合う。 ・秋の感じ方、言葉の選び方や使い方、語感など、内容と表現の工夫に着目して感想を伝え合う。	句を使っている。((1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に季節を表す語彙を豊かにし、これまでの学習をいかして俳句や短歌を作ろうとしている。
10月	**目的や条件に応じて話し合おう**			
	みんなで楽しく過ごすために **【コラム】伝えにくいことを伝える** 6時間(話・聞⑥) ◎思考に関わる語句の量を増し、話の中で使うことができる。(知・技(1)オ) ◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。(思・判・表A(1)オ) ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ■目的や条件に応じて話し合う。 ☆学校における多様な集団の生活の向上に関する題材(特別活動) ☆親切や思いやり、相互理解や寛容に関する題材(道徳) ☆探究的な課題の解決に関する活動(総合的な学習の時間)	1 2 3 4 ～ 5 6	1学習の見通しをもつ。 ・これまでの学校や地域の行事を想起する。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2議題を確かめる。 ・活動の目的や条件をはっきりさせ、話し合いの見通しをもつ。 3自分の考えを明確にする。 ・P142「考えを書き出した例」を参考に、主張、理由、根拠に分けて、考えを整理する。 4グループの中で役割を決め、進行計画を立てる。 ・司会や記録係などの役割を決める。 ・P142「進め方の例」を参考に、進行計画を立て、時間配分を決める。 5話し合いで気をつけることを考える。 ・P143「考えを広げる話し合いのときは」やP144「考えをまとめる話し合いのときは」、P143の二次元コードから視聴できる動画「話し合いの様子」を参考に、どのようなことに気をつけて話し合うとよいかを考える。 ・P146「伝えにくいことを伝える」を参考に、話し合いでの発言のしかたについて考える。 6進行計画に沿って、話し合う。 ・P143「話し合うときに意識すること」を参考に、話し合いの目的や、それぞれの考えの共通点・相違点、利点・問題点などを明確にする。 ・進行計画に沿って、考えを広げる話し合いと、考えをまとめる話し合いを区別しながら活動を進める。 ・話し合いの過程を共有できるように、記録係を中心に記録を取り、整理しながら進める。 ・話し合いで決まった仮の結論を実際に試し、問題点や改善点が生じた場合には、考えを広げる話し合いとまとめる話し合いを繰り返す。 7話し合ったことをクラスで共有し、感想を伝え合う。 ・話し合いの結果だけでなく、話し合いのしかたのよかった点も伝え合う。 8学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。((1)ア) ・思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っている。((1)オ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ) 【態】粘り強く考えを広げたりまとめたりし、学習の見通しをもって話し合おうとしている。
10月	**話し言葉と書き言葉** 1時間(知・技①)	1	1話し言葉と書き言葉の特徴を理解する。 ・「問いをもとう」を基に、話し言葉と書き言葉の	【知・技】話し言葉と書き言葉との違いに気づいている。((1)イ)

	◎話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。(知・技(1)イ)		違いについて考える。 ・P148 の二次元コードから、話し言葉の例を音声で聞いてもよい。 ・P148-149「話し言葉」、P149「書き言葉」を読み、話し言葉と書き言葉、それぞれの特徴や気をつけるべき点を整理する。 2 P149 の設問1に取り組む。 ・好きな教科やスポーツなど、身近なテーマで友達に短いインタビューをする。 ・聞き取ったことを文章に書いて見せ合い、話し言葉と書き言葉の違いを確かめる。 3 学習のまとめをする。 ・「いかそう」を読み、話し言葉と書き言葉について、今後いかしたい場面を考える。	【態】進んで話し言葉と書き言葉との違いに気づき、これまでの学習をいかして設問に取り組もうとしている。
11 月	**古典芸能の世界** **狂言「柿山伏」を楽しもう** 2時間 (知・技②) ◎古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。(知・技(3)イ) ○親しみやすい古典芸能の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ■狂言を音読したり、演じたりする。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材(社会、道徳)	1 2	1 五つの古典芸能について知る。 ・紹介されている古典芸能について、知っていることを発表する。 ・それぞれの特徴を解説した文章を読み、気づいたことや見てみたいと思ったものを伝え合う。 ・二次元コードから視聴できる動画「まんじゅうこわい」「初天神」を見て、興味を深めてもよい。 2 「柿山伏」を読んで、狂言に親しむ。 ・P153-154「柿山伏」を音読したり、振りを付けて演じたり、二次元コードから視聴できる動画「柿山伏」を見たりする。 3 学習のまとめをする。 ・興味をもった古典芸能を発表したり、昔の人と自分たちの共通点について話し合ったりする。	【知・技】 ・親しみやすい古典芸能の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) ・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。((3)イ) 【態】進んで昔の人のものの見方や感じ方を知り、これまでの学習をいかして「柿山伏」を音読したり演じたりしようとしている。
11 月	**筆者の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう**			
	『鳥獣戯画』を読む **発見、日本文化のみりょく** 10 時間 (書⑤、読⑤) ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ◎目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。(思・判・表C(1)ウ) ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ■学校図書館などを利用し、日本文化について調べたことや、それに対す	1 2 3 4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・P155 を見て、『鳥獣戯画』や日本文化について知っていることを出し合う。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 絵と文章を照らし合わせながら読み、内容を捉える。 3 筆者のものの見方や、それを伝えるための工夫について気づいたことをまとめる。 ・「絵」と「絵巻物」に対する筆者の評価が分かる表現を見つける。 ・P164「筆者の工夫について考えるための観点の例」を参考に、論の展開、表現の工夫、絵の示し方という点から、自分の評価を伝えるための筆者の工夫を見つける。 4 筆者の工夫の中で、特に効果的だと思った点を理由とともにまとめ、グループで報告し合う。 5 学校図書館などで、日本文化について書かれた本を読み、友達と感想を伝え合う。 ・内容だけでなく、説明のしかたや資料の使い方などにも着目する。 6 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。 7 「発見、日本文化のみりょく」の学習の見通しをもつ。 ・本を読んで興味をもった日本文化を、想起する。	【知・技】 ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク) ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。((3)オ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ) 【態】粘り強く論の進め方について考

	る考えを文章に表す。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材(社会、道徳) ☆日本文化についての関連読書（図書館活用） ☆我が国の美術作品の造形的なよさや美しさなどを鑑賞する活動（図画工作）	7 8 ～ 9 10	・「問いをもとう」「目標」を基に、学習のめあてを確かめる。 8 題材を決めて、情報を集める。 ・興味をもった日本文化について調べる。 ・集めた情報は、P311「図を使って考えよう」を参考に、図や表に整理する。 9 文章の構成を考える。 ・P167「文章の構成を考えるときは」を参考に、いちばん伝えたいことが効果的に伝わる構成を考える。 10 日本文化のよさを伝える文章を書く。 ・P168 の作例や、P169 の二次元コードから見られる作例（全文）を読んで、高橋さんの文章の工夫を見つけ、自分の文章にいかす。 ・P168「よさを伝える文章を書くときは」を参考に、簡単に書く部分と詳しく書く部分を明確にしたり、伝えたいことに合った言葉を用いたりする。 11 書いた文章を友達と読み合う。 12 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	えたり、書き表し方を工夫したりし、学習の見通しをもって日本文化のよさを伝える文章を書こうとしている。
11 月 ～ 12 月	**カンジー博士の漢字学習の秘伝** ２時間（知・技②） ◎文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くことができる。(知・技(1)ウ) ○第６学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)	1 2	1 漢字の学習で困っていることや、漢字を練習する際に工夫していることなどを出し合う。 2 漢字学習の三つの秘伝について、教科書に沿って確認する。 3 P171 の設問1 2 3に取り組む。	【知・技】 ・文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。((1)ウ) ・第６学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【態】工夫して漢字学習を行うことに進んで取り組み、これまでの学習をいかして漢字を正しく書こうとしている。
12 月	**漢字の広場④** １時間（書①） ◎第５学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表 B(1)オ) ■絵の中の出来事などを説明する文章を書く。	1	1 教科書の絵を見て、テレビ局の様子や出来事を想像する。 2 提示された言葉を使い、５年生までに習った漢字を正しく用いて、どこで、どんなことが行われていたかなど、見学したことを家の人に分かりやすく伝える文章を書く。	【知・技】第５学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) 【態】積極的に第５学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。
12 月	**物語を読んで考えたことを、伝え合おう**			
	ぼくのブック・ウーマン ４時間（読④） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表 C(1)オ) ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○人物像や物語などの全体像を具体的	1 2	1 学習の見通しをもつ。 ・P173 を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 物語の設定を確かめる。 3 物語全体を通して、「カル」がどのように変化したのかを考える。 ・「カル」の視点から語られていることの効果を考える。 ・「カル」の、「ブック・ウーマン」や本に対する	【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。((3)オ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像している。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、

	に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ■物語を読んで考えたことを、自分の生活や読書経験と結び付けてまとめ、語り合う。 ☆本の役割や読書の意義に目を向ける題材（図書館活用） ☆翻訳作品についての関連読書（図書館活用）	 3 4	見方の変化が分かる表現を探す。 ・本が読めるようになったことに対する「カル」の思いが、物語全体にもつ意味を考える。 4物語を読んで考えたことを、自分の生活や読書経験などと結び付けながらノートにまとめる。 ・P185「生活や読書経験と結び付ける観点の例」「考えをまとめる例」を参考に、考えをまとめる。 5まとめたものをグループで読み合い、考えの共通点や相違点を語り合う。 6学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で、翻訳作品を読むことへの意欲を高める。	自分の考えをまとめている。(C(1)オ) 【態】進んで文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
12月	**相手や目的を明確にして、すいせんする文章を書こう**			
	おすすめパンフレットを作ろう 6時間（書⑥） ◎引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)エ) ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ■推薦したいものを、パンフレットにまとめる。 ☆図書館での情報収集（図書館活用） ☆インターネットによる情報収集（ＩＣＴ活用）	1 2 3 4 ～ 5 6	1学習の見通しをもつ。 ・リード文を読み、元気になったり感動したりした映画や音楽、本などを想起する。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2グループで推薦したいもののテーマを決め、情報を集める。 ・P189「取り上げるものの例」を参考にテーマを決め、どんな人に推薦したいかを考える。 ・P311「図を使って考えよう」を参考に、出てきたアイデアを整理する。 3集めた情報を基に、グループでパンフレットの構成を考える。 ・P190「パンフレットの構成を考えるときは」を参考に構成を考え、分担を決める。 4担当するページの割り付けと、推薦する文章の構成を考える。 5推薦する文章を書く。 ・P192「すいせんする文章の例」を読み、どんな工夫があるかを友達と話し合う。 ・書き終わったら、P192「書き表し方を工夫するときは」を用いて、自分が書いた文章を確認したり、グループみんなで推敲したりする。 ・P108「文章を推敲しよう」で学習したことを振り返り、推敲する際の参考にする。 ・P191「参考にした資料を示すときは」を参考に、裏表紙を書く。 ・グループ全員の分が完成したら、1冊にまとめる。 6読み合って、感想を伝え合う。 ・心を動かされた内容だけでなく、言葉や写真の選び方、割り付けのしかたなど、書き表し方についてもよいところを伝え合う。 7学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。((1)ア) ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ) 【態】進んで引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって推薦したいものをパンフレットにまとめようとしている。
12月	**冬のおとずれ** 1時間（書①） ◎語句と語句との関係について理解	1	1冬のイメージを広げる。 ・身の回りで感じた「冬」を交流する。 ・教科書に示されている二十四節気を確かめた	【知・技】語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に

	し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■季節を感じる語句を使って、手紙を書く。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材(社会、道徳)		り、俳句、短歌を声に出して読み、おおまかな意味を捉えたりする。 2自分の地域の今の「冬」を、手紙に書く。 ・手紙の形式を確かめる。 ・自分が感じた、どのような「冬」を伝えたいのかを考え、それが表れるような言葉を選んで書く。 3書いた手紙をグループで読み合う。 ・冬の感じ方、言葉の選び方や使い方、語感など、内容と表現の工夫に着目して感想を伝え合う。	対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に季節を表す語彙を豊かにし、これまでの学習をいかして手紙を書こうとしている。
1月	**詩を朗読してしょうかいしよう** 2時間(読②) ◎詩を朗読することができる。(知・技(1)ケ) ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○詩を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ) ■お気に入りの詩を朗読して紹介する。 ☆詩集からお気に入りの詩を選ぶ活動(図書館活用)	1 2	1三つの詩を朗読する。 ・詩を読んで感じた様子や思いが伝わるように、工夫する。 2お気に入りの詩を朗読する。 ・これまでに読んだ詩や、詩集などから、お気に入りの詩を選ぶ。 ・選んだ詩について、どこが心に響いたのかを、表現や内容から考える。 ・お気に入りの詩を朗読し、友達に紹介する。詩から感じたことも伝える。	【知・技】 ・詩を朗読している。((1)ケ) ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。((3)オ) 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) 【態】進んで詩を朗読し、これまでの学習をいかしてお気に入りの詩を紹介しようとしている。
1月	**知ってほしい、この名言** 2時間(書②) ◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■名言を紹介する。 ☆本やことわざ辞典、名言集などによる情報収集(図書館活用) ☆インターネットによる情報収集(ICT活用)	1 2	1名言だと思う言葉を集める。 ・本やテレビ、インターネットなどで集めたり、ことわざ辞典や名言集などから選んだりする。 ・集めた言葉を付箋に書き出す。 2集めた言葉を整理する。 ・集めた言葉を、「自分にとって大事か」「みんなに教えたいか」などの点から整理する。 ・P311「図を使って考えよう」を参考にするとよい。 3言葉を選んでカードに書き、読み合う。 ・紹介したい言葉を幾つか選び、誰の言葉か(出典)、その言葉の意味、紹介したい理由などをカードに書く。 ・カードを読み合い、友達が紹介した言葉の中で心に残ったものをノートに書く。 4学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえ、この後の「書くこと」単元でも活用することを確かめる。	【知・技】情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。((2)イ) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】進んで集めた材料を分類したり関係づけたりし、学習課題に沿って名言を紹介しようとしている。
1月	**日本の文字文化** **【コラム】仮名づかい** 2時間(知・技②) ◎文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くことができる。(知・技(1)ウ) ◎語句の由来などに関心をもち、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解することができる。(知・技(3)	1 2	1「問いをもとう」を基に、身の回りで使われている文字や、その特徴について考える。 2P200-201「日本語の表記」を読む。 ・「漢字仮名交じり文」「表意文字」「表音文字」などの言葉を知るとともに、日本語の表記の特徴を理解する。 3P201の設問1に取り組む。 4P201-202「仮名の由来」を読む。 ・平仮名や片仮名の成り立ちを理解する。 ・二次元コードから見られる資料「万葉仮名」を	【知・技】 ・文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。((1)ウ) ・語句の由来などに関心をもち、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。((3)ウ) 【態】進んで仮名及び漢字の由来、特

	ウ） ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材（社会、道徳）		使って、周りにある言葉を万葉仮名で表してもよい。 ・P203「仮名づかい」を読み、注意が必要な言葉について考える。 5学習のまとめをする。 ・P276「言葉の交流」と関連を図ることも考えられる。 ・「いかそう」を読み、漢字や仮名、ローマ字の使い分けに関し、今後にいかす視点をもつ。	質などについて理解し、これまでの学習をいかして適切な表記を考えようとしている。
1月	**漢字の広場⑤** 1時間（書①） ◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■絵の中の様子を説明する文章を書く。	1	1教科書の絵を見て、商店街の通りやお店の中の様子、人々の会話を想像する。 2提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を正しく用いて、商店街の様子を表す文章を書く。	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) 【態】積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。
1月	**筆者の考えを読み取り、テーマについて考えを述べ合おう**			
	「考える」とは 6時間（読⑥） ◎文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)オ） ◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ○思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。（知・技(1)オ） ■複数の文章を読み、考えたことを伝え合う。 ☆一人一人のキャリア形成と自己実現に関する題材（特別活動） ☆真理の探究に関する題材（道徳）	1 2 3 ～ 4 5 6	1学習の見通しをもつ。 ・P205を見て、「考える」とは何かを考える。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2それぞれの文章で筆者が最も伝えたいことを考える。 ・筆者が最も伝えたいことが書かれている叙述を探す。 ・それぞれの筆者が「考える」ことをどのように捉えているかを、短い文で表す。 3筆者がどのように自分の考えを伝えようとしているか、文章の特徴を明らかにする。 ・論の展開のしかたや構成、事例に着目する。 ・P212「言葉に着目しよう」を参考に、筆者の書き方の特徴が表れている言葉や表現を見つける。 4三つの文章を読んで考えたことをまとめる。 ・特に印象に残ったこととその理由、自分の知識や経験と比べて気づいたこと、自分の考えとの共通点や相違点などを書く。 ・「考える」ということに対する、自分の考えを書く。 5グループで考えを伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりする。 6学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。((1)オ) ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) 【態】粘り強く文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
1月	**使える言葉にするために** 1時間（知・技①） ◎第6学年までに配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ☆各教科の学習の中で使われる言葉（社会、算数、理科）	1	1言葉を使う場面や、使い方を理解するために、どのようなことをすればよいか、友達と話し合う。 ・言葉を覚えてよかったこと、読み方や表記が分からなかったときの対処法などについて、考えを出し合う。 2P216の設問（▼）に示されている言葉について、読み方や意味が分からないものがあれば、辞書で調べる。	【知・技】第6学年までに配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【態】進んで第6学年までに配当されている漢字を読み、これまでの学習をいかして、読み方や意味が分からない言葉を辞書で調

				べようとしている。

1月 ～ 2月	**言葉について考えよう** **日本語の特徴** 3時間（知・技①、書②） ○語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ○文の中での語句の係り方や語順について理解することができる。(知・技(1)カ) ○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■日本語の特徴を紹介する文章を書く。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材(社会、道徳) ☆日本語と外国語の違いに気づき、その背景にある文化に対する理解を深める題材（外国語）	1 2 3	1学習の見通しをもつ。 ・P217を読み、「問いをもとう」を基に日本語の特徴を考える。 2同じ内容について書かれた、日本語と英語の文を比べ、気づいたことを話し合う。 ・P218の吹き出しを例に、文の組み立て（語順）、表記などに目を向けて考える。 ・英語以外の言語とも比べる。 3P219の説明や「言語の特徴を考えるときは」を参考に、日本語の特徴をまとめる。 ・文の組み立てと表記に着目して、特徴を押さえる。 ・雨に関係する表現が豊富にある理由を考え、日本語の語彙の特徴を見いだす。 4「日本語のここがおもしろい。」と思うところを紹介する文章を書き、友達と読み合う。 ・教科書やノートを見返して、題材を一つ選ぶ。 ・P66「文の組み立て」、P200「日本の文字文化」、P276「言葉の交流」を参考にするとよい。 ・具体例を基に、おもしろいと思ったところや理由、表現するときの留意点や活用方法などを書く。	【知・技】 ・語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) ・文の中での語句の係り方や語順について理解している。((1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】進んで日本語の特徴について理解を深め、学習課題に沿って日本語の特徴を紹介する文章を書こうとしている。
2月	**書き表し方を工夫して、経験と考えを伝えよう** **大切にしたい言葉** 6時間（書⑥） ◎語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ◎目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■大切にしたい言葉に対する思いを書く。 ☆キャリア形成と自己実現に関する題材（特別活動）	1 2 3 4 ～ 5 6	1学習の見通しをもつ。 ・この6年間で出会った言葉を想起する。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2大切にしたい言葉を選び、関連する経験を書き出す。 ・P198「知ってほしい、この名言」で学習したことをいかす。 ・P311「図を使って考えよう」を参考に、集めた言葉を整理し、優先順位をつける。 3書く分量を確かめ、文章構成を考える。 4下書きをし、友達と読み合って推敲する。 ・P223「読み合って、助言するときは」を参考に、その言葉への思いがより伝わるように助言し合う。 5書き表し方を工夫して清書する。 ・P224-225の作例を読み、工夫している点と、その工夫のよさを話し合う。 ・P224「書き表し方を考えるときは」を参考に、書き表し方を工夫する。 6読み合って、感想を伝え合う。 ・付箋などを使って、感想を伝え合う。 7学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】積極的に自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって大切にしたい言葉に対する思いを書こうとしている。
2月	**資料を使って、みりょく的なスピーチをしよう** **今、私は、ぼくは**	1	1学習の見通しをもつ。	【知・技】

	６時間（話・聞⑥） ◎話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。(知・技(1)イ) ◎資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ○日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。(知・技(1)キ) ○話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができる。(思・判・表A(1)イ) ■自分の思いや考えを伝えるスピーチをする。 ☆キャリア形成と自己実現に関する題材（特別活動） ☆希望と勇気、努力と強い意志に関する題材（道徳） ☆プレゼンテーションソフトを使った活動（ＩＣＴ活用）	

			・それぞれの人物の生き方と、それに対する自分の考えをまとめる。	
		6	5考えたことをグループで伝え合う。 ・P309「言葉の宝箱」を活用するとよい。 6学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	
3月	**漢字の広場⑥** 1時間（書①） ◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ) ■絵の中のさまざまな場面の様子を想像して、文章を書く。	1	1教科書の絵を見て、いつ、どこで、どんなことがあったのか、6年間の学校生活のさまざまな場面の様子を想像する。 2提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を正しく用いて、いつ、どこで、どんなことがあったのかを伝える文章を書く。	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ) 【態】積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。
3月	**卒業するみなさんへ**			
	中学校へつなげよう **生きる** **人間は他の生物と何がちがうのか** 4時間（書①、読③） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ○詩を朗読することができる。(知・技(1)ケ) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ) ○詩を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ) ■詩と文章を読んで、感じたことを伝え合ったり、考えをまとめたりする。 ☆相互理解や寛容、公平や社会正義、よりよく生きる喜びに目を向ける題材（道徳） ☆探究的な見方・考え方を働かせ、自己の生き方を考えていく題材（総合的な学習の時間）	1 2 3 4	1学習の見通しをもつ。 ・P248-249を見て、6年間の国語の学習で取り組んできた活動を想起する。 2 6年間で身につけた力を振り返る。 ・P250「中学校へつなげよう」やP262「『たいせつ』のまとめ」を参考に、身につけた言葉の力を振り返る。 ・特に身についたと思う言葉の力と、その力を今後どんな場面でいかしていきたいかを、P251に書き込む。 3「生きる」を読み、感じたことを友達と話し合ったり、朗読したりする。 4「人間は他の生物と何がちがうのか」を読み、筆者の考えに対する自分の考えをまとめる。 5本単元をまとめる。 ・これからの生活や学習で、どのように言葉と向き合っていきたいかを考える。	【知・技】 ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク) ・詩を朗読している。((1)ケ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、詩を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) 【態】積極的に6年間の国語学習を振り返り、これまでの学習をいかして、詩を読んで感じたことを伝え合ったり、文章に対する自分の考えをまとめたりしようとしている。